2024年度　　研究

科目名(日本語)	**看護研究法**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Methods of Nursing Research	必修	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	坂本　なほ子				
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授）原沢のぞみ（看護学研究科・准教授）後藤喜広（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp　原沢のぞみnozomi.harasawa■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

実際の研究テーマに即して研究方法を応用可能になるような知識や、研究を計画するための考え方を修得する。

【３】　到達目標

基本的な研究のあり方と看護研究に関する理論と実際について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション，自己紹介	坂本
2	研究プロセスと研究計画	研究プロセスを概観する	坂本
3	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの設定について考える	坂本
4	文献レビュー①	文献検索方法について学ぶ	原沢
5	文献レビュー②	文献レビュー方法（文献管理方法を含む）について学ぶ	原沢
6	文献レビュー③	文献の読み方、まとめ方について学ぶ	原沢
7	研究の枠組み	枠組みについて学ぶ	坂本
8	量的研究方法論	研究デザインについて学ぶ	坂本
9	量的測定の概念	量的測定の考え方について学ぶ	坂本
10	質的研究①	質的研究とは何かについて学ぶ	後藤
11	質的研究②	質的研究とは何かについて学ぶ	後藤
12	質的研究③	質的データの収集方法について学ぶ	後藤
13	質的研究④	質的データの収集方法について学ぶ	後藤
14	質的研究⑤	質的データの収集方法について学ぶ	後藤
15	質的研究⑥	質的データの分析方法について学ぶ	後藤
16	質的研究⑦	質的データの分析方法について学ぶ	後藤
17	質的研究⑧	質的データの分析方法について学ぶ	後藤
18	質的研究⑨	質的データの分析方法について学ぶ	後藤
19	量的データの収集	量的データの収集方法について学ぶ	坂本
20	統計解析法①	解析前の準備、方法について学ぶ	坂本
21	統計解析法②	主な解析法について学ぶ	坂本
22	統計解析法③	主な解析法について学ぶ	坂本
23	研究計画書の作成①	研究計画書作成の目的、配慮すべき事項について学ぶ	坂本
24	研究計画書の作成②	研究計画書作成時のポイントについて学ぶ	坂本
25	研究のクリティーク①	量的研究についてクリティークをした結果についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う	原沢
26	研究のクリティーク②	質的研究についてクリティークをした結果についてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う	原沢
27	研究のクリティーク③	自己の研究課題に向けて研究クリティークの方向性を検討しプレゼンテーション、ディスカッションを行う	原沢

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。
60時間の時間外学習を行うこと。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(40%)、レポート(60%)から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容を3段階で評価し返却する。

【9】　教科書

バーンズ＆グローブ（著），黒田裕子他（翻訳），看護研究入門　原著第9版，ELSEVIER.（2023）

【10】　参考書

坂下玲子他（著），系統看護学講座　別巻　看護研究，医学書院．(2023)
牧本清子、山川みやえ（著），よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版，日本看護協会出版会．(2020)
Judith Garrard他（著），看護研究のための文献レビュー―マトリックス方式，医学書院．(2012)
谷津裕子（著），「Start Up 質的看護研究　第2版」，Gakken．(2015)

【11】　備考(関連科目等)

自身の卒業研究について再確認しておくこと。

科目名(日本語)	**看護学特別研究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Research	必修	実習	2年次･通年	6単位 270時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）　岸恵美子（看護学研究科・教授）　横井郁子（看護学研究科・教授） 小林寅喆（看護学研究科・教授）　伊藤桂子（看護学研究科・教授）　菊池麻由美（看護学研究科・教授） 原三紀子（看護学研究科・教授）　夏原和美（看護学研究科・教授）　湯浅玲奈（看護学研究科・教授） 坂本なほ子（看護学研究科・教授）富岡由美（看護学研究科・教授） 藤野秀美（看護学研究科・准教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授） 成澤明　（看護学研究科・准教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）原沢のぞみ（看護学研究科・准教授） 吉朝加奈（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	各指導教員に確認すること。				
オフィスアワー	各指導教員に確認すること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【2】　授業概要

看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、修士論文を作成する。研究を通じて研究者として必要な態度（謙虚さ、忠実性、真摯さ）を獲得する。

【3】　到達目標

1.興味・関心のある現象に関する課題を明らかにするための文献検討、文献クリティークを行う能力を習得する。
2.興味・関心のある現象について、フィールドワークに参加し、諸理論を用いて現象を捉える能力を習得する。
3.フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる
4.研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
5.課題の研究的探索に有効な研究方法を明確にし、研究計画を立案できる。
6.研究を進めるにあたり倫理的配慮について理解し、説明できる。
7.収集したデータを分析する能力を習得する。
8.得られた知見を論文として表現する能力を習得する。
9.データ収集から論文作成、成果発表までのプロセスにおいて研究者として必要な態度（謙虚さ、忠実性、真摯さ）を獲得する。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	各指導教員・副指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、修士論文の作成まで研究の過程を展開する。	各担当教員
2	指導体制	指導教員・副指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

【6】　事前・事後学習とその時間

各指導教員が適切な方法により実施する。

【７】　評価方法・基準
課題への取り組み（20%）、研究計画書（20%）、論文（60%）から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【９】　教科書
適宜提示する

【10】　参考書
適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)
各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

科目名(日本語)	助産学課題実習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Practicum in Midwifery	選択	実習	2年次･通年	6単位 270時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美　(看護学研究科・教授) 渡邉幸恵　(看護学研究科・講師) 加藤知子　(看護学研究科・講師) 山本由香　(看護学研究科・講師) 疋田仁美　(看護学部・助教) 伏見枝莉　(看護学部・助教)				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom　zoom PC

【２】　授業概要

周産期にある妊産褥婦とその家族を対象としたケアについて、文献検討を通して課題を抽出し、実習計画を立案し、立案した計画に沿ったケアを母子に提供する。また、自己の助産課題に対し研究計画を立案しデータ収集・分析を行い、課題研究論文を作成する。

【３】　到達目標

1.周産期にある妊産褥婦とその家族に対する助産について、各自の関心に沿った課題に関する文献検討を行い、実習計画を立案することができる。
2.対象者に対しEvidenceに基づく助産診断および助産ケアを実施することができる。
3.研究課題を明確にし、研究計画を立案・データの分析を行い課題研究論文を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	課題の抽出を行い、実習計画を立案する。実習計画に沿って妊産褥婦または新生児を受持ち助産診断のもと助産ケアを実施する。実習を通して、多様な文化や生活環境にある女性のケアを実践することで、個別性を重視し、周産期各期に応じた質の高い管理・ケアのあり方について学ぶ。 また、これまでの学びより助産学の課題を明らかにし、課題研究として必要なデータを収集、データの分析を行い、課題研究論文を作成する。	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 周産期医療施設 診療所 助産所	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

詳細は、別途要項を参照のこと。

【７】　評価方法・基準

課題の明確化、実習計画の立案、実習への取り組み、課題研究論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。実習時間等の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

ゼミを通して、随時コメントする。

【９】　教科書

谷津裕子「Startup 質的看護研究」 Gakken・2017年(第2版)

【10】　参考書

特に指定しない。

【11】　備考(関連科目等)

各指導教員のもとで、既習の特論、演習、実習での学びや文献検討で得たエビデンスなどを統合した事前学習を丁寧に行うこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	小児看護学高度実践看護実習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Practicum for CNS in Child Health Nursing	選択	実習	1～2年次・秋	10単位 500時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）、河上智香（看護学研究科・准教授）、天野里奈（看護学研究科・助教）、高山充（看護学研究科・助教）、高橋浩之（東邦大学医学部・医師）、竹田佳子、長順子（兼担・小児看護専門看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子　akiko.araki■med.toho-u.ac.jp　※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	荒木暁子　毎週木曜日　12:30 ～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom, Google classroom

【２】　授業概要

１．小児看護専門看護師のシャドウイングを通して、高度な看護実践と役割を理解し、自らの看護実践を省察することを通して、自身の課題や強みを捉えていく。＜役割学習＞
２．複雑な健康障害を持つ小児を受け持ち、専門看護師としての役割・機能を踏まえ、指導医や小児看護専門看護師、教員などのスーパーバイズを受け、計画・実施・評価する。＜診断・治療＞＜高度実践＞
実習場所：東邦大学医療センター大森病院　小児科病棟、外来、および関連部署

【３】　到達目標

小児看護専門看護師の役割を理解し、専門看護師に向けた自らの課題と強みを明確にする。
医師との調整を必要とする看護ケアの展開に焦点を置き、高度実践看護師として、患者の治療や薬剤について看護の視点で検討・調整し、医師と調整できる。
複雑な健康問題をもつ小児が、よりよい健康状態を保ち成長発達を遂げられるように、小児とその家族を支援するためのケアとキュアを統合した高度な実践能力を修得する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習オリエンテーション・計画立案	実習の進め方を概説する。自身のテーマやサブスペシャルティに応じて、実習フィールド、実習内容などを勘案し、実習計画を立案する。	荒木・河上
2	＜役割学習＞関連	（2年春学期3週間2単位） 小児看護専門看護師による高度実践・倫理調整・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の６つの役割を学ぶ。 専門看護師との討議および看護実践を通した、自らの課題と強みを明確化する。 実習先：東邦大学医療センター大森病院 ・患者を受け持ち、小児看護専門看護師のシャドウイングを通して、小児看護専門看護師の行う高度実践・倫理・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の各役割の実際を学ぶ ・シャドウイングに際し、施設の組織分析を行う ・小児看護専門看護師の活動の意図や、効果的に活動するための日々の取り組み（関係性の構築やシステム作りなど）を含め、シャドウイング後にディスカッションすることで学びを深める ・レディネスに応じ、学生は小児看護専門看護師の活動に補助的あるいは主体となり参画して実践・評価を行う ・シャドウイングとディスカッション、活動への参画を振り返り、専門看護師に向けた自らの課題と強みを明確にする	荒木、竹田佳子、長順子（兼担・小児看護専門看護師）
3	<診断・治療＞関連	（2年秋学期3週間2単位） 継続して治療を受ける小児を受け持ち、臨床医の指導のもと、高度実践看護師として治療や薬剤について看護の視点で検討・調整し、よりよい看護の提供につなげる。・受け持ち患児の看護実践を行う上で、治療や薬剤の調整に必要となる判断ならびにその過程を理解し、医師との調整の元、看護実践を行う。（10例以上） ・受け持ち患児の看護を提供する中で必要となる治療、検査、薬剤等の判断内容とその根拠を理解する。 ・受け持ち患児のケアを行う上で、治療・薬剤調整など医師との調整が必要な事例について、その判断を明確にし、医師のスーパービジョンを受け評価する。	河上、高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
4	<高度実践＞関連	(2年通年9週間6単位) 複雑な健康問題をもつ小児と家族に対して、倫理的な視点をもちケアとキュアを統合した高度な技術を用いて事例を分析し、実施・評価する。 看護職者への教育や，コンサルテーション・調整を実施する。研究結果を、看護実践や評価に活用する。	荒木・河上・天野・高山、竹田佳子、長順子（兼担・小児看護専門看護師）

【6】　事前・事後学習とその時間

高度実践看護の役割に関する学習、および、受け持ち児の病態・生理・治療に関する学習について、臨床医や専門看護師のスーパーバイズのもと適宜事前・事後学習を行う。

【7】　評価方法・基準

実習評価表を用いた実習実施状況の評価50%
レポート50%（診断・治療10例以上、実践機能５例以上、コンサルテーション・調整・倫理調整・教育は各２事例以上）
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【8】　フィードバック方法

実習前・中・後で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

- Ann Hamric 他, 中村美鈴 訳:　高度実践看護－統合的アプローチ, へるす出版, 2017
- Patti Rager Zuzelo: The Clinical Nurse Specialist Handbook, Jones and Bartlett, 2009
- Sonya R. Hardin and Roberta Kaplow: Synergy for Clinical Excellence, AACN, 2004
- Duffy, M., Dresser, S., Fulton, J.: Clinical Nurse Specialist Toolkit A Guide for the New Clinical Nurse Specialist (2nd Edition). National Association of Clinical Nurse Specialist,Springer, 2016.

【10】　参考書

適宜紹介、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

既習の特論・演習での学びや文献検討でえたエビデンスなどを統合して事前学習を丁寧に行うこと。詳細は、小児看護専門看護師高度看護実践実習実習要項を参照すること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。
この科目は、高度看護実践実習単位取得に関する申し合わせ事項（平成25年4月1日，令和5年4月1日改訂）に基づき、分割した科目立て（分割科目という）となっており、成績は分割されたそれぞれの科目で認定する。

科目名(日本語)	**基礎看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing ArtsⅠ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp 小坂志保shiho.kosaka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【２】　授業概要

実践科学としての看護学の構造・看護の知の特徴についての理解を深めると共に、文献の検索・講読の方法を知り、論文をクリティカルに読む力を涵養する。文献検討を通して、関心のある看護現象の関連概念を整理し、自身のResearch questionを明確化する。

【３】　到達目標

1.看護学の発展過程、看護の知の特徴を捉え、関心のる看護やケアの現象を説明することができる。
2.自分が探求しようとする課題周辺の看護現象についての文献を分析的に読むことができる。
3.自分の実践を振り返り、自分が探求しようとする課題を明確化し、記述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	看護と看護科学	科目のオリエンテーション 看護学の発展の経緯と実践の科学としての看護学の特徴 看護学研究の研究方法 課題提示	菊池・小坂
4-7	論文クリティークの方法	論文クリティークの意義 論文クリティークの方法 文献の検索	菊池・小坂・図書館司書
8-17	文献検索・クリティーク演習	キーワードの決定 文献の検索 検索結果の保存と管理	菊池・小坂
18-21	量的研究のクリティークの実際	プレゼンテーション 討論	小坂・菊池
22-25	質的研究（質的記述的研究）のクリティーク	プレゼンテーション 討論	菊池・小坂
26-27	まとめ	論文クリティークとクリティカル・シンキング サブストラクション	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前に準備を行って参加すること。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返りながら、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名(日本語)	**基礎看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing ArtsⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小坂　志保				
担当教員	小坂志保（看護学研究科・准教授）菊池麻由美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp 小坂志保shiho.kosaka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

・勘や経験に頼ったり、単にマニュアルやプロトコルに則るのではなく、最新のevidenceをもとに看護実践を行うことや、臨床看護師の看護研究を促進できる人材育成を目標として、自身のテーマに沿った国内外の文献を検索し、精読することによって具体的に根拠に基づく看護ケア(Evidence based practice:EBP)の在り方について検討し、考察を深め他者へ効果的なプレゼンテーションができる能力を養う機会とする。
・自身の看護実践と文献検討を照らし合わせながら今後の研究テーマについて検討し、Research Questionの創出を目指す。

【３】　到達目標

・看護の現場で根拠に基づいた実践を行い、様々な看護ケアを科学的・哲学的に検証し探求することを目的として、国内外の文献を検索・検討・抄読したうえで、自身の考えを論理的に説明することができる。
・自身の看護実践をもとにテーマを創出し、看護ケアに関連する文献を分析的・批判的にに読み、まとめ・プレゼンテーションすることができる。
・看護実践と文献検討から、clinical questionをresearch questionに転換し研究テーマを明確化できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	根拠に基づいた実践の導入	科目のオリエンテーション 根拠に基づいた実践(Evidence Based Practice)の紹介	小坂・菊池
2	根拠に基づいた実践の探求	看護実践とEvidence Based Practiceの関連について検討	小坂・菊池
3-5	文献検索方法	Pubmed/CINAHLを用いてResearch questionに基づく文献検索の実践	小坂・菊池・メディアセンター担当者
6	プレゼンテーション方法	英語文献の紹介方法	小坂
7-8	文献検索	関心ある自身のテーマに沿って関連文献の検索	小坂
9-12	文献検討(量的研究)	量的研究論文の精読	小坂
13-15	プレゼンテーション(量的研究)	量的研究論文について自身の考察とともにプレゼンテーション	小坂・菊池
16-18	プレゼンテーション(グラウンデッド・セオリー)	質的研究論文(グラウンデッド・セオリー)の精読 質的研究論文(グラウンデッド・セオリー)について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
19-21	プレゼンテーション(エスノグラフィー)	質的研究論文(エスノグラフィー)の精読 質的研究論文(エスノグラフィー)について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
22-24	プレゼンテーション(現象学的アプローチ)	質的研究論文(現象学的アプローチ)の精読 質的研究論文(現象学的アプローチ)について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
25	Clinical question から Research questionへの転換	文献検討を通して、Clinical QuestionからResearch Questionへの転換を行う	菊池・小坂
26	Research Questionの創出	自身の研究テーマとなるResearch questionを見出す	菊池・小坂
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。
あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

科目名(日本語)	**基礎看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing Arts Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）渡邉奈穂（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp 小坂志保shiho.kosaka■med.toho-u.ac.jp 渡邉奈穂naho.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	授業開講日13:00～17:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマで参与観察・インタビューを計画、実施し、その結果に基づき関心テーマについて考察する。看護職者の実践や経験に関する質的データの収集方法を演習する。

【３】　到達目標

看護の本質や看護職者の生成と発達に焦点を当てた先行研究を多角的に検討し、看護職者の実践や経験を対象として研究する方法論を説明する。
各自の看護実践を振り返ることで見出した関心テーマについてのインタビュー・参与観察を行う。
上記の経験を踏まえて、看護職者の実践や経験を記述する方法論について実践的、論理的に説明する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	科目のオリエンテーション 質的研究方法におけるデータ収集と演習の方法	菊池・小坂・渡邉
2-3	質的研究の方法	研究デザインと哲学 データ分析方法	菊池・小坂・渡邉
4-6	データ収集方法	アンケート インタビュー 参与観察	菊池・小坂・渡邉
7-12	データ収集演習の準備	演習の依頼方法 計画書・依頼書・同意説明書・同意書・同意撤回書作成 演習依頼	菊池・小坂・渡邉
13-18	データ収集演習	インタビューまたは参与観察の実施	菊池・小坂・渡邉
19-21	データの作成	逐語録または参与観察記録の作成	菊池・小坂・渡邉
22-26	データの分析・プレゼンテーション	データの分析 演習成果の報告	菊池・小坂・渡邉
27	まとめ	演習総括	菊池・小坂・渡邉

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
各自の関心に沿って進める。臨床における参与観察・インタビューに基づいて演習する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

ホロウェイ　ウィーラー、野口道子訳、ナースのための質的研究入門、医学書院

【10】　参考書

別途、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名(日本語)	**基礎看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing ArtsⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）渡邉奈穂（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp 小坂志保shiho.kosaka■med.toho-u.ac.jp 渡邉奈穂naho.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	事業開講日13:00～17:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

看護職者の実践や経験に関する質的データの分析方法を演習する。各自の看護実践や関心に沿ってテーマを設定し、実際に調査を行い、得られたデータの分析、分析結果の報告を行うことで、課題の明確化および研究方法の修得の機会とする。

【３】　到達目標

看護職者の実践や経験について実際の調査する演習を通して、各自の研究課題を明確化・言語化する。
各自の関心に沿って選択したテーマに即してデータを収集し、そのデータを分析する。
分析結果をまとめ、各自の関心に即した特定の実践や経験を記述する。
これらの演習を踏まえて、各自の研究課題に適した研究方法論を説明する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション 質的なデータの分析方法と演習方法	菊池・小坂・渡邉
2-3	データ分析方法	質的記述的方法・GT・GTA・現象学的アプローチ	菊池・小坂・渡邉
4-6	データ作成	逐語録作成	菊池・小坂・渡邉
7-9	データ分析①	データの切片化	菊池・小坂・渡邉
10-15	データ分析②	データのコード化	菊池・小坂・渡邉
16-21	データ分析③	データのカテゴリー化 ネーミング	菊池・小坂・渡邉
22-24	データ分析④	俯瞰図の作成	菊池・小坂・渡邉
25-26	プレゼンテーション	演習成果の報告	菊池・小坂・渡邉
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂・渡邉

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
演習の成果を研究計画書の形でまとめる。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

ホロウェイ　ウィーラー、野口道子訳、ナースのための質的研究入門、医学書院

【10】　参考書

別途、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Health Nursing1	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美 yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom、PC

【２】　授業概要

女性の健康問題に関して論じられた成書から、女性の心身に関する知識を科学的に捉え、健康教育についての技術、能力を養う。講義形式とゼミナール形式で課題を基に討議しながら進める。

【３】　到達目標

1. ライフサイクルの各期を生きる女性の心身の健康問題について説明できる。
2. 女性の健康的な生き方をサポートするための健康教育のあり方を具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	女性のライフサイクルと支援①	科目オリエンテーション プレコンセプションケアについて①	富岡
2	女性のライフサイクルと支援②	プレコンセプションケアについて②	富岡
3	女性のライフサイクルと支援③	思春期の健康・成熟期・老年期の女性の健康と支援①	富岡
4	女性のライフサイクルと支援④	思春期の健康・成熟期・老年期の女性の健康と支援②	富岡
5	女性のライフサイクルと支援⑤	思春期の健康・成熟期・老年期の女性の健康と支援③	富岡
6	女性のライフサイクルと支援⑥	思春期の健康・成熟期・老年期の女性の健康と支援④	富岡
7	女性のライフサイクルと支援⑦	思春期の健康・成熟期・老年期の女性の健康と支援⑤	富岡
8	健康教育①	健康教育について	富岡
9	健康教育②	健康教育の実践について	富岡
10	健康教育③	カウンセリングの理論	富岡
11	健康教育④	カウンセリングの実際について	富岡
12	健康教育⑤	思春期の健康課題：健康教育①	富岡
13	健康教育⑥	思春期の健康課題：健康教育②	富岡
14	女性への健康教育①	女性の健康課題：思春期及び、更年期の女性の健康教育①	富岡
15	女性への健康教育②	女性の健康課題：思春期及び、更年期の女性の健康教育②	富岡
16	思春期の健康教育①	思春期の性教育①	富岡
17	思春期の健康教育②	思春期の性教育②	富岡
18	家族について①	家族について②	加藤
19	家族について②	家族の在り方と支援②	加藤
20	セクシュアリティの理解①	マイノリティの性と社会①	渡邉
21	セクシュアリティの理解②	マイノリティの性と社会②	渡邉
22	女性の身体活動①	身体活動と健康	富岡
23	女性の身体活動②	妊娠期の身体活動①	富岡
24	女性の身体活動③	妊娠期の身体活動②	富岡
25	女性の身体活動④	産後の身体活動①	富岡
26	女性の身体活動⑤	産後の身体活動②	富岡
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式にて課題に対する自己学習を重視する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題に対する取り組みと授業への参加30%、レポート70%にて総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【9】　教科書

我部山キヨ子他編「助産学講座　基礎助産学［3］母子の健康科学」医学書院・2023年（第6版）
堀内成子、片岡弥恵子編「助産学講座 助産診断・技術学Ⅰ」医学書院・2022年（第6版）

【10】　参考書

課題に沿ってその都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ提示した資料等がある場合は目を通しておくこと。
必要に応じてリアルタイムでの遠隔授業も行う。その際は事前に連絡する。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師） 山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom、PC

【２】　授業概要

性と生殖、特に周産期における研究の動向やケアの在り方を追求する。周産期に関連する分野の研究内容を解釈し評価する。また、周産期に関わる専門職としての在り方について探究する。

【３】　到達目標

1. 母性・助産領域における様々な身体的・心理社会的健康問題に関する研究課題を文献的に考察し、説明できる。
2. 女性が安全で快適な妊娠・出産を体験できるための支援方策を具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	研究の動向①	科目オリエンテーション 生殖と健康に関する研究の動向①	富岡
2	研究の動向②	生殖と健康に関する研究の動向②	富岡
3	研究の動向③	生殖と健康に関する研究の動向③	富岡
4	研究の動向④	母性看護・助産活動と研究①	富岡
5	研究の動向⑤	母性看護・助産活動と研究②	富岡
6	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価①	渡邉
7	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価②	渡邉
8	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価③	渡邉
9	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価④	渡邉
10	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価⑤	渡邉
11	研究課題の文献的考察	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価⑥	渡邉
12	妊娠期の助産師の役割	妊娠期の助産師の関わり、助産師外来の評価①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
13	妊娠期の助産師の役割	妊娠期の助産師の関わり、助産師外来の評価②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
14	院内助産での助産師の役割	院内助産での助産師の役割、関係者との連携①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
15	院内助産での助産師の役割	院内助産での助産師の役割、関係者との連携②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
16	分娩期の助産師の役割①	分娩期の助産師の関わり、よいお産とは①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
17	分娩期の助産師の役割①	分娩期の助産師の関わり、よいお産とは②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
18	分娩期の助産師の役割②	分娩の安全・安心・安楽の調和と助産師の役割①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
19	分娩期の助産師の役割②	分娩の安全・安心・安楽の調和と助産師の役割②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
20	産褥期の助産師の役割	産褥期の助産師の関わり①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
21	産褥期の助産師の役割	産褥期の助産師の関わり②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
22	不妊カップルの支援	不妊の現状とカップルに対するケア①検査	富岡・渡邉
23	不妊カップルの支援	不妊の現状とカップルに対するケア②治療	富岡・渡邉
24	不妊カップルの支援	不妊の現状とカップルに対するケア③支援	富岡・渡邉
25	周産期のメンタルヘルス	周産期におけるスクリーニング	渡邉・富岡
26	周産期のメンタルヘルス	周産期における精神疾患	渡邉・富岡
27	周産期のメンタルヘルス	周産期におけるメンタルヘルスの支援	渡邉・富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題に対する取り組みと授業への参加30%、レポート70%にて総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって、評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

1）谷津裕子「Start Up 質的看護研究」学研メディカル秀潤社･2014年（第2版）

【10】　参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。
原則、対面形式にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Reproductive Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授）渡邉幸恵　（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師）山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日　10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日　12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日　12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日　12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日　12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日　12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom、PC

【２】　授業概要

少子社会と出産・育児の問題、若者の性行動と性感染症の問題、生殖医療の発達とそれに伴う問題、中高年の健康問題など今日的な課題について概観する。受講生が自ら関心のある領域の課題を追究できるように進める。

【３】　到達目標

1. 母性、助産、性と生殖などの中から各自の関心のある領域やテーマの研究論文を検索し、最近の研究動向や話題について説明できる。
2. 研究論文の研究デザインや研究方法等を信頼性・妥当性の見地からクリティークすることを試みることができる。
3. クリティークのプロセスを通じて、各自が関心のある領域の課題を明確にし、自己の研究課題を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目オリエンテーション・研究の動向①	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について①	富岡
2	研究の動向②	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について②	加藤
3	研究の動向③	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について③	渡邉
4	研究の動向④	母性・助産・性と生殖に関する最近の研究動向について④	山本
5	研究計画①	量的研究の方法、研究論文の構成	加藤
6	研究計画②	質的研究の方法、研究論文の構成	山本
7	文献検討	研究の文献検討の意義と方法	加藤・渡邉
8	研究倫理	研究倫理	富岡
9	論文のクリティーク①	量的研究論文のクリティーク①	加藤
10	論文のクリティーク②	質的研究論文のクリティーク①	山本
11	論文のクリティーク③	量的研究論文のクリティーク②	加藤
12	論文のクリティーク④	質的研究論文のクリティーク②	山本
13	研究課題の探求①	課題論文（量的研究）についてのクリティークと発表	加藤
14	研究課題の探求②	課題論文（質的研究）についてのクリティークと発表	山本
15	研究課題の探求③	各自の関心領域についてのプレゼンテーション①	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
16	研究課題の探求④	各自の関心領域についてのプレゼンテーション②	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
17	研究課題の探求⑤	各自の関心領域についてのプレゼンテーション③	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
18	研究課題の探求⑥	各自の関心領域についてのプレゼンテーション④	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
19	研究課題の探求⑦	各自の関心領域についてのプレゼンテーション⑤	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
20	研究課題の探求⑧	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）①	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
21	研究課題の探求⑨	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）②	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
22	研究課題の探求⑩	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）③	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
23	研究課題の探求⑪	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）④	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
24	研究課題の探求⑫	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）⑤	富岡・渡邉・加藤・中田・疋田・伏見
25	研究課題の探求⑬	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）⑥	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
26	研究課題の探求⑭	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）⑦	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見
27	研究課題の探求⑮	自己の研究課題の明確化（研究動機・背景・研究目的・研究方法等）⑧	富岡・渡邉・加藤・山本・疋田・伏見

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
講義およびゼミナール方式。課題に対して学生各自が個人ワークをして、その内容をプレゼンテーションする。そして、発表内容に関して全員でディスカッションし、学習を深める。

【７】　評価方法・基準

授業およびディスカッションへの取り組み(20%)、課題のプレゼンテーション(50%)、レポート(30%)で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、講評および解説する。授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

個人ワーク、プレゼンテーションに際して、フィードバックやアドバイスを行う。

【９】　教科書

テキストは使用しない

【10】　参考書

以下の図書が参考になる。
1) 高木廣文、林邦彦「エビデンスのための看護研究の読み方・進め方」中山書店・2006年
2) 北素子、谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」医学書院・2009年
3) スー・プロクター、メアリー・レンフルー著、前原澄子訳「助産学研究入門エビデンスにもとづく実践をめざして」医学書院・2003年
4) 牧本清子、山川みやえ「よくわかる看護研究論文のクリティーク 研究手法別のチェックシートで学ぶ (essentials of EBP)」日本看護協会出版会・2020年 (第2版)
5) D.F. ポーリット、C.T. ベック著、近藤潤子翻訳、「看護研究　原理と方法」医学書院・2010年 (第2版)

【11】　備考(関連科目等)

自らの関心のあるテーマについて、基本的な知見を広めておくこと。
原則、対面にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Reproductive Health NursingⅡ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師） 山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日 10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日 12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日 12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日 12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日 12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日 12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom、zoom、PC

【２】　授業概要

女性のライフサイクルにおける健康課題と支援の方向を学ぶ。
性教育、出生前教育、月経教育などに対する教育プログラムを作成する。

【３】　到達目標

1. 学童期から更年期・老年期の女性がもつ健康問題や性と生殖に関する諸問題について分析検討し、援助のあり方を説明できる。
2. ヘルスプロモーション理論に沿って、学童期から成熟期、更年期・老年期の女性を対象にした健康教育プログラムを作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	女性の健康課題	科目オリエンテーション 女性のライフサイクルと健康課題	加藤・山本
2	性の成熟過程と避妊教育①	避妊、受胎調節法に関する国際的動向①	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
3	性の成熟過程と避妊教育②	避妊、受胎調節法に関する国際的動向②	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
4	様々な国の性教育①	性教育（避妊・受胎調節）に関する教育の国際比較①	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
5	様々な国の性教育②	性教育（避妊・受胎調節）に関する教育の国際比較②	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
6	避妊教育プログラム①	低容量ピルとコンドーム教育プログラム①	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
7	避妊教育プログラム②	低容量ピルとコンドーム教育プログラム②	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
8	性の成熟過程と性感染症予防教育①	我が国の現状と国際比較①	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
9	性の成熟過程と性感染症予防教育②	我が国の現状と国際比較②	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
10	女性の生涯を通した健康の保持増進①	思春期から更年期の健康教育①	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
11	女性の生涯を通した健康の保持増進②	思春期から更年期の健康教育②	加藤・渡邉・山本・疋田・伏見
12	健康教育の見学①	助産師が行う性教育の見学①	疋田・富岡・渡邉
13	健康教育の見学②	助産師が行う性教育の見学②	疋田・富岡・渡邉
14	健康教育の見学③	助産師が行う出産準備教育の見学①	伏見・富岡・加藤・山本
15	健康教育の見学④	助産師が行う出産準備教育の見学②	伏見・富岡・加藤・山本
16	健康教育の技法①	保健指導の実際	渡邉
17	健康教育の技法②	保健指導の指導案作成	渡邉
18	健康教育の技法③	保健指導の評価	渡邉
19	健康教育の企画①	健康教育プログラムの作成　性教育①	疋田・富岡・渡邉
20	健康教育の企画②	健康教育プログラムの作成　性教育②	疋田・富岡・渡邉
21	健康教育の企画③	健康教育プログラムの作成　性教育③	疋田・富岡・渡邉
22	健康教育の企画④	健康教育プログラムの作成　性教育④	疋田・富岡・渡邉
23	健康教育の企画⑤	健康教育プログラムの作成　出産前教育①	伏見・富岡・加藤・山本
24	健康教育の企画⑥	健康教育プログラムの作成　出産前教育②	伏見・富岡・加藤・山本
25	健康教育の企画⑦	健康教育プログラムの作成　出産前教育③	伏見・富岡・加藤・山本
26	健康教育の企画⑧	健康教育プログラムの作成　出産前教育④	伏見・富岡・加藤・山本
27	健康教育の企画⑨	健康教育プログラムの作成　出産前教育⑤	伏見・富岡・加藤・山本

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
課題に基づくゼミナール形式で議論を行う。健康教育の実施、評価とレポートの提出をする。

【7】　評価方法・基準

授業およびディスカッションへの取り組み（30%）、教育プログラムの作成（50%）、教育プログラムの評価（20%）で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

健康教育プログラムの作成プロセスにおいて、フィードバックや助言を行う。

【9】　教科書

課題にそって授業開始時に提示する。

【10】　参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。
原則、対面で実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**実践助産学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Midwifery Practice	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	前村由美（前村医院・院長）関谷秀樹（大森病院・准教授） 長﨑澄人（大森病院・助教）古田雅（大森病院・栄養部上席室長） 富岡由美（看護学研究科・教授）渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師）山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 前村由美　授業終了後に質問を受け付ける。 関谷秀樹　授業終了後に質問を受け付ける。 長﨑澄人　授業終了後に質問を受け付ける。 古田雅　授業終了後に質問を受け付ける。 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【2】　授業概要

周産期の医療介入や画像診断、産科救急など助産師として求められる高度実践能力を教授する。増加するハイリスク妊産婦に対応できる能力を身につけ、社会から求められる助産師の育成を図る。

【3】　到達目標

1、高度医療介入時に必要な検査・診断技術・医療技術を説明できる。
2、高度医療介入時の支援について説明することができる。
3、周産期に必要な栄養指導・口腔衛生について説明することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産師に必要な高度実践能力について	科目オリエンテーション 助産師に必要となる実践能力について	富岡
2	周産期の医療介入	硬膜外麻酔分娩①	前村
3	周産期の医療介入	硬膜外麻酔分娩②	前村
4	周産期の医療介入	帝王切開術・吸引分娩について①	長﨑
5	周産期の医療介入	帝王切開術・吸引分娩について②	長﨑
6	周産期の医療介入	分娩誘発・促進分娩	長﨑
7	周産期の画像診断	骨産道・胎児超音波画像について①	長﨑
8	周産期の画像診断	骨産道・胎児超音波画像について②	長﨑
9	周産期の栄養	妊産褥婦・乳幼児の栄養①	古田
10	周産期の栄養	妊産褥婦・乳幼児の栄養②	古田
11	周産期の栄養	妊産褥婦・乳幼児の栄養③	古田
12	周産期の栄養	栄養指導の実際①	古田
13	周産期の栄養	栄養指導の実際②	古田
14	妊婦の栄養と食生活	妊婦の栄養と食生活　調理演習①	疋田・加藤・渡邉・山本・伏見
15	妊婦の栄養と食生活	妊婦の栄養と食生活　調理実習②	疋田・加藤・渡邉・山本・伏見
16	妊婦の栄養と食生活	妊婦の栄養と食生活　調理実習③	疋田・加藤・渡邉・山本・伏見
17	妊婦の栄養と食生活	妊婦の栄養と食生活　調理実習④	疋田・加藤・渡邉・山本・伏見
18	産科救急について	分娩時の救急処置①	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
19	産科救急について	分娩時の救急処置②	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
20	産科救急について	分娩時の救急処置③	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
21	産科救急について	分娩時の救急処置④	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
22	周産期の医療介入時の支援	硬膜外麻酔分娩の支援、帝王切開術前後の支援①	伏見・富岡
23	周産期の医療介入時の支援	硬膜外麻酔分娩の支援、帝王切開術前後の支援②	伏見・富岡
24	周産期の医療介入時の支援	硬膜外麻酔分娩の支援、無痛分娩時の支援①	疋田・富岡
25	周産期の口腔衛生と機能	硬膜外麻酔分娩の支援、無痛分娩時の支援②	疋田・富岡
26	周産期の口腔衛生と機能	妊産褥婦の口腔衛生	関谷
27	周産期の口腔衛生と機能	乳幼児の口腔機能	関谷

【6】　事前・事後学習とその時間

講義、ゼミ形式により進める。超音波検査、分娩時の救急処置など一部演習を含む。講義の前に、指定した学習内容を行うこと。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合し評価を行う。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。レポートは講評や解説を授業内で行い、共有する。

【9】　教科書

日本母体救命システム普及協議会／京都産婦人科救急診療研究会 編著「J-CIMELS公認講習会ベーシックコーステキスト 産婦人科必修　母体急変時の初期対応」メディカ出版・2020年(第3版)

その他、必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

村越毅「術前・術中・術後のアセスメント＆ケアを時系列で網羅！帝王切開バイブル」メディカ出版・2018年
その他、講義の中で指定する。

【11】　備考(関連科目等)

原則対面形式で行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**実践助産学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Midwifery Practice	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師） 山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

助産の対象者に対する基本的な支援方法を学んだ後、より実践的支援方法を教授する。各分野の専門家よりコンサルテーションを受け、学びを深めることを目的とする。助産分野の学会に参加することで、現在の助産のトレンドや課題を知る。

【３】　到達目標

1、産後ケア施設の運営や管理の実際について述べることができる。
2、産後ケア施設での育児支援やメンタルケアについて説明できる。
3、乳房ケアの実際を学ぶことで、正確な観察とアセスメント・診断ができる。
4、妊娠糖尿病妊婦に対する栄養指導法について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目オリエンテーション	実践助産学演習の進め方、学習方法について	富岡
2	健康教育の実際	1)性教育 学童期の児童を対象にした健康教育プログラムを実施する。	疋田・富岡・渡邉・加藤・山本・伏見
3	健康教育の実際	1)性教育 思春期の生徒を対象にした健康教育プログラムを実施する。	疋田・富岡・渡邉・加藤・山本・伏見
4	健康教育の実際	2)出産前教育 妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施する。	伏見・富岡・加藤・山本・渡邉・疋田
5	健康教育の実際	2)出産前教育 妊娠期における女性を対象にした健康教育プログラムを実施する。	伏見・富岡・加藤・山本・渡邉・疋田
6	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
7	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
8	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
9	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
10	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
11	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
12	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
13	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
14	乳房ケア	乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実際を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実際を行う。	渡邉
15	助産師の業務	1)妊娠期・産褥期における骨盤ケア	疋田・富岡
16	助産師の業務	2)分娩期における産痛緩和	富岡
17	助産師の業務	3)母児の愛着を促すケア	伏見・富岡
18	産科救急	産科危機的出血①（J-CIMELS）	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
19	産科救急	産科危機的出血②（J-CIMELS）	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
20	産科救急	産科危機的出血③（J-CIMELS）	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
21	産科救急	産科危機的出血④（J-CIMELS）	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
22	産科救急	産科危機的出血⑤（J-CIMELS）	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田

23	産科救急	産科危機的出血⑥（J-CIMELS）	伏見・渡邉・加藤・山本・疋田
24	学会参加①	関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶ。	富岡
25	学会参加②	関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶ。	富岡
26	学会参加③	関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶ。	富岡
27	まとめ	授業のまとめを行う	富岡

【６】　事前・事後学習とその時間

演習・フィールドワークを中心に行う。事前に提示した資料を熟読し学習に参加する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

出席状況（20%）演習の態度（30%）、レポート（50%）を総合して評価する。
授業時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

レポートは講評や解説を授業内で伝え、課題を共有する。

【９】　教科書

必要時に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

日本母体救命システム普及協議会／京都産婦人科救急診療研究会 編著「J-CIMELS公認講習会ベーシックコーステキスト 産婦人科必修　母体急変時の初期対応」メディカ出版・2020年(第3版)
その他、必要時に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

原則対面形式で行う。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**助産学特論Ⅰ（助産学概論）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Midwifery Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 梅村なほみ（大森病院・助教） 日色雄一（日色鍼灸院・院長）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　　毎週月曜日10:00～11:00 梅村なほみ 授業修了後に質問を受け付ける。 日色雄一　　授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

講義とグループワークを中心に展開する。助産の基本的概念を中心に、助産の変遷、助産師教育の在り方など、広く今日の助産師のもつ課題を追求する、助産師としてのアイデンティティを獲得するためのコアとなる科目である。

【３】　到達目標

1.助産学における基本概念（助産や対象）、助産の変遷と現状、助産師の責任と役割、医療・保健チームの中での協働、社会的意義について説明できる。
2.母子保健の変遷とこれからの助産師の役割について考察し、助産学の位置付けやこれからの助産師の課題を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産の定義	科目オリエンテーション・助産の狭義・広義の定義	富岡
2	助産の概念①	助産の概念（意義・助産援助のあり方）①	富岡
3	助産の概念②	助産の概念（意義・助産援助のあり方）（映像を利用しての学習）	富岡
4	助産の歴史と文化①	社会の変化と助産の歴史について①	富岡
5	助産の歴史と文化②	社会の変化と助産の歴史について②	富岡
6	助産における専門性①	助産師の声明、綱領について	富岡
7	助産における専門性②	助産師に必要な倫理について	富岡
8	助産師教育①	助産師の教育について	富岡
9	助産師教育②	助産師の到達目標	富岡
10	助産業務の基盤施策①	健やか親子21について、子育て世代包括支援センターについて	富岡
11	助産業務と基盤施策②	母子保健施策の現状について	富岡
12	助産師の役割と業務①	助産師の役割と業務について	富岡
13	助産師の役割と業務②	助産所の母子保健に対する支援について	富岡
14	助産師の役割と業務③	助産所の母子保健に対する支援について（フィールドワーク）①	富岡
15	助産師の役割と業務④	助産所の母子保健に対する支援について（フィールドワーク）②	富岡
16	助産師の役割と業務⑤	助産所の母子保健に対する支援について（フィールドワーク）③	富岡
17	性・生殖と人権①	リプロダクティブ・ヘルスについて	富岡
18	性・生殖と人権②	助産とインフォームド・コンセントについて	富岡
19	出産に関する生命倫理①	助産と生命倫理について	梅村
20	出産に関する生命倫理②	出産前診断について	梅村
21	母子保健統計と諸制度①	母子保健統計	富岡
22	母子保健統計と諸制度②	母子保健の諸制度	富岡
23	東洋医学①	助産と東洋医学①	日色
24	東洋医学②	助産と東洋医学②	日色
25	東洋医学③	助産と東洋医学③	日色
26	東洋医学④	助産と東洋医学④	日色
27	東洋医学⑤	助産と東洋医学⑤	日色

【6】　事前・事後学習とその時間

講義やグループワークそれに基づくプレゼンテーションを行う。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーション40%、レポート40%、ディスカッション20%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーション、ディスカッションについては授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートは講評・解説し、Active Academyに掲示する。授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【9】　教科書

1)我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座1基礎助産学［1］助産学概論」医学書院・2022年（第6版）
2)三砂ちづる編，「科学的根拠から考える　助産の本質」南山堂・2021年（第1版）

【10】　参考書

必要に応じて、随時参考図書を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ資料を取り寄せ予習をしておくこと。
授業は遠隔と対面形式にて実施する。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅱ（妊娠期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅡ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	加藤　知子				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授）　中田雅彦（大森病院・教授） 加藤知子（看護学研究科・講師）　渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 鷹野真由実（大森病院・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	加藤知子　tomoko.kato@med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 中田雅彦　授業修了後に質問を受け付ける。 加藤知子　毎日月曜日12:00～13:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 鷹野真由実 授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom. Zoom, PC

【２】　授業概要

正常に経過する妊婦への助産診断とケアを学ぶ。また、異常の早期発見や異常に移行しない予防的な援助を行うことができるために必要な知識と技術を教授する。

【３】　到達目標

１、妊婦と胎児の経過を理解したうえで、経過診断および健康生活診断を行うことができる。
２、妊婦とその家族のセルフケア能力を促すために必要な援助方法を述べることができる。
３、異常の早期発見や異常に移行しないための支援について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目オリエンテーション・妊娠期の成立	妊娠期の助産の特徴・目的、妊娠の成立、妊娠の維持	富岡
2	妊娠経過の診断①	妊娠の早期診断	鷹野
3	妊娠経過の診断②	妊娠に伴う全身の変化	鷹野
4	妊娠経過の診断③	妊娠に関連した検査	鷹野
5	妊娠経過の診断④	母子感染症に関する検査と治療	鷹野
6	妊娠経過の診断⑤	妊娠と薬物①	鷹野
7	妊娠経過の診断⑥	妊娠と薬物②	鷹野
8	妊娠経過の診断⑦	胎児の発育の診断①	鷹野
9	妊娠経過の診断⑧	胎児の発育の診断②	鷹野
10	ハイリスク妊娠の診断①	ハイリスク妊娠の検査と診断	中田
11	ハイリスク妊娠の診断②	ハイリスク妊娠の治療	中田
12	ハイリスク妊娠の診断③	異常の早期発見と予防①	中田
13	ハイリスク妊娠の診断④	異常の早期発見と予防②	中田
14	ローリスク妊婦のアセスメント	妊婦の日常生活におけるケア	加藤
15	ローリスク妊婦のアセスメント	セルフケアに関するアセスメント	加藤
16	ローリスク妊婦の支援	妊婦の日常生活におけるケア	加藤
17	ローリスク妊婦の支援	妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア	加藤
18	ハイリスク妊婦の支援①	ハイリスク妊婦のアセスメント①	渡邉
19	ハイリスク妊婦の支援②	ハイリスク妊婦のアセスメント②	渡邉
20	ハイリスク妊婦の支援③	ハイリスク妊婦の助産診断①	渡邉
21	ハイリスク妊婦の支援④	ハイリスク妊婦の助産診断②	渡邉
22	ハイリスク妊婦の支援⑤	ハイリスク妊婦の助産診断③	渡邉
23	妊婦の助産過程①	ローリスク妊婦の助産診断とケア①	加藤
24	妊婦の助産過程②	ローリスク妊婦の助産診断とケア②	加藤
25	妊婦の助産過程③	ローリスク妊婦の助産診断とケア③	加藤
26	妊婦の助産過程④	ローリスク妊婦の助産診断とケア④	加藤
27	まとめ	助産過程についてプレゼンテーションとディスカッション	加藤

【6】　事前・事後学習とその時間

講義および演習で授業を行う。
事前に提示された資料で事前学習を行い参加する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

筆記試験60%、課題への取り組み40%で総合的に評価する。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーション、レポートについては授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、授業内で解答の解説を行い、課題を共有する。

【9】　教科書

1)我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期」医学書院・2021年（第6版）
2)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」日本産科婦人科学会事務局・2023年
3)日本助産診断・実践研究会「実践 マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

1）武谷雄二他「プリンシプル産婦人科学1―婦人科編」メジカルビュー社・2014年（第3版）
2）武谷雄二他「プリンシプル産婦人科学Ⅱ―産科編」メジカルビュー社・2014年（第3版）
3）日本助産診断・実践学会「実践 マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2020年(第6版)

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義をリアルタイムにて行う。助産学実習の基盤となる科目であるため、主体的に取り組むこと。母性看護学を復習して臨むこと。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅲ（分娩期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅢ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	渡邉　幸恵				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授）中田雅彦（大森病院・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邉幸恵sachie.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美 毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 中田雅彦 授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

分娩期の助産診断に必要な産科学をはじめ、分娩の3要素が分娩進行に与える影響と、3要素の相互関係について理解を深め、助産診断に必要な理論を習得できるよう進める。また、産婦とその家族に対し、分娩各期の具体的ケアについて教授する。

【３】　到達目標

1、分娩の機序やフィジカルアセスメント法を理解したうえで助産過程を展開することができる。
2、助産診断のもと、産婦とその家族に対して安全で適切な援助の方法を述べることができる。
3、分娩時の異常や産科救急の処置について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩の定義、分娩の3要素	科目オリエンテーション 分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道）①	富岡
2	分娩の3要素	分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道）②	富岡
3	分娩の機序	陣痛発来から分娩終了までの機序①	渡邉
4	分娩の機序	陣痛発来から分娩終了までの機序②	渡邉
5	分娩の機序	陣痛発来から分娩終了までの機序③	渡邉
6	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査①	渡邉
7	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査②	渡邉
8	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査③	渡邉
9	分娩経過	産婦の健康診査と胎児の健康診査④	渡邉
10	分娩期の異常	分娩3要素の異常①	中田
11	分娩期の異常	分娩3要素の異常②	中田
12	分娩時の異常	分娩に伴う偶発疾患・合併症①	中田
13	分娩時の異常	分娩に伴う偶発疾患・合併症②	中田
14	分娩時の異常	産科救急（産科出血・産科ショック）①	中田
15	分娩時の異常	産科救急（産科出血・産科ショック）②	中田
16	分娩経過の診断	CTGの判読①	中田
17	分娩経過の診断	CTGの判読②	中田
18	分娩の経過診断	分娩期の診断と経過予測①	渡邉
19	分娩の経過診断	分娩期の診断と経過予測②	渡邉
20	分娩期の助産過程①	分娩期の助産診断とケア①	渡邉
21	分娩期の助産過程②	分娩期の助産診断とケア②	渡邉
22	分娩期の助産過程③	分娩期の助産診断とケア③	渡邉
23	分娩期の助産過程④	分娩期の助産診断とケア④	渡邉
24	分娩期の助産過程⑤	分娩期の助産診断とケア⑤	渡邉
25	分娩期の助産過程⑥	分娩期の助産診断とケア⑥	渡邉
26	分娩期の助産過程⑦	分娩期の助産診断とケア⑦	渡邉
27	まとめ	授業内容のまとめ	富岡・渡邉

【6】　事前・事後学習とその時間

講義および提示した課題に対しプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。事前に提示した課題を行い、講義に参加すること。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

筆記試験60%、課題への取り組み40%で総合的に評価する。授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

課題については授業内で講評し返却する。グループワークは授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、授業内で解答に対する解説を行う。

【9】　教科書

1)我部山キヨ子, 藤井知行編「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院・2021年(第6版)
2)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」日本産科婦人科学会事務局・2023年

【10】　参考書

1）進純郎／堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院・2010年
2）町浦美智子「助産学実習プレブック―助産過程の思考プロセス」医歯薬出版株式会社・2015年
3）日本助産診断・実践研究会「実践 マタニティ診断」医学書院・2021年(第5版)

【11】　備考(関連科目等)

・母性看護学（分娩期）の復習をして臨むこと。
・DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助,村上明美医歯薬出版.仰臥位分娩を視聴すること。
・講義は対面と遠隔で行い、事前に通知をする。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅳ（産褥期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅣ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	山本　由香				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授）　加藤知子（看護学研究科・講師） 山本由香（看護学研究科・講師）　疋田仁美（看護学部・助教） 野田玲穂（大森病院・助産師）　杜裕美（大森病院・助産師）				
科目責任者 連絡先(教室)	山本由香 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 野田玲穂　授業修了後に質問を受け付ける。 杜裕美　授業修了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom、PC

【２】　授業概要

講義の他に、事例を用いたグループワーク形式ですすめる。各種ガイドラインを参照し、身体、心理、社会的側面のスタンダードケアについて検討できる思考が身につくことを目指すため予習が不可欠である。乳房管理については、エキスパートによる講義と演習を実施する。

【３】　到達目標

1.産褥期にある女性の身体的、心理的、社会的変化を理解し、産褥期の女性及び家族のアセスメントを行い、根拠に基づく助産過程を展開できる。
2.産褥期にある女性やその家族に対する健康相談・教育・支援の計画立案ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩後2時間まで経過とケア①	科目オリエンテーション 分娩後2時間までの助産診断とケア：正常経過（事例からケアを考える）	山本
2	分娩後2時間までの経過とケア②	分娩後2時間までの助産診断とケア：異常経過（事例からケアを考える）	山本
3	産褥期の生殖器の解剖・生理	生殖器と他臓器との位置関係・血管の走行、ホルモン	山本
4	産褥期の乳房の解剖・生理	乳房の解剖と他臓器と位置関係・血管とリンパの走行、ホルモン	山本
5	産褥期の社会・心理（女性）	産褥期の女性の社会・心理の特徴	山本
6	産褥期の社会・心理（家族）	産褥期の家族の心理	山本
7	産褥期の異常とケア①	産褥期の異常とケア（身体）	山本
8	産褥期の異常とケア②	産褥期の異常とケア（精神）	山本
9	不快症状の緩和のためのケア	不快症状の緩和のためのケア	山本
10	母親役割獲得過程と支援	母親役割獲得過程と支援	山本
11	グリーフケア①	グリーフケアとは	山本
12	グリーフケア②	対象の理解	山本
13	産後2週間健康診査	産後2週間健康診査での診断と支援	山本
14	産後１か月の健康診査	産後１か月の健康診査での診断と支援	山本
15	産褥期の助産診断とケア①	産褥期の助産診断とケア事例の紹介	山本
16	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開①	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開① 経過診断と支援	加藤
17	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開②	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開② 日常生活行動/社会心理状態の診断と支援	加藤
18	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開③	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開③ 育児（母乳）の診断と支援	加藤
19	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開④	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開の発表	加藤
20	乳房管理（1）	ラクテーションコンサルタント（新生児の立場から）①	野田
21	乳房管理（2）	ラクテーションコンサルタント（新生児の立場から）②	野田
22	乳房管理（3）	ラクテーションコンサルタント（母の立場から）①	杜
23	乳房管理（4）	ラクテーションコンサルタント（母の立場から）②	杜
24	産後の家族計画指導①	産後の家族計画指導の概要	疋田・富岡
25	産後の家族計画指導②	産後の家族計画指導案の立案	疋田・富岡
26	産後の家族計画指導③	産後の家族計画指導案の発表	疋田・富岡
27	まとめ	講義のまとめをおこなう	山本

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【7】　評価方法・基準

筆記試験60%、課題への取り組み40%で総合的に評価する。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【９】　教科書

1)我部山キヨ子, 藤井知行編「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院・2021年(第6版)
2)日本助産診断・実践学会「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2020年(第6版)
3)日本助産診断・実践学会編「実践マタニティ診断」医学書院・2021年(第5版)
4)日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」日本産科婦人科学会事務局・2023年

【10】　参考書

随時紹介する

【11】　備考(関連科目等)

母性看護学（産褥期）を修得していることを前提に講義・演習を行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅴ（新生児期の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅤ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	加藤　知子				
担当教員	増本健一（大森病院・准教授） 西田朋子（大森病院・師長補佐） 富岡由美（看護学研究科・教授） 加藤知子（看護学研究科・講師） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	加藤知子tomoko.kato■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	増本健一 授業終了後に質問を受け付ける。 西田朋子 授業終了に質問を受け付ける。 富岡由美 毎週月曜日：11:00～12:00 加藤知子 毎週月曜日：12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日：12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom　PC

【２】　授業概要

講義および演習で進める。
新生児の正常な成長発達を促進していくための助産診断・ケアに加えて、母親や家族に対する支援についても追求する。
また、出生直後の緊急時の対応が習得できるように教授する。

【３】　到達目標

1.新生児期の生理的特徴や成長発達過程を理解し、新生児のフィジカルアセスメント実施し、根拠に基づく助産過程を展開できる。
2.新生児の胎外生活の適応からの逸脱状態をアセスメントし、必要なケアを述べることができる。
3.新生児蘇生をモデルで実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目オリエンテーション・新生児の解剖・生理①	新生児の分類、出生直後の生理的特徴	加藤
2	新生児の解剖・生理②	呼吸・循環	加藤
3	生後24時間以内の新生児の助産診断①	新生児期の助産ケアの特徴、胎外環境への適応と成長・成熟	伏見・富岡
4	生後24時間以内の新生児への支援①	胎外環境への適応への支援	伏見・富岡
5	生後24時間以内の新生児への支援②	成長発達への支援	伏見・富岡
6	生後24時間以降の新生児の助産診断①	胎外環境への適応と成長・成熟	伏見・富岡
7	生後24時間以降の新生児への支援	成長発達への支援	伏見・富岡
8	生後24時間以内の新生児の助産診断②	正常から逸脱の診断	西田
9	生後24時間以降の新生児の助産診断②	正常から逸脱している児へのケア	西田
10	正常からの逸脱及び異常な状態への支援①	低出生体重児（早期産児）へのケア	西田
11	正常からの逸脱及び異常な状態への支援②	家族へのケア	西田
12	新生児の助産過程①	事例紹介	伏見・富岡・加藤
13	新生児の助産過程②	新生児の助産過程の展開①	伏見・富岡・加藤
14	新生児の助産過程③	新生児の助産過程の展開②	伏見・富岡・加藤
15	新生児の助産過程④	新生児の助産過程の発表	伏見・富岡・加藤
16	新生児に関する保健指導①	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）①	伏見・富岡・加藤
17	新生児に関する保健指導②	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）②	伏見・富岡・加藤
18	新生児の異常①	新生児医療の現状	増本
19	新生児の異常②	低出生体重児（早期産児）に起こりやすい異常（病態・生理）	増本
20	新生児の異常③	呼吸器・循環器・神経・代謝異常	増本
21	新生児の異常④	ハイリスク妊娠によって出生した新生児、多胎児	増本
22	新生児救急蘇生法①	新生児救急蘇生法①	西田・富岡・伏見・加藤
23	新生児救急蘇生法②	新生児救急蘇生法②	西田・富岡・伏見・加藤
24	新生児救急蘇生法③	新生児救急蘇生法③	西田・富岡・伏見・加藤
25	新生児救急蘇生法④	新生児救急蘇生法④	西田・富岡・伏見・加藤
26	新生児救急蘇生法⑤	新生児救急蘇生法⑤	西田・富岡・伏見・加藤
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	加藤

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【7】　評価方法・基準

筆記試験60%、課題への取り組み40%で総合的に評価する。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【９】　教科書

1）仁志田博司「新生児学入門第」医学書院・2018年(第5版)
2）田村正徳「日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト」メジカルビュー社・2021年(第4版)
3）日本助産診断・実践学会編「マタニティ診断ガイドブック」医学書院・2020年(第6版)
4）日本助産診断・実践学会編「実践マタニティ診断」医学書院・2021年(第5版)
5）石井郁子,廣間武彦編「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」医学書院・2021年(第6版)
6）日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」日本産科婦人科学会事務局・2023年

【10】　参考書

随時、参考図書を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

「母性看護学」の範囲については、復習しておくこと。
新生児救急蘇生法Aコースの認定取得が可能である。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅵ(乳幼児の成長発達と育児支援)	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅥ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	加藤　知子				
担当教員	髙月晋一（大森病院・教授） 濱崎祐子（大森病院・教授） 松岡正樹（大森病院・助教） 早乙女壮彦（大森病院・助教） 加藤知子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	加藤知子 tomoko.kato■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	加藤知子　　毎週月曜日12:00～13:00 髙月晋一　　授業終了後に質問を受け付ける 松岡正樹　　授業終了後に質問を受け付ける 濱崎祐子　　授業終了後に質問を受け付ける 早乙女壮彦　授業終了後に質問を受け付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom、zoom、PC

【２】　授業概要

乳幼児の健全な心身の発育・発達過程とその特徴について講義を通して教授する。また、子どもを取り巻く環境を知り、成長発達に影響を及ぼす因子についてアセスメントできるように事例を通した学習をすることになるので、主体的な参加を求める。

【３】　到達目標

1. 乳幼児期の成長・発達について、身体的・心理的・社会的、生活という視点から説明できる。
2. 乳幼児を持つ家族の健康の保持増進のための相談・教育・援助活動について、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目オリエンテーション・乳幼児への保健対策①	乳幼児への保健対策の現状と課題①	加藤
2	乳幼児への保健施策②	乳幼児への保健対策の現状と課題②	加藤
3	乳幼児の成長・発達①	乳幼児の成長・発達①	濱崎
4	乳幼児の成長・発達②	乳幼児の成長・発達②	濱崎
5	乳幼児の成長・発達③	乳幼児の成長・発達③	早乙女
6	乳幼児の成長・発達④	乳幼児の成長・発達④	早乙女
7	乳幼児健康診査とスクリーニング、乳幼児の疾患①	乳幼児健康診査とマススクリーニング、乳幼児の循環器疾患①	髙月
8	乳幼児健康診査とスクリーニング、乳幼児の疾患②	乳幼児健康診査とマススクリーニング、乳幼児の循環器疾患②	髙月
9	感染症と予防接種、乳幼児の疾患①	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患①	松岡
10	感染症と予防接種、乳幼児の疾患②	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患②	松岡
11	乳幼児の生活と環境①	乳幼児の健康的な生活と環境①	加藤
12	乳幼児の生活と環境②	乳幼児の健康的な生活と環境②	加藤
13	幼児の事故防止①	幼児に起こりやすい事故とその予防①	加藤
14	幼児の事故防止②	幼児に起こりやすい事故とその予防②	加藤
15	子ども虐待の予防①	子ども虐待の現状と課題①	加藤
16	子ども虐待の予防②	子ども虐待の現状と課題②	加藤
17	子ども虐待の予防③	子ども虐待の現状と課題③	加藤
18	子ども虐待の予防④	子ども虐待の現状と課題④	加藤
19	乳幼児の栄養の食生活①	乳幼児の栄養の特徴と食生活における課題①	加藤
20	乳幼児の栄養の食生活②	乳幼児の栄養の特徴と食生活における課題②	加藤
21	乳幼児の栄養の食生活③	乳幼児の栄養と食生活　調理演習（離乳食）①	加藤
22	乳幼児の栄養の食生活④	乳幼児の栄養と食生活　調理演習（離乳食）②	加藤
23	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育①	3～4か月乳児健康診査とケア	加藤
24	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育②	5～6か月乳児健康診査とケア	加藤
25	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育③	乳幼児と家族に対する助産過程の展開①	加藤
26	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育④	乳幼児と家族に対する助産過程の展開②	加藤
27	乳幼児と家族のヘルスプロモーションと健康教育⑤	乳幼児と家族に対する助産過程の展開③	加藤

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
各分野の専門職者の講義と事例を用いたグループワーク形式ですすめる。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（30%）、課題への参加態度（30%）、課題の評価（40%）を総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う

【9】　教科書

1）石井邦子、廣間武彦編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］新生児期・乳幼児期」医学書院・2021年（第6版）
2）日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

1）仁志田博司編集「新生児学入門」　医学書院・2019年（第5版）
2）水野克己「お母さんがもっと元気になる乳児健診 - 健診を楽しくすすめるエビデンス&テクニック」メディカ出版・2015年
3）福岡地区小児科医会　乳幼児保健委員会　乳幼児健診マニュアル　医学書院・2019年（第6版）

【11】　備考(関連科目等)

小児看護学で学習した、乳幼児期に特有な成長・発達について復習しておくこと。原則、対面授業とするが、状況により遠隔授業を行う際は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いてリアルタイムで行う。

科目名(日本語)	助産学特論Ⅶ（コミュニティヘルス論）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅦ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美　（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵　（看護学研究科・講師） 山本由香　（看護学研究科・講師） 天野里奈　（看護学部・助教） 福島富士子（東京医療保健大学　特任教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美 yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 天野里奈　授業終了時に質問をする 福島富士子 授業終了時に質問する				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom、Zoom、PC

【２】　授業概要

国内外の文献や地域母子保健活動の実践を通して、コミュニティのケアに関する理論や支援方法について教授する。また、地域で生活をする産後の母子への具体的支援を教授する。

【３】　到達目標

1. 地域母子保健の現状と動向を踏まえ、ヘルスプロモーションに基づく効果的な地域母子保健活動を展開するための理論について説明することができる。
2. コミュニティにおける母子保健、女性の健康を推進するための助産師の役割について述べることができる。
3. 産後1か月、3.4か月・6か月の母子の支援について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	地域母子保健の現状と動向①	科目オリエンテーション 母子保健における地域とは	富岡
2	地域母子保健の現状と動向②	地域母子保健活動の意義と実際・プレコンセプションケアについて	富岡
3	地域母子保健の現状と動向③	思春期に向けた地域母子保健	富岡
4	地域母子保健の現状と動向④	大田区の母子保健行政について①	富岡
5	地域母子保健の現状と動向⑤	大田区の母子保健行政について②	富岡
6	地域母子保健の現状と動向⑥	大田区の母子保健活動の実際①	富岡
7	地域母子保健の現状と動向⑦	大田区の母子保健活動の実際②	富岡
8	地域母子保健の現状と動向⑧	大田区の母子保健活動の実際③	富岡
9	地域母子保健行政①	母子保健の諸制度と施策①	福島
10	地域母子保健行政②	母子保健の諸制度と施策②	福島
11	母子保健施策	現在の母子保健施策	福島
12	コミュニティのケア①	母子の訪問①	渡邉
13	コミュニティのケア②	母子の訪問②	渡邉
14	コミュニティのケア③	母子の訪問③	渡邉
15	母子保健の諸問題①	国際比較からみた母子保健の諸問題①	富岡
16	母子保健の諸問題②	国際比較からみた母子保健の諸問題②	富岡
17	地域母子保健活動①	地域母子保健活動の実際①ひまわりの会	富岡・天野
18	地域母子保健活動②	地域母子保健活動の実際②ひまわりの会	富岡・天野
19	地域母子保健における支援①	妊婦訪問指導の実際①	山本・富岡
20	地域母子保健における支援②	妊婦訪問指導の実際②	山本・富岡
21	地域母子保健における支援③	産後育児支援体制のあり方　3-4か月訪問①	山本・富岡
22	地域母子保健における支援④	産後育児支援体制のあり方　3-4か月訪問②	山本・富岡
23	地域母子保健における支援⑤	産後育児支援体制のあり方　6か月訪問①	山本・富岡
24	地域母子保健における支援⑥	産後育児支援体制のあり方　6か月訪問②	山本・富岡
25	地域母子保健における支援⑦	産後育児支援体制のあり方　まとめ	山本・富岡
26	母子保健の諸問題	国際比較からみた母子保健の諸問題	山本・富岡
27	地域母子保健における支援⑧	妊婦・母子への支援のまとめ	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

講義とゼミ形式により進める。
対面形式にて実施する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

レポート80%、講義への取り組み20%を総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、結果を提示し設問について解説する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う。

【9】　教科書

1）石井邦子・廣間武彦編「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ［3］新生児期・乳幼児期」医学書院・2023年(第6版)
2）我部山キヨ子編　「助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健」医学書院・2023年(第6版)

【10】　参考書

1）金川克子「地域看護診断技法と実際」東京大学出版会・2000年
2）福島富士子，みついひろみ「産後ケア―なぜ必要か何ができるか」岩波ブックレット・2014年
3）E.T.アンダーソン，J.マクファーレイン編集「地域看護学の理論と実際コミュニティアズパートナー」医学出版・2007年(第2版)
4）福島富士子「産後ケア～ここから始まるコミュニティづくり～」財界研究所・2017年
5）福島富士子「産後ケア　完全理解読本」財界研究所・2020年

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめテキスト等に目を通しておくこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**助産学特論Ⅷ（助産管理）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced MidwiferyⅧ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美　（看護学研究科・教授） 荒木暁子　（看護学研究科　教授） 有賀いずみ（佐倉病院・副看護部長） 内藤智子　（大森病院・師長） 福島富士子（東京医療保健大学　特任教授） 西田朋子　（大森病院・師長補佐） 永森久美子（世田谷区立産後ケアセンター　センター長）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　　毎週月曜日：10:00～11:00 荒木暁子　　授業終了後に質問を受け付ける。 有賀いずみ　授業終了後に質問を受け付ける。 内藤智子　　授業終了後に質問を受け付ける。 福島富士子　授業終了後に質問を受け付ける。 西田　朋子　授業終了後に質問を受け付ける。 永森久美子　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom　PC

【２】　授業概要

1.管理および助産管理の概念
2.管理に必要な理論
3.助産師の責任・業務に関連する法的義務・規則
4.助産管理・運営の基本（グループワーク）
5.医療事故や災害への対策（事例検討/プレゼンテーション）
6.助産サービスと医療経済の関係（ディスカッション）

【３】　到達目標

1.助産師の定義・業務内容・その責務について説明できる。
2.助産業務に関連する法律および社会制度について説明できる。
3.実践場所に応じた管理に関する必要な知識が説明できる。
4.周産期における安全対策について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	管理の概念	科目オリエンテーション 助産管理の基本	富岡
2	助産業務管理	助産業務管理の過程	富岡
3	助産業務管理	助産業務管理の実際	愛育病院管理者
4	場に応じた助産業務管理の特徴①	産科病棟の管理①	内藤
5	場に応じた助産業務管理の特徴①	産科病棟の管理②	内藤
6	場に応じた助産業務管理の特徴②	NICUの管理①	西田
7	場に応じた助産業務管理の特徴②	NICUの管理②	西田
8	場に応じた助産業務管理の特徴③	産後ケア施設における管理①	福島
9	場に応じた助産業務管理の特徴③	産後ケア施設における管理②	福島
10	チーム医療における連携①	チーム医療とは	富岡
11	チーム医療における連携②	特定妊婦とチーム医療（事例検討）	富岡
12	医療事故対策防止①	産科医療補償制度とは：事例検討	富岡
13	医療事故対策防止②	産科医療補償制度で取り上げられた事例の検討	富岡
14	安全対策①	リスク・マネジメントとは	荒木
15	安全対策②	病棟における安全対策の事例検討	荒木
16	医療事故とリスクマネジメント①	医療事故／リスクマネジメントとは	有賀
17	医療事故とリスクマネジメント②	医療事故／リスクマネジメントとは	有賀
18	コミュニティーの中での施設管理①	産後ケアセンターの運営の実際①	永森
19	コミュニティーの中での施設管理②	産後ケアセンターの運営の実際②	永森
20	災害時のシミュレーション①	避難所HUGの演習①	山本・疋田・富岡
21	災害時のシミュレーション②	避難所HUGの演習②	山本・疋田・富岡
22	災害時のシミュレーション③	避難所HUGの演習③	山本・疋田・富岡
23	助産所開業のシミュレーション①	コンセプトの検討	富岡
24	助産所開業のシミュレーション②	必要な人材・物品等の検討	富岡
25	助産所開業のシミュレーション③	必要書類の整理	富岡
26	助産所開業のシミュレーション④	ヒト・モノ・カネ・情報の管理	富岡
27	助産所開業のシミュレーション⑤	発表・ディスカッション	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【7】　評価方法・基準

授業時間数の2/3以上の出席を持って評価の対象とする。
グループワークの参加度（ルーブリック参照）（20%）、プレゼンテーション・レポート内容（80%）から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

事例検討の評価については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【9】　教科書

我部山 キヨ子, 毛利 多恵子編「助産学講座10助産管理」医学書院・2023年(第6版)

【10】　参考書

その他、随時参考図書を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

助産学実習ⅠおよびⅡの実習の際に実習施設の人、モノ、金、情報の動きについて意識しながら実習すること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学演習Ⅰ（妊娠・産褥・新生児の診断と技術）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Midwifery Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	渡邉　幸恵				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）加藤知子（看護学研究科・講師）山本由香（看護学研究科・講師） 長﨑澄人（大森病院・助教）疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邉幸恵　sachie.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 長﨑澄人　授業終了後に質問を受ける。 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom. Zoom, PC

【２】　授業概要

本科目は、妊娠・産褥・新生児期の助産診断に不可欠な診断技術および援助技術の演習を行い、その技術の習得を目指す。

【３】　到達目標

1. 妊娠期にある健康な母子に対するヘルスアセスメント技術を学び、安全・安楽に妊婦に提供することができる。
2. 産褥期・新生児期にある対象に対する助産ケアの知識・診断技術を学び、演習で実施することができる。
3. 周産期において対象が正常な経過をたどるために必要な保健指導案を立案することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	妊娠期に必要な援助技術	科目オリエンテーション 妊婦健康診査に必要な技術（フィジカルエグザミネーションを含む）①	富岡
2	妊娠期に必要な援助技術	妊婦健康診査に必要な技術（フィジカルエグザミネーションを含む）②	富岡
3	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	胎児心拍数陣痛図の判定①	長﨑
4	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	胎児心拍数陣痛図の判定②	長﨑
5	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	超音波断層検査①	長﨑
6	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	超音波断層検査②	長﨑
7	婦人科に関する技術	婦人科検診の実際（パップスメア）①	長﨑
8	婦人科に関する技術	婦人科検診の実際（パップスメア）②	長﨑
9	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）①	疋田・富岡・山本
10	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）②	疋田・富岡・山本
11	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）③	疋田・富岡・山本
12	産褥期における保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）④	疋田・富岡・山本
13	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）①	伏見・富岡・加藤
14	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）②	伏見・富岡・加藤
15	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）③	伏見・富岡・加藤
16	新生児における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）④	伏見・富岡・加藤
17	産褥期に必要な援助技術	産褥期に必要な援助技術（進行性変化、退行性変化の観察等）①	疋田・富岡・山本
18	新生児期に必要な援助技術	新生児期に必要な援助技術（全身の観察、沐浴等）②	伏見・富岡・加藤
19	妊娠期の健康診査	妊婦健康診査（OSCE）①	渡邉・富岡・加藤・山本・伏見・疋田
20	妊娠期の健康診査	妊婦健康診査（OSCE）②	渡邉・富岡・加藤・山本・伏見・疋田
21	妊娠期の健康診査	妊婦健康診査（OSCE）③	渡邉・富岡・加藤・山本・伏見・疋田
22	産褥期・新生児期の健康診査	産褥期・新生児期のヘルスアセスメント（OSCE）①	伏見・疋田・富岡・渡邉
23	産褥期・新生児期の健康診査	産褥期・新生児期のヘルスアセスメント（OSCE）②	伏見・疋田・富岡・渡邉
24	産褥期・新生児期の健康診査	産褥期・新生児期のヘルスアセスメント（OSCE）③	伏見・疋田・富岡・渡邉
25	助産外来の実際	産科外来における演習①	渡邉
26	助産外来の実際	産科外来における演習②	渡邉
27	助産外来の実際	産科外来における演習③	渡邉

【6】　事前・事後学習とその時間

実習室における演習、産婦人科外来における演習、グループワーク、個人ワークなどを行う。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

提出記録およびレポートの内容(40%)、課題や授業への取り組み(30%)、プレゼンテーションの内容(30%)で評価する。レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。
授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する

【９】　教科書

1)我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ［1］妊娠期 医学書院・2021年（第6版）
2)我部山キヨ子，藤井知行編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期　医学書院・2021年（第6版）
3)石井邦子・廣間武彦編「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ［3］新生児・乳幼児期 医学書院・2021年（第6版）

【10】　参考書

1）池田智明「胎児心拍数モニタリング集中トレーニング」メディカ出版・2010年
2）馬場一憲「基礎から学ぶ産婦人科超音波診断」東京医学社・2010年
3）中井章人「図説CTGテキスト助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証必須研修CTGテキスト」メジカルビュー社・2016年

【11】　備考(関連科目等)

技術の習得に向け、主体的に取り組むことを期待する。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学演習Ⅱ(分娩期の診断と技術)	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in MidwiferyⅡ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	渡邉　幸恵				
担当教員	富岡由美　(看護学研究科・教授) 渡邉幸恵　(看護学研究科・講師) 加藤知子　(看護学研究科・講師) 山本由香　(看護学研究科・講師) 佐久間淳也 (大森病院・助教) 疋田仁美　(看護学部・助教) 伏見枝莉　(看護学部・助教)				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邉幸恵　sachie.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 佐久間淳也 授業終了後に質問を受け付ける。 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

google classroom zoom　PC

【２】　授業概要

演習を通して分娩介助技術の習得を目指す。診療ガイドライン及び科学的根拠に基づいた安全で安楽な分娩介助技術を探求し、対象者へ提供できる技術レベルに達するまで鍛錬を重ねていく。

【３】　到達目標

1. 産婦及び家族に対して、安全で安楽な助産の実践に必要となる分娩介助技術を原理原則に基づいて実施できる。
2. 分娩期に必要とされる産痛緩和技術や呼吸法などの具体的なケア方法を理解し、安全安楽な方法で実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩介助技術①	科目オリエンテーション 分娩介助の意義、分娩介助の基本姿勢、分娩室の環境調整①	渡邉
2	分娩介助技術②	分娩介助の意義、分娩介助の基本姿勢、分娩室の環境調整②	渡邉
3	分娩介助技術③	分娩介助者の準備、間接介助者の役割①	渡邉
4	分娩介助技術④	分娩介助者の準備、間接介助者の役割②	渡邉
5	分娩介助技術⑤	分娩介助技術（分娩室の準備、分娩介助者の準備）①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
6	分娩介助技術⑥	分娩介助技術（分娩室の準備、分娩介助者の準備）②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
7	分娩介助技術⑦	分娩介助技術（清潔野の作成）①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
8	分娩介助技術⑧	分娩介助技術（清潔野の作成）②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
9	分娩介助技術⑨	分娩介助技術（肛門保護、会陰保護、児娩出）①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
10	分娩介助技術⑩	分娩介助技術（肛門保護、会陰保護、児娩出）②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
11	分娩介助技術⑪	分娩介助技術（臍帯切断、胎盤娩出から分娩第4期まで）	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
12	分娩介助技術⑫	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
13	分娩介助技術⑬	分娩介助技術（準備から分娩第4期まで）②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
14	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術①	佐久間
15	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術②	佐久間
16	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術③	佐久間
17	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術④	佐久間
18	分娩介助技術⑭	胎盤の精査・計測法、導尿、内診①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
19	分娩介助技術⑮	胎盤の精査・計測法、導尿、内診②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
20	分娩介助技術⑯	胎盤の精査・計測法、導尿、内診③	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
21	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
22	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
23	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法③	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
24	分娩介助技術⑰	分娩介助技術（OSCE）①	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
25	分娩介助技術⑱	分娩介助技術（OSCE）②	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
26	分娩介助技術⑲	分娩介助技術（OSCE）③	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
27	分娩介助技術⑳	分娩介助技術（OSCE）④	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

技術演習および、課題を提示した学生のプレゼンテーションとディスカッションによって進める。対面形式にて実施する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

演習への取り組み状況（20%）、技術評価（80%）で、総合的に評価する。
演習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
評価については、演習終了後に講評を伝え、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する

【９】　教科書

1）我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院・2021年(第6版)
2）日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編：「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」日本産科婦人科学会事務局・2023年
3）日本助産診断・実践研究会編「実践マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

1）進純郎／堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院・2010年
2）進純郎「分娩介助学」医学書院・2014年（第2版）
3）村上明美「DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」仰臥位分娩介助」医歯薬出版株式会社・2009年

【11】　備考(関連科目等)

事前に配布する分娩介助の動画を何度も視聴してから授業に参加すること
女性生殖器の構造の復習、分娩の機序および分娩経過の診断に必要な知識の復習（助産学特論Ⅲ）
演習前に基礎看護技術（滅菌操作・手洗い・ガウンテクニック・導尿）の方法の復習をしておくこと。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。
演習時間以外にも分娩介助技術の自己学習・練習をすること

科目名(日本語)	助産学実習Ⅰ（継続事例実習）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery Practicum Ⅰ	選択	実習	1年次･春	2単位 90時間
科目責任者	渡邉　幸恵				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授）渡邉幸恵（看護学研究科・講師） 加藤知子（看護学研究科・講師）山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）　伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邉幸恵　sachie.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Google Classroom、Zoom

【２】　授業概要

妊娠期から受け持ち、直接分娩介助を経て、産褥期の母子の助産ケア、産後の家庭訪問等、産後6か月まで継続的な支援を行う。

【３】　到達目標

1. 正常な経過をたどる妊婦と家族を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、育児期、新生児期、乳児期の各期において助産過程を展開し、産後6か月まで継続して個別性を踏まえたケアを実施できる。
2. 妊産褥婦とその家族に対して個別性を踏まえた保健指導を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	正常な経過をたどる対象を受け持ち、妊娠期・分娩期・産褥期・育児期・新生児期・乳児期において対象に助産過程を展開し、産後6か月まで継続して対象とその家族に適切なケアを実施する。 実習方法②妊娠期 1) 妊婦健康診査に参加し、助産過程を展開し、診断技術を用いて助産診断を行う。 2) 助産計画に基づいて、予測的かつ経過に応じた相談・教育・ケアを行う。 3) 妊婦への個別指導計画を立案し実施する。 実習方法③分娩期 1) 助産過程を展開し、分娩期のケアを行う。 2) 産婦の安全安楽を考えた分娩介助を行う。 実習方法④産褥期・新生児期 1) 産褥入院中の褥婦および新生児の助産過程を展開し、ケアを実施するとともに個別指導計画を立案し、保健指導を行う。 2) 退院後～1か月健診までの間に家庭訪問を行う。 3) 家族計画の個別指導案を立案し、産後１か月健診で家族計画指導を実施する。 4) 産後2～3か月及び6か月頃に家庭訪問を行い、対象を取り巻く環境および生活状況を理解し、助産過程に基づいて母親とその家族に対してケアを実施する。	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 周産期医療施設 診療所	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

詳細は実習要項参照

【７】　評価方法・基準

実習態度30%、実習記録50%、出席状況20%で、総合的に評価する。
実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

特に指定しない。

【10】　参考書

特に指定しない。

【11】　備考(関連科目等)

妊娠、産褥、新生児期のケア計画および指導案の準備
助産学特論Ⅰ～Ⅴ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。
原則、すべて臨地で実習を行う

科目名(日本語)	助産学実習Ⅱ（分娩介助実習）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅡ	選択	実習	1年次･春	6単位 270時間
科目責任者	渡邉　幸恵				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）加藤知子（看護学研究科・講師）山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邉幸恵　sachie.watanabe■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日12:00～13:00 山本由香　毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美　毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉　毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Google Classroom、Zoom　PC

【２】　授業概要

正常分娩の直接介助・間接介助、帝王切開事例、吸引・鉗子分娩事例、胎児・新生児仮死、などのリスク事例や無痛分娩等について経験する。

【３】　到達目標

1. 分娩期の産婦と胎児に、助産診断と助産技術を用いて安全で安楽な分娩介助が実施できる。
2. 正常か否かの診断やリスク状態にある母子へのケアを対象に助産過程を用いて適切な助産ケアが実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	実習方法①助産過程の展開 原則として母体・胎児共に妊娠期を正常に経過し、分娩期の産婦を受け持つ。助産診断のための母体・胎児の情報収集・アセスメントを行い、個別性に応じた分娩各期の助産計画を立案する。 実習方法②産婦のケア 実習方法③分娩の直接介助 実習方法④分娩から分娩第4期のケアの実施 実習方法⑤間接介助 実習方法⑥胎盤計測 実習方法⑦新生児のケア 実習方法⑧産褥期・新生児期の助産過程展開 実習方法⑨正常逸脱に対する対処 実習方法⑩周産期医療チームの連携	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 周産期医療施設 診療所	渡邉・富岡・加藤・山本・疋田・伏見

【６】　事前・事後学習とその時間

1. 実習施設は、東邦大学医療センター大森病院、大森赤十字病院、前村医院、瀬尾医院とする。
＊詳細は実習要項参照
2. 助産過程における助産診断や助産計画、直接・間接分娩介助の評価等は、所定の記録用紙を用いて展開し、終了後まとめて速やかに提出する。

【７】　評価方法・基準

実習態度20%、実習記録40%、実習評価表40%で総合的に評価する。
実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

1）我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座７助産診断・技術学Ⅱ［2］分娩期・産褥期」医学書院・2021年（第6版）
2）日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断」医学書院・2021年（第5版）

【10】　参考書

実習前に指定する。

【11】　備考(関連科目等)

分娩介助技術の復習をすること。
助産学特論Ⅰ～Ⅴ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。
すべて臨地で実習を行う。

科目名(日本語)	助産学実習Ⅲ（コミュニティヘルス）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅢ	選択	実習	1年次･秋	2単位 90時間
科目責任者	加藤　知子				
担当教員	加藤知子（看護学研究科・講師） 渡邊幸恵（看護学研究科・講師） 山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	加藤知子 tomoko.kato■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Google classroom、zoom、PC

【２】　授業概要

地域の母子保健事業や母子ケア活動、健康教育に参加する。学生自身も実際に健康教育を実施し、評価する。さらに、地域における助産師の役割について考察する。

【３】　到達目標

1. コミュニティにおける母子保健活動に参加し地域の特性を把握することにより、地区診断をすることができる。
2. 地域における母子の健康問題を踏まえ、安心して子育てができる母子保健のあり方を説明できる。
3. 思春期にある男女および成熟期にある女性を対象にした健康教育プログラムを作成し、実施評価できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	1.地域おける母子に対する助産ケア　（助産所） 1）助産所の所在地の地区診断を行い、母子保健の現状および女性の健康問題等について分析する。 2）地区診断に基づいた助産ケアのプログラムを企画し、実施および評価を行う。 3）助産所で実施されている出産準備教室、産後の健康教室、各種子育て支援活動および家庭訪問を実施する。 2.産褥期・育児期における支援　（産後ケアセンター） 1）子育て支援の場に参加し、産後の母子保健活動を体験する。 2）地域における子育て支援などの母子保健事業の実際を見学する。 3.思春期における健康指導　（中学校） 1）プレコンセプションケアの視点から思春期の学校保健における心身共に健康を維持増進できる保健管理の実際について学ぶ。 2）思春期における男女を対象に心身共に健康を維持増進するための指導を行う。	加藤・山本・渡邉・伏見・疋田
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 助産所 産後ケアセンター 中学校	

【６】　事前・事後学習とその時間

＊詳細は実習要項参照

【７】　評価方法・基準
課題への取り組み30%、レポート30%、実習記録30%、出席状況10%で、総合的に評価する。
評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。
授業時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

【８】　フィードバック方法
評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【９】　教科書
必要時提示する。

【10】　参考書
必要時提示する。

【11】　備考(関連科目等)
授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。
助産学特論Ⅰ～Ⅷ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、グループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	助産学実習Ⅳ（助産管理）	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Midwifery PracticumⅣ	選択	実習	1年次･秋	2単位 90時間
科目責任者	加藤　知子				
担当教員	加藤知子（看護学研究科・講師） 渡邊幸恵（看護学研究科・講師） 山本由香（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	加藤知子 tomoko.kato■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	加藤知子 毎週月曜日12:00～13:00 渡邊幸恵 毎週月曜日12:00～13:00 山本由香 毎週月曜日12:00～13:00 疋田仁美 毎週月曜日12:00～13:00 伏見枝莉 毎週月曜日12:00～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Google classroom、zoom、PC

【２】　授業概要

開業権を活かした助産経営管理、業務形態や出産ケアについて病院と助産所の特徴を学び、現在の医療環境における位置づけ・働き方を考察する。様々な出産施設の特徴をふまえた施設内での連携のあり方、さらに保健・医療・福祉等の関連機関との連携のあり方を追究する。
また、ハイリスク妊産婦への助産ケアと治療管理の実際を学ぶ。

【３】　到達目標

1. 助産管理に必要な管理の原則と技法にそって、それぞれの施設の助産業務の範囲と助産管理の特性を妊産婦管理や新生児医療・ケアに参画し、その管理方法の特徴を述べることができる。
2. 施設内、施設間、地域社会において、助産実践と保健・医療・福祉の連携のあり方を説明できる。
3. 組織変革の方策、手順について説明できる。
4. ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	1.助産管理（病院） 1）地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすための助産管理の実際を見学する。 2）指定の日時のスタッフの配置について考えることができる。 3）院内連携、地域連携について学ぶ。 4）リスクマネジメント、質の保証に関する工夫等を考察する。 2.助産管理（助産所） 1）助産所の助産管理の実際についてオリエンテーションを受け、法的根拠に基づく管理・運営の実際について学ぶ。 2）医療安全の確保と医療事故への対応と関連機関等の連携について学ぶ。 3）助産所においてカンファレンスを行い、緊急時および切れ目ない妊娠、出産、育児をするための協働、連携について学びを深め、共有する。 3.助産管理（産後ケアセンター） 1）法的根拠に基づく管理・運営の実際について学ぶ。 2）医療安全の確保と医療事故への対応と関連機関等の連携について学ぶ。 3）産褥期にある家族のケアを行う上で必要となる施設内の医療専門職や地域関連機関との連携のあり方を見学する。 4.ハイリスクの妊産婦の管理 1)ハイリスクケースの地域連携の実際を見学する。 2)ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。	加藤・山本・渡邉・伏見・疋田
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 周産期医療施設 産後ケアセンター 助産所	

【６】　事前・事後学習とその時間

病院、助産所、産後ケアセンターをローテーションしながら実習を行う。
実習施設
1.病院：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター佐倉病院、愛育病院
2.助産院：バースあおば、みやした助産院、神奈川県助産師会立とわ助産院
3.産後ケアセンター：世田谷区立産後ケアセンター

※佐倉病院、助産院実習は宿泊を伴う。宿泊にかかる費用は学生の実費負担とする。
※詳細は、別途要項を参照のこと。

【７】　評価方法・基準

実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
事前の課題と事後の課題（30%）、実習記録・カンファレンス資料（50%）、実習態度（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【９】　教科書

別途、必要時に提示する。

【10】　参考書

別途、必要時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。
助産学特論Ⅷの単位の修得見込みであることを実習の条件とする。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、グループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**臨床看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）、原沢のぞみ（看護学研究科・准教授）、佐藤由紀子（看護学研究科・講師）、　申　于定（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【2】　授業概要

臨床で活用されている看護理論の構成要素、理論の枠組み、理論の有効性と限界について説明することができる。

【3】　到達目標

臨床看護学領域で活用できる理論・概念について学び、看護における有用性を説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1ー2	ガイダンス	オリエンテーション	原
3－6	臨床看護学の特徴	臨床看護学の本質 看護師の役割	原
7－10	臨床看護学に有用な理論･概念①(発達の理解)	ライフサイクル理論 発達理論･役割理論	原沢
11－14	臨床看護学に有用な理論･概念②(対象の理解)	人間関係論 セルフケア理論・ニード理論	原沢
15－18	臨床看護学に有用な理論･概念③(危機状態の理解)	危機理論 ストレス理論・コーピング理論	佐藤
19－22	臨床看護学に有用な理論･概念④(喪失体験の理解)	自己概念･自尊感情 ボディイメージ 障害の受容過程	原
23－24	臨床看護学に有用な理論･概念⑤(慢性状況の理解)	病みの軌跡 不確かさ	申
25－27	臨床看護学に有用な理論･概念⑥(家族の理解)	家族アセスメント 家族看護	佐藤

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準
授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	原沢のぞみ				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）、原沢のぞみ（看護学研究科･准教授）、佐藤由紀子(看護学研究科・講師) 申　于定（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	原沢のぞみnozomi.harasawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【２】　授業概要

健康各期の対象の特徴と看護の課題を明らかにするためのアセスメントの視点について説明できる。
自己管理が必要な対象の健康支援のあり方について説明できる。

【３】　到達目標

健康レベル(急性期、回復期、慢性期、終末期)に応じた看護をホリステックな視点から説明できる。
対象の健康を支えるための学習理論や教育方法について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	ガイダンス	オリエンテーション	原沢
3－6	健康問題を抱える対象の看護①	生命の危機状態にある対象の特徴と看護	佐藤
7－10	健康問題を抱える対象の看護②	回復過程にある対象の特徴と看護	佐藤
11－14	健康問題を抱える対象の看護③	慢性状態にある対象の特徴と看護	申
15－18	健康問題を抱える対象の看護④	終末期にある対象の特徴と看護	申
19－22	健康を支える学習支援①	成人学習理論に基づく学習支援	原
23－24	健康を支える学習支援②	セルフマネジメント教育	原
25－26	教育的介入の実際	事例検討	原沢
27	学びの統合	まとめ	原・原沢・佐藤･申

【６】　事前・事後学習とその時間
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準
授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え,学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Clinical Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子　(看護学研究科・教授)、湯浅玲奈（看護学研究科･教授）、原沢のぞみ（看護学研究科・准教授） 佐藤由紀子(看護学研究科・講師)、申于定　(看護学研究科・講師)				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、PC

【2】　授業概要

量的研究・質的研究の文献クリティークを行う際の視点について説明できる。クリティークを通して、臨床における看護の課題について説明できる。フィールドワークを行うための具体的方法について説明できる。

【3】　到達目標

臨床看護学領域の文献クリティークを行うことができる。クリティークを通して、臨床看護における課題を発見できる。導き出した課題をもとにフィールドワークの計画書を作成することができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1−4	ガイダンス	オリエンテーション	原
5−8	文献クリティーク①	臨床看護学領域における研究の動向と課題	原
9−12	文献クリティーク②	質的研究クリティーク	申
13−16	文献クリティーク③	量的研究クリティーク	原沢
17−18	フィールドワークの基本①	フィールドワークを行う上での倫理	佐藤
19−22	フィールドワークの基本②	フィールドワーク計画の作成	原･湯浅･原沢
23−24	フィールドワークの基本④	フィールドワーク計画書の発表	原･湯浅・原沢
25−27	フィールドワークの基本⑤	フィールドワーク計画書の修正･課題の明確化	原･湯浅・原沢

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業へ取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Clinical Nursing Ⅱ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）、湯浅玲奈（看護学研究科･教授）、原沢のぞみ（看護学部･准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45－13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【２】　授業概要

フィールドワークのプロセスを通して、研究の意義について説明できる。研究テーマに基づいた研究計画を作成できる。研究を遂行する上での自己の課題を述べることができる。

【３】　到達目標

各自が立案したフィールドワークを通して研究テーマの妥当性を説明できる。フィールドワークの結果をもとに研究計画書を作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	ガイダンス	オリエンテーション	原
3－6	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際①	原･湯浅･原沢
7－10	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際②	原･湯浅･原沢
11－14	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際③	原･湯浅･原沢
15－18	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際④中間評価	原･湯浅・原沢
19－22	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際⑤	原･湯浅・原沢
23－25	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際⑥課題の抽出	原･湯浅・原沢
26ー27	フィールドワーク演習	フィールドワークの実際⑦課題の明確化	原･湯浅・原沢

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準
フィールドワーク実施レポート40%、プレゼンテーション40%、ディスカッション20%によって授業展開する。
課題レポートの評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、開講時に提示する。

【10】　参考書
参考文献は、開講時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**高齢者看護学特論I**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Gerontological Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀実morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

看護学を学ぶ者として「高齢者に関心を持つ」「高齢者を知る」ための自分自身の基盤についてまずは振り返り、再構築する。

【３】　到達目標

1. 老年学、老年医学等、高齢者に関する学問領域を知り、高齢者看護学との関係を理解することができる。
2. 高齢者の健康課題を生活機能の側面で評価・分析できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者看護学とは1	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
2	高齢者看護学とは2	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
3	高齢者看護学とは3	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
4	高齢者看護学とは4	老年学、老年医学、そして高齢者看護学	横井・藤野
5	高齢者と健康問題1	フレイル・疾患と生活機能（食事）	横井・藤野
6	高齢者と健康問題2	フレイル・疾患と生活機能（食事）	横井・藤野
7	高齢者と健康問題3	フレイル・疾患と生活機能（排泄）	横井・藤野
8	高齢者と健康問題4	フレイル・疾患と生活機能（排泄）	横井・藤野
9	高齢者と健康問題5	フレイル・疾患と生活機能（活動）	横井・藤野
10	高齢者と健康問題6	フレイル・疾患と生活機能（活動）	横井・藤野
11	高齢者と健康問題7	フレイル・疾患と生活機能（休息）	横井・藤野
12	高齢者と健康問題8	フレイル・疾患と生活機能（休息）	横井・藤野
13	高齢者と健康問題9	フレイル・疾患と生活機能（身じたく）	横井・藤野
14	高齢者と健康問題10	フレイル・疾患と生活機能（身じたく）	横井・藤野
15	高齢者と健康問題11	フレイル・疾患と生活機能（コミュニケーション）	横井・藤野
16	高齢者と健康問題12	フレイル・疾患と生活機能（コミュニケーション）	横井・藤野
17	ケア提供者の現状と課題1	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
18	ケア提供者の現状と課題2	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
19	ケア提供者の現状と課題3	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
20	ケア提供者の現状と課題4	家族を含むケア提供者について	横井・藤野
21	社会資源の活用と課題1	高齢者の住まいの変遷	横井・藤野
22	社会資源の活用と課題2	高齢者の住まいの変遷	横井・藤野
23	多職種による高齢者支援のための評価1	文献購読	横井・藤野
24	多職種による高齢者支援のための評価2	文献購読	横井・藤野
25	高齢者看護学の役割1	プレゼンテーションと討議	横井・藤野
26	高齢者看護学の役割2	プレゼンテーションと討議	横井・藤野
27	高齢者看護学の役割3	プレゼンテーションと討議	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（プレゼンテーション等）40%、課題レポート60%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に配布される文献等資料をよく読んでおくこと。
講義およびゼミ形式で行う。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**高齢者看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Gerontological Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

高齢者の暮らしおよび療養の場の特徴を踏まえたヘルスアセスメントについてその方法も含めて再考する。

【３】　到達目標

1.　高齢者看護の実践の場の現状と課題について先行研究から推測することができる。
2.　関心のある看護実践の場に赴き、そこで実施されているヘルスアセスメントおよび看護支援について、フィールドワークを行い柔軟なアセスメント技術の重要性を理解する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問題1	文献検討	横井・藤野
2	医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問題2	文献検討	横井・藤野
3	地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題1	文献検討	横井・藤野
4	地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題2	文献検討	横井・藤野
5	フィールドワーク計画立案1	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	横井・藤野
6	フィールドワーク計画立案2	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	横井・藤野
7	フィールドワーク計画立案3	フィールドワーク計画の発表	横井・藤野
8	フィールドワーク計画立案4	フィールドワーク計画の発表	横井・藤野
9	フィールドワーク1	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
10	フィールドワーク2	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
11	フィールドワーク3	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
12	フィールドワーク4	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
13	フィールドワーク5	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
14	フィールドワーク6	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
15	フィールドワーク7	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
16	フィールドワーク8	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
17	フィールドワーク9	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
18	フィールドワーク10	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
19	フィールドワーク11	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
20	フィールドワーク12	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
21	フィールドワーク13	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
22	フィールドワーク14	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
23	フィールドワーク15	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究	横井・藤野
24	フィールドワークでの学びの共有1	発表・討議	横井・藤野
25	フィールドワークでの学びの共有2	発表・討議	横井・藤野
26	フィールドワークでの学びの共有3	発表・討議	横井・藤野
27	フィールドワークでの学びの共有4	発表・討議	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

高齢者医療のさまざまな場について、最新の医療制度、介護保険制度を踏まえ学習しておく。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**高齢者看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Gerontological Nursing Ⅱ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

医療福祉施設の人員配置、施設基準等を踏まえた上で、高齢者のヘルスアセスメントをいかした環境調整を行う看護の役割を再考する。

【３】　到達目標

1. 医療福祉施設で療養生活を送る高齢者の環境をアセスメントすることができる。
2. 看護における療養環境マネジメントの重要性について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療福祉施設の療養環境の現場と課題1	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
2	医療福祉施設の療養環境の現場と課題2	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
3	医療福祉施設の療養環境の現場と課題3	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
4	医療福祉施設の療養環境の現場と課題4	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
5	医療福祉施設の療養環境の現場と課題5	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
6	医療福祉施設の療養環境の現場と課題6	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
7	医療福祉施設の療養環境の現場と課題7	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
8	医療福祉施設の療養環境の現場と課題8	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議	横井・藤野
9	フィールドワーク計画立案1	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
10	フィールドワーク計画立案2	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
11	フィールドワーク計画立案3	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
12	フィールドワーク計画立案4	フィールドワークの場の紹介と計画発表	横井・藤野
13	フィールドワーク1	フィールドワクークの実施	横井・藤野
14	フィールドワーク2	フィールドワクークの実施	横井・藤野
15	フィールドワーク3	フィールドワクークの実施	横井・藤野
16	フィールドワーク4	フィールドワクークの実施	横井・藤野
17	フィールドワーク5	フィールドワクークの実施	横井・藤野
18	フィールドワーク6	フィールドワクークの実施	横井・藤野
19	フィールドワーク7	フィールドワクークの実施	横井・藤野
20	フィールドワーク8	フィールドワクークの実施	横井・藤野
21	フィールドワーク9	フィールドワクークの実施	横井・藤野
22	フィールドワーク10	フィールドワクークの実施	横井・藤野
23	フィールドワーク11	フィールドワクークの実施	横井・藤野
24	フィールドワーク12	フィールドワクークの実施	横井・藤野
25	成果発表と討議1	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野
26	成果発表と討議2	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野
27	成果発表と討議3	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。
施設基準について事前学習をしておく。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	小児看護学特論Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）天野里奈（看護学研究科・助教）高山充（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

成長発達理論や家族理論、セルフケア理論、コーピング理論等、小児看護の基盤を成す理論について理解を深め、小児看護への活用を考察する。

【３】　到達目標

１．代表的な家族理論について理解し、小児看護への活用を述べることができる
２．小児各期の成長発達について理論に基づき判断することができる
３．小児とその家族のセルフケアやコーピング等に関する理論について、発達段階をふまえて理解し看護への活用を述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児看護の理論(1)	コースオリエンテーション	荒木
2	小児看護の理論(2)	小児看護の専門性、小児看護領域での高度実践に必要な能力看護実践体験をもとに討議し今後の学修について展望する	荒木
3	成長発達に関する理論(1)	新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論　(エリクソン、ピアジェ等)	荒木
4	成長発達に関する理論(2)	新生児期から思春期にわたる成長発達に関する代表的な理論　(エリクソン、ピアジェ等)	荒木
5	成長発達に関する理論(3)	乳幼児の成長発達。愛着理論、母子相互作用	荒木
6	成長発達に関する理論(4)	乳幼児の成長発達。愛着理論、母子相互作用	荒木
7	成長発達に関する理論(5)	学童・思春期の成長発達、ヘルスプロモーション	河上
8	成長発達に関する理論(6)	学童・思春期の成長発達、ヘルスプロモーション	河上
9	成長発達に関する理論(7)	自身の看護実践事例を提示し、成長発達の理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
10	家族に関する理論(1)	家族の定義、日本における小児と家族の動向、家族看護・　家族看護学の目的、小児と家族の健康問題と看護の役割	荒木
11	家族に関する理論(2)	・家族理論とは，家族システム理論と小児看護への活用 ・家族機能，家族発達理論，家族アセスメントモデルと小児看護への活用	荒木
12	家族に関する理論(3)	・家族のレジリエンス	河上
13	家族に関する理論(4)	カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、家族のストレス対処理論と小児看護への活用	荒木
14	家族に関する理論(5)	カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、家族のストレス対処理論と小児看護への活用	荒木
15	家族に関する理論(6)	自身の看護実践事例を提示し、家族理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
16	家族に関する理論(7)	自身の看護実践事例を提示し、家族理論を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
17	セルフケア・コーピングに関する理論(1)	オレム看護一般理論（セルフケア理論、セルフケア不足理論看護システム理論）と小児看護への活用	荒木
18	セルフケア・コーピングに関する理論(2)	オレム看護一般理論（セルフケア理論、セルフケア不足理論看護システム理論）と小児看護への活用	荒木
19	セルフケア・コーピングに関する理論(3)	ストレス・コーピング理論と小児看護への活用	河上
20	セルフケア・コーピングに関する理論(4)	ストレス・コーピング理論と小児看護への活用	河上
21	セルフケア・コーピングに関する理論(5)	自尊感情と自己効力感の理論と小児看護への活用	河上
22	セルフケア・コーピングに関する理論(6)	自尊感情と自己効力感の理論と小児看護への活用	河上
23	セルフケア・コーピングに関する理論(7)	自身の看護実践事例を提示し、セルフケア理論やストレス・コーピング理論等を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
24	セルフケア・コーピングに関する理論(8)	自身の看護実践事例を提示し、セルフケア理論やストレス・コーピング理論等を用いた分析と討論を通して理解を深める	荒木・河上
25	理論の小児看護実践への活用(1)	小児看護学特論Ⅰで学修した内容に関する英文献を一つ選択し、全文訳および文献についての考察を加え、プレゼンし、文献コピーと共に提出する	荒木・河上
26	理論の小児看護実践への活用(2)	小児看護学特論Ⅰで学修した内容に関する英文献を一つ選択し、全文訳および文献についての考察を加え、プレゼンし、文献コピーと共に提出する	荒木・河上
27	まとめ	授業内容のまとめ	荒木・河上

【6】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・Hockenberry, MJ, et al ： Wong's Nursing Care of Infants and Children (11th ed.), Mosby, 2019
・Potts, NL, Mandleco,BL: Pediatric Nursing Caring for Children and Their Families, Delmar, 2012
・南裕子, 野島佐由美, 他：看護理論集 第3版, 日本看護協会出版会, 2013
・鈴木和子, 渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第5版, 日本看護協会出版会, 2019
・奥山眞法子：小児医療心理学, エルゼビア・ジャパン, 2007
・ 舟島なをみ: 看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2017
その他、適宜紹介、提示する。

【10】　参考書

・上田礼子: 生涯人間発達学 改訂第2版, 三輪書店, 2012
・ロレイン・M・ライト&ジャニス・M・ベル 著 小林奈美 訳・監訳/松本和史 訳：病の苦悩を和やらげる家族システム看護, 日本看護協会出版会, 2011
・ Denham, S., et.al: Family-Focused Nursing Care, F. A. Davis, 2016
・ Rowe, J., et al: Family Health Care Nursing: Theory, Practice, and Research(6th ed.), F. A. Davis, 2018
・ Perri J. Bomar: Promoting Health in Families(3rd ed.), Saunders, 2004

【11】　備考(関連科目等)

講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学特論Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

小児を取り巻く日本の保健医療・社会福祉制度とその適応、活用の現状と課題について学び、専門看護師としての援助のあり方を考察する。

【３】　到達目標

１．小児とその家族を対象とした保健医療・社会福祉制度と、その適応について述べることができる
２．日本における保健医療・社会福祉制度の活用の現状と、地域差や制度が届きにくい対象への民間の社会資源による活動を説明できる
３．日本における学校保健と特別支援教育の現状と課題について述べることができる
４．フィールドワークを通して専門看護師としての支援のあり方を考察する

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児保健医療・社会福祉制度における看護の役割	コースオリエンテーション	荒木
2	小児における多職種連携・調整(1)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割	荒木
3	小児における多職種連携・調整(2)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割	荒木
4	小児における多職種連携・調整(3)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割、調整	荒木
5	小児における多職種連携・調整(4)	小児を取り巻く関連職種の背景と役割、調整	荒木
6	保健医療・社会福祉制度(1)	小児保健制度	河上
7	保健医療・社会福祉制度(2)	小児保健制度	河上
8	保健医療・社会福祉制度(3)	医療・診療報酬	荒木
9	保健医療・社会福祉制度(4)	医療・診療報酬	荒木
10	保健医療・社会福祉制度(5)	児童福祉関連	荒木
11	保健医療・社会福祉制度(6)	児童福祉関連	荒木
12	学校保健と特別支援教育(1)	学校保健	河上
13	学校保健と特別支援教育(2)	学校保健	河上
14	学校保健と特別支援教育(3)	特別支援教育	荒木
15	学校保健と特別支援教育(4)	特別支援教育	荒木
16	保健医療・社会福祉制度の実際(1)	子育て世代包括支援センター	河上
17	保健医療・社会福祉制度の実際(2)	子育て世代包括支援センター	河上
18	保健医療・社会福祉制度の実際(3)	医療型障害児入所施設、通園施設における看護	荒木
19	保健医療・社会福祉制度の実際(4)	医療型障害児入所施設、通園施設における看護	荒木
20	保健医療・社会福祉制度の実際(5)	在宅療養児の看護	荒木
21	保健医療・社会福祉制度の実際(6)	在宅療養児の看護	荒木
22	保健医療・社会福祉制度の活用(1)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
23	保健医療・社会福祉制度の活用(2)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
24	保健医療・社会福祉制度の活用(3)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
25	保健医療・社会福祉制度の活用(4)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
26	保健医療・社会福祉制度の活用(5)	学生の関心のある慢性的な健康問題に焦点を当て、小児と家族が活用できる保健医療・社会福祉制度について、成長や健康状態、医療の場などによる変化、地域による特性もふまえて調べ、専門看護師としての支援のあり方を考察し、レポートを作成し、プレゼンテーションを通して専門看護師としての援助の在り方について理解を深める	荒木・河上
27	まとめ	授業のまとめ	

【６】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ 加藤邦子, 牧野カツコ, 他：子どもと地域と社会をつなぐ家庭支援論. 福村出版, 2015
・ 加藤正仁, 宮田広善: 発達支援学 その理論と実践. 協同医書出版社, 2011
・ マイケル・C・ロバーツ編, 奥山真紀子, 丸 光惠 監訳: 小児医療心理学. エルゼビア・ジャパン, 2007
・ 日本小児神経学会社会活動委員会 編: 医療的ケア研修テキスト. クリエイツかもがわ, 2012
・ 武藤隆, 安藤智子：子育て支援の心理学―家庭・園・地域で育てる (有斐閣コンパクト), 有斐閣, 2008.
・ Richard R. Abidin 原著, 兼松百合子他著: PSI育児ストレスインデックス手引き 2訂版. 雇用問題研究会, 2016

その他、適宜紹介、提示する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

講義や演習を基に、セミナーる形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学特論Ⅲ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health Nursing Ⅲ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授），河上智香（看護学研究科・准教授）、天野里奈（看護学研究科・助教）、高山充（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子　akiko.araki■med.toho-u.ac.jp　※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日　12:30 ～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

小児のフィジカルアセスメント、成長発達評価、養育環境の評価について理解を深め、実践に活用できるよう進めていく。

【３】　到達目標

小児の成長発達評価や健康状態および環境を査定するために必要となる高度実践看護の知識と技法を修得する。
１．乳児・幼児・学童思春期のフィジカルアセスメントのポイントおよび系統的なフィジカルアセスメントを理解し、健康状態を査定できる
２．小児の成長発達および成長発達に影響を与える環境と、その査定方法を理解し活用できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児のフィジカルアセスメント①：成長発達、養育環境の評価	コースオリエンテーション（講義）	荒木
2	小児のフィジカルアセスメント②	呼吸系のフィジカルアセスメント（講義）	河上、天野
3	小児のフィジカルアセスメント③	呼吸系のフィジカルアセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	河上、天野
4	小児のフィジカルアセスメント④	循環系のフィジカルアセスメント（講義）	河上、天野
5	小児のフィジカルアセスメント⑤	循環系のフィジカルアセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	河上、天野
6	小児のフィジカルアセスメント⑥	消化系のフィジカルアセスメント（講義）	荒木・高山
7	小児のフィジカルアセスメント⑦	消化系のフィジカルアセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木・高山
8	小児のフィジカルアセスメント⑧	脳神経系のフィジカルアセスメント（講義）	荒木
9	小児のフィジカルアセスメント⑨	脳神経系のフィジカルアセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木
10	小児のフィジカルアセスメント⑩	運動系のフィジカルアセスメント（講義）	荒木
11	小児のフィジカルアセスメント⑪	運動系のフィジカルアセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木
12	小児のフィジカルアセスメント⑫	感覚系（眼科、耳鼻科）、皮膚のフィジカルアセスメント（講義）	河上
13	小児のフィジカルアセスメント⑬	感覚系（眼科、耳鼻科）、皮膚のフィジカルアセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	河上
14	小児のフィジカルアセスメント⑭	全身のフィジカルアセスメントとその報告（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木
15	小児の成長評価①	小児の成長発達の評価　概論（講義）	河上、高山
16	小児の成長評価②	成長曲線、肥満度等を活用した横断的評価と縦断的評価（プレゼンテーション，ディスカッション）	河上、高山
17	小児の発達のアセスメント①	乳児・幼児・学童思春期の発達アセスメントのポイント（講義）	荒木、天野
18	小児の発達のアセスメント②	乳児・幼児・学童思春期の発達アセスメント（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木、天野
19	小児の発達のアセスメント③	小児の発達検査、知能検査概論とその適応（講義）	荒木
20	小児の発達のアセスメント④	DENVERⅡ、遠城式乳幼児分析的発達検査法による発達検査（講義）	荒木
21	小児の発達のアセスメント⑤	親子の相互作用、育児ストレス、家庭環境、睡眠リズム（講義）	荒木、天野
22	小児の発達のアセスメント⑥	親子の相互作用、子どもの非言語的Cue（講義）	荒木
23	小児の発達のアセスメント⑦	子どもを取り巻く社会環境、社会的決定要因（講義）	荒木
24	健康上の問題をもつ小児の成長発達、健康状態、環境の査定①＊	健康上の問題をもつ小児１事例の成長発達・健康状態・環境の査定（フィールドワーク）	荒木、河上
25	健康上の問題をもつ小児の成長発達、健康状態、環境の査定②	結果を報告書にまとめ、看護計画を作成（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木、河上
26	健康上の問題をもつ小児の成長発達、健康状態、環境の査定③	査定、報告書、および看護計画についてディスカッション（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木、河上
27	小児の査定　総括	小児の査定に関する学びと課題をディスカッション（プレゼンテーション，ディスカッション）	荒木・河上・天野・高山

【6】　事前・事後学習とその時間

事前に課題について文献抄読、視聴覚教材を活用し、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論の準備を行う。授業中に修得できなかった学習内容や技術は、事後に学習を行う。30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

プレゼンテーション50%、フィールドワークのレポート50%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ 小野田千枝子, 土井まつ子 他: こどものフィジカルアセスメント. 金原出版, 2004
・ Burns, C.E.et al: Pediatric primary Care (6th edition), Saunders, 2016
・ 藤枝憲二, 加藤則子: 現場で役立つ成長曲線, 診断と治療社, 2007
・ 榊原洋一, 小林美由紀: 子どもの保健演習ノート 改訂第3版. 診断と治療社、2016
・Frankenburg, W,:DENVERⅡ 第2版, 日本小児医事出版社, 2009

その他、視聴覚教材、各種統計資料（省庁、白書、学会など）、ガイドラインなど

【10】　参考書

適宜紹介、提示する

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。小児看護学特論Ⅱ・Ⅳ、小児看護学演習Ⅱの学習内容を統合し取り組む。
＊フィールドワークは東邦大学医療センター大森病院小児科外来あるいは小児科病棟において、健康障害のある子ども1事例を査定し、報告書および看護計画を作成し、ディスカッションにより査定や看護計画の妥当性等についてディスカッションする。

科目名(日本語)	小児看護学特論Ⅳ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health Nursing Ⅳ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授），河上智香（看護学研究科・准教授） 高橋浩之（東邦大学医学部小児科学教授・兼担医師）、金村英秋（東邦大学医療センター佐倉病院教授、小児神経科医師・兼担医師）、濱崎祐子（東邦大学医学部腎臓学講座准教授・兼担医師）、片桐由紀子（大森病院遺伝診療部・兼担医師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子　akiko.araki■med.toho-u.ac.jp　※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日　12:30 ～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, Google Forms

【２】　授業概要

小児の代表的な健康問題、学生のサブスペシャリティとなる健康問題について、病態生理・検査法とその解釈・診断・治療法（栄養療法、薬物療法など）・症状マネジメントなどの理解を深め、実践への応用を検討することができるよう、小児科医・小児外科医等からの授業を中心に進めていく。

【３】　到達目標

小児の代表的な疾患について、その病態生理・検査法とその解釈・診断・治療法（栄養療法、薬物療法など）・症状マネジメントなどの理解を深め、高度実践看護の基礎となる知識を修得する。
１．乳児・幼児・学童思春期の代表的な疾患について病態生理、検査とその解釈法、診断、治療法（栄養療法、薬物療法）、症状マネジメント等について説明できる。
２．診断・治療の際に重要となる感染予防対策、リハビリテーション、遺伝カウンセリングなどについて説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児の代表的疾患と看護（概論）	コースオリエンテーション 乳児・幼児・学童・思春期の発症率、死亡率、医療経済等からみた代表疾患、および、高度実践看護の特徴について概説する。（講義）	荒木
2	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）①	呼吸器疾患の病態生理、診断と治療法①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
3	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）②	呼吸器疾患の病態生理、診断と治療法②（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
4	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）③	循環器疾患の病態生理、診断と治療法①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
5	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑤	循環器疾患の病態生理、診断と治療法②（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
6	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑤	消化器疾患の病態生理、診断と治療法①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
7	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑥	消化器疾患の病態生理、診断と治療法②（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・医師）
8	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑦	腎・泌尿・生殖器疾患の病態と診断（講義）	濱崎祐子（東邦大学医学部准教授・医師）
9	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑧	腎・泌尿・生殖器疾患の治療、症状マネジメント（講義）	濱崎祐子（東邦大学医学部准教授・医師）
10	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑨	腎・泌尿・生殖器疾患の腎移植、長期的予後（講義）	濱崎祐子（東邦大学医学部准教授・医師）
11	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑩	小児外科疾患の病態生理、診断と治療法①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
12	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑪	小児外科疾患の病態生理、診断と治療法②（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
13	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑫	腫瘍性疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
14	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑬	代謝・内分泌疾患の病態生理、診断と治療法①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
15	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑭	代謝・内分泌疾患の病態生理、診断と治療法②（講義）	
16	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑮	免疫・アレルギー疾患の病態生理、診断と治療法①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
17	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑯	免疫・アレルギー疾患の病態生理、診断と治療法②（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
18	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑰	血液疾患の病態と診断、治療と長期的予後①（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
19	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑱	血液疾患の病態と診断、治療と長期的予後②（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
20	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑲	神経・運動器疾患、医療的ケア児の病態生理（講義）	金村英秋（東邦大学医療センター佐倉病院小児神経科・兼担医師）
21	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）⑳	神経・運動器疾患、医療的ケア児の診断と治療法（講義）	金村英秋（東邦大学医療センター佐倉病院小児神経科・兼担医師）
22	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	神経・運動器疾患、医療的ケア児のリハビリテーション（講義）	金村英秋（東邦大学医療センター佐倉病院小児神経科・兼担医師）
23	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	小児精神科疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
24	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	感染症の病態生理、診断と治療法（講義）	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
25	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	遺伝性疾患の病態生理、診断と治療法（講義）	片桐由紀子（大森病院遺伝診療部・兼担医師）
26	小児の代表的疾患の病態・診断・治療（各論）？	遺伝カウンセリング（講義）	片桐由紀子（大森病院遺伝診療部・兼担医師）

27	小児領域における高度実践看護	小児領域における代表疾患を踏まえ、高度実践看護について考察する（プレゼンテーション、ディスカッション）	荒木、河上

【６】　事前・事後学習とその時間

事前に課題について文献抄読、視聴覚教材を活用し、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論の準備を行う。授業中に修得できなかった学習内容は、事後に学習を行う。30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

講義への取り組み30% ，　プレゼンテーション50%, レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【８】　フィードバック方法

授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ 五十嵐 隆: 小児科診療ガイドライン 第3版. 総合医学社, 2017
・ 北村 聖 総編集: 臨床病態学 小児編. ヌーヴェルヒロカワ, 2013
・ ナースの小児科学 改訂6版, 中外医学社, 2015

その他、適宜紹介、提示する。

【10】　参考書

適宜紹介、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Child Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）天野里奈（看護学研究科・助教）、高山充（看護学研究科・助教）、竹田佳子、長順子（兼担・小児看護専門看護師）市原真穂（千葉科学大学教授，非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

小児看護領域における倫理的問題の特徴と倫理調整、ソーシャルサポートについて理解を深める。
様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得する。

【３】　到達目標

１．小児看護領域における倫理的問題の特徴とその分析方法、倫理調整とその評価、および、ソーシャルサポートについて理解し、必要な看護を述べることができる
２．様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得し、必要な看護を述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児看護領域における高度実践	コースオリエンテーション 小児看護領域で求められる専門性の高い看護について概説する	荒木
2	小児看護領域における倫理的課題(1)	・小児看護における倫理原則、小児の権利、QOL ・小児の意思決定能力と意思決定への参画（インフォームド・アセント含む） ・小児の倫理的問題の特徴とその分析方法（重症新生児、障害児、予後不良時における治療方法の決定）	荒木・河上・天野・高山
3	小児看護領域における倫理的課題(2)	・小児看護における倫理原則、小児の権利、QOL ・小児の意思決定能力と意思決定への参画（インフォームド・アセント含む） ・小児の倫理的問題の特徴とその分析方法（重症新生児、障害児、予後不良時における治療方法の決定）	荒木・河上・天野・高山
4	小児看護領域における倫理的課題(3)	小児看護領域における倫理調整とその評価 看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	市原
5	小児看護領域における倫理的課題(4)	小児看護領域における倫理調整とその評価 看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	市原
6	急性期にある小児と家族への看護援助(1)	危機的状態にある小児と家族への援助、危機理論、悲嘆過程と家族の反応	荒木・河上・天野・高山
7	急性期にある小児と家族への看護援助(2)	危機的状態にある小児と家族への援助、危機理論、悲嘆過程と家族の反応	荒木・河上・天野・高山
8	周手術期にある小児と家族への看護援助	・小児の疾患・手術の理解とプレパレーション、痛みの評価と疼痛マネジメント ・周手術期および長期的な問題と看護援助	竹田、長
9	周手術期にある小児と家族への看護援助の実際	周手術期の子どもと家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	竹田、長
10	慢性状態にある小児と家族への看護援助(1)	・慢性状態にある小児と家族に生じやすい問題 ・小児の疾患・療養行動の理解とセルフケア能力 ・親から小児へのセルフケアの移行と看護援助 ・慢性疾患をもつ小児の成人期移行の現状と課題、看護援助	荒木・河上・天野・高山
11	慢性状態にある小児と家族への看護援助(2)	・慢性状態にある小児と家族に生じやすい問題 ・小児の疾患・療養行動の理解とセルフケア能力 ・親から小児へのセルフケアの移行と看護援助 ・慢性疾患をもつ小児の成人期移行の現状と課題、看護援助	荒木・河上・天野・高山
12	慢性状態にある小児と家族への看護援助の実際(1)	慢性状態にある小児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	竹田・長
13	慢性状態にある小児と家族への看護援助の実際(2)	慢性状態にある小児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	竹田・長
14	重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護(1)	・重症心身障害児・高度医療依存児の現状と課題 ・小児の健康状態の維持と成長発達を支える小児と家族への看護援助 ・重症心身障害児・高度医療依存児の在宅移行の現状と　　課題、小児と家族への看護援助	市原
15	重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護(2)	・重症心身障害児・高度医療依存児の現状と課題 ・小児の健康状態の維持と成長発達を支える小児と家族への看護援助 ・重症心身障害児・高度医療依存児の在宅移行の現状と　　課題、小児と家族への看護援助	市原
16	重症心身障害児、医療的ケア児と家族への看護の実際(1)	重症心身障害児、医療的ケア児と家族について、看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	市原
17	小児におけるエンドオブライフケア(1)	・小児の予後不良疾患 ・小児におけるエンドオブライフケアの現状と課題	荒木・河上・天野・高山
18	小児におけるエンドオブライフケア(2)	・小児の予後不良疾患 ・小児におけるエンドオブライフケアの現状と課題	荒木・河上・天野・高山
19	小児におけるエンドオブライフケアの実際(1)	エンドオブライフケアの看護実践事例を提示し、分析と討議を通し理解を深める	荒木・河上・天野・高山
20	様々な状況にある小児と家族への看護援助(1)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
21	様々な状況にある小児と家族への看護援助(2)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
22	様々な状況にある小児と家族への看護援助(3)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
23	様々な状況にある小児と家族への看護援助(4)	災害を受けた子ども、被虐待児、在日外国人や貧困家庭の子どもなど、学生の関心に合わせて選択し、健康問題や医療の現状と課題、看護援助について学び、討議を通して理解を深める	荒木・河上・天野・高山
24	専門看護師による高度看護実践(1)	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	竹田、長、荒木・河上・天野・高山
25	専門看護師による高度看護実践(2)	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	竹田、長、荒木・河上・天野・高山
26	専門看護師による高度看護実践(3)	小児看護専門看護師による、複雑で困難な問題をもつ子どもと家族への看護の実際と、専門看護師の役割を理解する	竹田、長、荒木・河上・天野・高山

27	まとめのプレゼンテーション	倫理調整、調整、教育などを用いて、臨床現場のケアの質向上に資する活動を計画し、提案するためのプレゼンテーションを行う	竹田、長、荒木・河上・天野・高山

【６】　事前・事後学習とその時間

小児看護領域において、生じやすい倫理的問題やその調整、様々な健康問題を有する、あるいは複雑な状況にある小児を理解する上で必要となる理論や概論についての文献検討および学習を事前に行っておくこと。
事例を用いて倫理調整やコーディネーションを行えるよう、プレゼンテーション、ディスカッションを通して進めていく。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝えし、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ Russell, LT. et al: Family-centered Care and Positive Developmental Outcomes for Youth with Special Health Care Needs: Variations across Family Structures. Journal of Family Nursing,29-59, 24(1),2018.・？ Kerr, H., et.al: Transition from Children’s to adult services for young adults with life-limiting conditions: A realist review of the literature. International journal of Nursing Studies, 76, 1-27, 2017.
・ Beth, CL. et al.: Transition Needs of parents of Adolescents and Emerging Adults with Special HealthCare Needs and Disabilities. Journal of Family Nursing, 362-412, 21(3), 2015.
その他、適宜紹介、提示する。小児看護学特論Ⅰの参考資料も参照すること

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に課題に関連する文献学習を行う。事例の取り扱いに関しては倫理的配慮を十分に行う。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Child Health NursingⅡ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）河上智香（看護学研究科・准教授）萩原綾子（非常勤講師・神奈川こども医療センター）小林瑞穂（非常勤講師・訪問看護ステーションダイジョブ）佐藤菜緒、吉野尚一（兼担・小児救急認定看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp 河上智香chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

多職種と連携しながら、小児のトリアージ、医療的ケア児への看護（レスパイトケア、デイサービスや在宅を含む）に参加し、小児看護における高度看護実践を学ぶ。

【３】　到達目標

１．救急外来でのトリアージおよびホームケア指導や子育て支援に関する研修を通して、多職種との連携による高度実践看護の活動を説明できる。
２．重症心身障害児への看護（レスパイトケア、デイサービスや在宅を含む）、または、入院中の小児への遊びの支援（プレパレーション含む）に参加し、多職種との連携による高度実践看護の活動を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	コースオリエンテーション	授業の概要、進め方	荒木
2	フィールドワーク計画作成	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	荒木・河上
3	フィールドワーク計画作成	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	荒木・河上
4	フィールドワーク計画プレゼンテーション	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	荒木・河上
5	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
6	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
7	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
8	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
9	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
10	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
11	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
12	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
13	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
14	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
15	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
16	フィールドワーク	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習	佐藤・吉野・荒木・河上
17	フィールドワークまとめ	① 小児救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、ホームケア指導や子育て支援に関する演習のまとめ	荒木・河上
18	フィールドワーク計画	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	荒木・河上
19	フィールドワーク計画	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	荒木・河上
20	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
21	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
22	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
23	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
24	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上
25	フィールドワーク	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	萩原・小林・荒木・河上

26	フィールドワークまとめ	以下の②、③のうちから1つを選択、または、両方を実施 ②小児訪問看護ステーションで、在宅における医療的ケアを要する子どもと家族への高度専門的な看護に関する演習 ③小児専門病院における小児の療養環境、小児看護専門看護師の活動に関する演習	荒木・河上
27	まとめ	授業のまとめ	荒木・河上

【６】　事前・事後学習とその時間

提示された演習場面において、実践を通して高度看護実践の役割や機能を学ぶ。
事前学習、文献を活用した事後レポートを提出する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

出席状況50%、演習への取り組み・プレゼンテーション50%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評や解説を伝え、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

必要であれば文献管理ツールの講習会に参加する。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習Ⅲ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Child Health Nursing Ⅰ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）、河上智香（看護学研究科・准教授）、天野里奈（看護学研究科・助教）、高山充（看護学研究科・助教）、高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）、竹田佳子、長順子（大森病院・兼担・小児看護専門看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子　akiko.araki■med.toho-u.ac.jp　※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日　12:30 ～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, Google Formsなど

【２】　授業概要

大学病院の小児科や小児外科の外来、または、小児のプライマリケアの場としてのクリニックなどにおいて、診察、治療・処置場面に同席し、症状アセスメントや病態判断について理解を深めていく。

【３】　到達目標

乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスについて理解すると共に、小児のプライマリーケアにおける症状のアセスメントに役立てる知識を修得する。
１．乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスについて説明できる。
２．小児のプライマリーケアの場において、多様な発達段階および健康問題をもつ小児に対し、症状のアセスメントを実施できる。
３．医師の指導を通して、症状のアセスメント、病態の判断について理解を深め、高度な看護の視点から提案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習計画の立案（グループワーク、または、教員との面談）	① 乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセス（1単位：15時間以上） 総合病院の小児科・小児外科外来において、診察場面に同席するとともに、診療録から情報収集し、診断・治療のプロセスを学ぶとともに、医師の指導を通じて理解を深める。	荒木・河上
2	診察場面への同席による診断プロセスの見学①（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
3	診察場面への同席による診断プロセスの見学②（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
4	診察場面への同席による診断プロセスの見学③（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
5	診察場面への同席による診断プロセスの見学④（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
6	診断の解釈と考察、医師からの指導①（プレゼンテーション、ディスカッション）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
7	診察場面への同席による診断プロセスの見学⑤（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
8	診察場面への同席による診断プロセスの見学⑥（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
9	診察場面への同席による診断プロセスの見学⑦（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
10	診察場面への同席による診断プロセスの見学⑧（フィールドワーク）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
11	診断の解釈と考察、医師からの指導②（プレゼンテーション、ディスカッション）	①同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
12	事例の分析（診断・治療の考察と高度看護実践の必要性）①　（グループワーク、または、教員との面談）	①同上	竹田佳子、長順子（大森病院・兼担・小児看護専門看護師）
13	事例の分析（診断・治療の考察と高度看護実践の必要性）②　（グループワーク、または、教員との面談）	①同上	竹田佳子、長順子（大森病院・兼担・小児看護専門看護師）
14	演習計画の立案（グループワーク、または、教員との面談）	② 救急外来における心身のアセスメントとトリアージ、および、症状のアセスメントに関する演習 （1単位：15時間以上） 小児科外来、救急外来を受診する小児に対し、医師の指導を通じて適切な心身のアセスメントとトリアージを見学すると共に、症状のアセスメントを考察する。 事前学習、事後レポートを提出する。	荒木・河上
15	小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学①（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
16	小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学②（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
17	小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学③（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
18	小児科外来で救急場面へ同席し診断プロセスの見学④（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
19	診断、治療の解釈と考察、医師からの指導①（プレゼンテーション、ディスカッション）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
20	救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学①（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
21	救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学②（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）

22	救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学③（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
23	救急外来（夜間等含む）の小児事例へ同席し見学④（フィールドワーク）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
24	診断、治療の解釈と考察、医師からの指導②（プレゼンテーション、ディスカッション）	②同上	高橋浩之（東邦大学医学部・兼担医師）
25	事例の分析：診断・治療の考察と高度看護実践の必要性 （グループワーク、または、指導者・教員との面談）	②同上	竹田佳子、長順子（大森病院・兼担・小児看護専門看護師）
26	まとめのプレゼンテーション①	演習の学びから、小児と家族のニーズに基づく、診断・治療プロセス、多職種連携と高度看護実践についてプレゼンテーションし、討議する （プレゼンテーション、ディスカッション）	竹田佳子、長順子（大森病院・兼担・小児看護専門看護師）
27	まとめのプレゼンテーション②	演習の学びから、小児と家族のニーズに基づく、診断・治療プロセス、多職種連携と高度看護実践についてプレゼンテーションし、討議する （プレゼンテーション、ディスカッション）	竹田佳子、長順子（大森病院・兼担・小児看護専門看護師）

【６】　事前・事後学習とその時間

事前に課題について文献抄読、視聴覚教材を活用し、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論の準備を行う。授業中に修得できなかった学習内容は、事後に学習を行う。30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

演習への取り組み50%・プレゼンテーション50%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【８】　フィードバック方法

授業内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

・ 五十嵐 隆: 小児科診療ガイドライン 第3版. 総合医学社, 2017.
・ 北村 聖 総編集: 臨床病態学 小児編. ヌーヴェルヒロカワ, 2013
その他、適宜紹介、提示する。小児看護学特論Ⅰの参考資料も参照すること

【10】　参考書

適宜紹介、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。小児看護学特論Ⅱ・Ⅳ、小児看護学演習Ⅱの学習内容を統合し取り組む。
フィールドワークは、東邦大学医療センター大森病院小児科外来にて実施する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Public Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	望月　由紀子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

公衆衛生看護学分野の研究における概念を理解し、課題を明らかにするための研究デザインや枠組みを構築する方法やデザインに基づく質的・量的研究におけるデータ収集、分析、結果の公表の一連の過程を踏まえ公衆衛生看護の課題について探求する。

【３】　到達目標

１．公衆衛生看護学分野の研究における概念について理解し、自身の課題について概念をもとに説明できる。
２．研究課題を明らかにするための研究デザインや研究の枠組みを構築する方法を述べることができる。
３．質的・量的研究におけるデータ収集および分析方法について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	望月
2	研究における概念1	公衆衛生看護学研究における概念1	岸
3	研究における概念2	公衆衛生看護学研究における概念2	岸
4	研究における倫理1	研究における倫理1	岸
5	研究における倫理2	研究における倫理2	岸
6	データ収集と分析1	データの収集と分析-量的研究1	望月
7	データ収集と分析2	データの収集と分析-量的研究2	望月
8	データ収集と分析3	データの収集と分析-量的研究3	望月
9	データ収集と分析4	データの収集と分析-量的研究4	望月
10	研究デザイン1	質的研究のデザイン1	望月
11	研究デザイン2	質的研究のデザイン2 P250-279（第11章）岸	望月
12	研究デザイン3	質的研究のデザイン3 質的研究の文献抄読	望月
13	研究デザイン4	質的研究のデザイン4 質的研究の文献抄読	望月
14	データ収集と分析5	データの収集と分析-量的研究5	望月
15	データ収集と分析6	データの収集と分析-量的研究6	望月
16	データ収集と分析7	データの収集と分析-量的研究7	望月
17	データ収集と分析8	データの収集と分析-量的研究8	望月
18	データ収集と分析9	データの収集と分析-質的研究1	望月
19	データ収集と分析10	データの収集と分析-質的研究2	望月
20	データ収集と分析11	データの収集と分析-質的研究3	望月
21	データ収集と分析12	データの収集と分析-質的研究4	望月
22	データ収集と分析13	データの収集と分析-質的研究5	望月
23	データ収集と分析14	データの収集と分析-質的研究6	望月
24	データ収集と分析15	データの収集と分析-質的研究7	望月
25	データ収集と分析16	データの収集と分析-質的研究8	望月
26	研究デザイン5	研究テーマの絞り込みと文献検討1	岸、望月
27	研究デザイン6	研究テーマの絞り込みと文献検討2	岸、望月

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

D.F.ポーリット&C.T.ベック著，近藤潤子監訳．(2010)．看護研究：原理と方法．医学書院
グレッグ美鈴他編著．（2007）．よくわかる質的研究の進め方・まとめ方．医歯薬出版株式会社

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。
学生が主体的に文献検討を行い学習する。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Public Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	望月　由紀子				
担当教員	岸　恵美子（看護学研究科・教授）、望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子 emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月由紀子yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
　実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
　プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
　活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
　Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

地域の健康問題を明らかにするために、国内外の文献のクリティークを通して、批判的精神を養う。公衆衛生看護学分野における量的研究データおよび質的研究データの分析の実際を通して体験的に学び、自己の研究課題に適切な研究方法を探求する。

【３】　到達目標

１．地域の健康問題を明らかにするために、社会背景を踏まえて、公衆衛生看護学分野に関連する文献のクリティークを行い、批判的思考をもとに分析できる。
２．収集した質的データや模擬の量的データを用いて実際に分析を行い、その結果を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	望月
2	公衆衛生看護倫理1	研究における倫理1	望月
3	公衆衛生看護倫理2	研究における倫理2	望月
4	公衆衛生看護倫理3	研究における倫理3	望月
5	公衆衛生看護倫理4	研究における倫理4	望月
6	公衆衛生看護倫理5	研究における倫理5	望月
7	量的研究データの分析1	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析1	望月
8	量的研究データの分析2	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析3	望月
9	量的研究データの分析3	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析3	望月
10	量的研究データの分析4	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析4	望月
11	量的研究データの分析5	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析5	望月
12	量的研究データの分析6	公衆衛生看護学おける量的研究データの分析6	望月
13	質的研究データの分析1	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析1	望月
14	質的研究データの分析2	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析2	望月
15	質的研究データの分析3	公衆衛生看護学おける質的研究データの分析3	望月
16	文献クリティーク1	文献クリティークとは	望月
17	文献クリティーク2	文献クリティークの方法1	望月
18	文献クリティーク3	文献クリティークの方法2	望月
19	文献クリティーク4	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク1	望月
20	文献クリティーク5	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク2	望月
21	文献検討1	テーマの絞り込みと文献検討1	望月
22	文献検討2	テーマの絞り込みと文献検討2	望月
23	文献検討3	テーマの絞り込みと文献検討3	望月
24	文献検討4	文献検討と研究計画書作成1	望月
25	文献検討5	文献検討と研究計画書作成2	望月
26	文献検討6	文献検討と研究計画書作成3	岸、望月
27	文献検討7	文献検討と研究計画書作成4	岸、望月

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
事前学習をもとに、学生自身が主体的に課題に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

前田樹海他　翻訳(2023)　APA論文作成マニュアル　第3版
牧本清子他編著（2020）　よくわかる看護研究論文のクリティーク　第2版
その他、適宜授業で紹介します。

【10】　参考書

別途案内する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。
学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験を踏まえグループ討議を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**健康政策特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Health Policy	選択	講義	1年次･秋	1単位 15時間
科目責任者	石橋智昭				
担当教員	石橋智昭(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団・研究部長)				
科目責任者 連絡先(教室)	石橋智昭 tomoaki.ishibashi■med.toho-u.ac.jp ＊ ■を@に置き換える				
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle ,GoogleClassroom

【２】 授業概要

保健医療制度の概要を知り、健康に関する国の政策を政策論と実際の行政の側面から理解し、人々の疾病を予防し、健康を保持増進するための支援方法や方策を見出す力を養う。
政策形成のプロセスを理解し、「健康増進法」や「介護保険法」を例に、計画から評価までのサイクルを具体的に理解し、地域資源の活用方法や事業評価を展開する方法を習得する。

【３】 到達目標

政策プログラムの事例を通じて、健康政策が「問題の特定」→「政策の選択」→「政策の実施」→「政策評価」といった継続的で反復的なサイクルで成立していることを説明できる。

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	科目の概要とオリエンテーション	石橋
2	政策形成の過程	公共政策の構成要素	石橋
3	政策形成の過程	政策形成のプロセス	石橋
4	公共政策と決定プロセス	公共政策決定のプロセス	石橋
5	公共政策と決定のプロセス	公共政策決定のモデル理論	石橋
6	政策の課題設定	ニーズの特定	石橋
7	政策の課題設定	政策の立案	石橋
8	政策の実施	国から県、市町村への伝達過程	石橋
9	政策の実施	政策の実施のプロセス	石橋
１０	政策の評価Ⅰ	評価の方法論（プロセス指標）	石橋
１１	政策の評価Ⅰ	評価の方法論（アウトカム指標）	石橋
１２	政策の評価Ⅱ	サービスの質の評価①	石橋
１３	政策の評価Ⅱ	サービスの質の評価②	石橋
１４	まとめ	講義のまとめ	石橋

【６】　事前・事後学習とその時間

授業前に準備学修課題をクラスルームから提示する。必ず課題を仕上げ、各自が課題意識を持って授業に臨むようにする。対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。15時間の講義・演習に対して、30時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

2/3以上の出席を持って評価の対象とする。授業時のディスカッションへの参加および事前課題の提出20%、
　授業後の課題レポート80%により総合的に評価する。課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、
返却する。

【８】　フィードバック方法

クラスルームで全体評価を行うとともに授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要な文献、資料などを適宜、提示する。

【10】　参考書

適宜、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。
「遠隔形式」の場合は、到達目標のもと本授業計画に沿ってオンデマンド配信を実施する。

科目名(日本語)	保健医療福祉システム特論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Health Care and Welfare System	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）今村 晴彦（長野県立大学・准教授）佐川きよみ（東京都看護協会・常務理事）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

国及び都道府県、市町村などの具体的な行政施策とそれぞれの役割を理解するとともに、保健医療福祉サービスを評価し、調整する基本的知識と能力を養う。

【３】　到達目標

１　住民の健康管理に責任を持つ、基礎自治体及び都道府県の組織特性と責任について説明できる。
２　国及び都道府県、市町村などの具体的な行政施策とそれぞれの役割を説明できる。
３　健康課題にかかわる社会資源やサービスが機能しているかを評価し改善する方法が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	科目の概要とオリエンテーション	岸
2	保健医療福祉の行政・制度と保健師の役割	行政機関に働く保健師活動の特徴	岸
3	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み１	保健医療福祉行政の理念と仕組み1	岸
4	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み２	保健医療福祉財政の理念と仕組み2	岸
5	社会福祉・社会保障制度と政策１	社会福祉の理念	岸
6	社会福祉・社会保障制度と政策２	社会福祉の理念と背景	岸
7	社会福祉・社会保障制度と政策３	社会保障の仕組みと機能	岸
8	社会福祉・社会保障制度と政策４	社会保障制度の概要と機能	岸
9	公衆衛生行政の分野と制度の基本１	地域保健の体系	佐川
10	公衆衛生行政の分野と制度の基本２	関係機関の機能・役割	佐川
11	保健所の機能と役割１	保健所の仕組みと機能1	岸
12	保健所の機能と役割２	保健所の仕組みと機能2	岸
13	保健所の機能と役割３	健康危機管理における保健所の役割	岸
14	保健所の機能と役割４	医療安全対策	岸
15	医療制度と政策１	医療制度と仕組み	岸
16	医療制度と政策２	医療体制の管理と整備	岸
17	ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築1	ネットワークの形成	坂本
18	ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築2	地域ケアシステムの構築1	望月
19	保健医療福祉サービスの評価1	保健医療福祉サービスの評価のプロセス1	今村
20	保健医療福祉サービスの評価2	保健医療福祉サービスの評価のプロセス2	今村
21	保健医療福祉サービスの評価3	保健医療福祉サービスの評価の実際1	今村
22	保健医療福祉サービスの評価4	保健医療福祉サービスの評価の実際2	今村
23	ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築3	地域ケアシステムの構築2	望月
24	ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築4	地域ケアシステムの構築3	望月
25	ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築5	地域ケアシステムの構築4	岸
26	ネットワーク形成と地域ケアシステムの構築6	地域ケアシステムの構築5	岸
27	まとめ	講義のまとめ	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【9】　教科書

1. 野村陽子・加藤典子 編「保健学講座 5 保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）

【10】　参考書

1. 福富和夫・橋本修二「保健統計・疫学」南山堂・2018年（改訂6版）
2. 椎葉茂樹編「衛生行政大要（改訂第24版）」日本公衆衛生協会・2016年
3. 厚生労働省「令和4年度版　厚生労働白書」厚生労働省・2022年
4. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向 2023/2024」厚生労働統計協会・2023年
5. 厚生労働統計協会「保険と年金の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**保健医療福祉システム演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health Care and Welfare System Seminar	選択	演習	1年次･秋	1単位 15時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）今村 晴彦（長野県立大学・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

模擬自治体の事例において、課題・ニーズを把握し、それに基づいて保健計画を立案することにより、公衆衛生看護の役割と地域活動の展開方法の実際を学ぶ。

【３】　到達目標

１　自治体における課題やニーズを把握する方法が具体的に説明できる。
２　課題を解決するための保健計画が策定できる。
３　立案した保健計画を評価する方法を具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の目的と進め方	岸
2	保健計画の評価に活用できる理論・モデル	保健計画の評価に活用できる理論・モデル	岸
3	保健計画立案のための課題抽出１	模擬自治体事例における課題・ニーズの把握方法1	今村
4	保健計画立案のための課題抽出２	模擬自治体事例における課題・ニーズの把握方法2	今村
5	保健医療福祉計画の策定1	模擬自治体事例における保健計画の策定1	今村
6	保健医療福祉計画の策定2	模擬自治体事例における保健計画の策定2	今村
7	保健計画立案のための課題抽出3	模擬自治体事例における課題・ニーズの把握方法3	岸・坂本
8	保健計画立案のための課題抽出4	模擬自治体事例における課題・ニーズの把握方法4	岸・坂本
9	保健医療福祉計画の策定３	模擬自治体事例における保健計画の策定3	岸・坂本
10	保健医療福祉計画の策定４	模擬自治体事例における保健計画の策定4	岸・坂本
11	保健医療福祉計画の評価１	模擬自治体事例における保健計画の評価1	今村
12	保健医療福祉計画の評価２	模擬自治体事例における保健計画の評価2	今村
13	保健医療福祉計画の評価３	模擬自治体事例における保健計画の評価3	岸・坂本
14	まとめ	講義のまとめ	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．15時間の講義に対して、30時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への参加態度・レポート（20%）、筆記試験（80%）により総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 野村陽子・加藤典子 編「保健学講座 5 保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**疫学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Epidemiology for Health Professionals	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	坂本　なほ子				
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

人間集団の多様な健康事象について、時（time）、場所（place）、人（person）の3つの主要概念を用いて包括的にとらえ、因果関係の解明を目指すため手法を学び、とくに健康事象のリスクを定量的に推定する方法を学ぶ
。

【３】　到達目標

疫学の研究方法を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	科目の概要と進め方	坂本
2	疫学の歴史	疫学とは何か	坂本
3	疾病頻度の指標（1）	有病割合、罹患率	坂本
4	疾病頻度の指標（2）	死亡率、年齢調整死亡率	坂本
5	疾病頻度の指標（3）	累積罹患率、致命率	坂本
6	曝露効果の指標（1）	相対危険	坂本
7	曝露効果の指標（2）	寄与危険	坂本
8	疫学研究法	母集団と標本、標本抽出法	坂本
9	疫学研究デザイン（1）	記述疫学	坂本
10	疫学研究デザイン（2）	生態学的研究、横断研究	坂本
11	疫学研究デザイン（3）	症例対照研究	坂本
12	疫学研究デザイン（4）	コホート研究	坂本
13	疫学研究デザイン（5）	介入研究	坂本
14	疫学研究デザイン（6）	その他の研究	坂本
15	バイアス（1）	選択バイアス	坂本
16	バイアス（2）	情報バイアス	坂本
17	交絡	交絡とその制御	坂本
18	因果関係	因果関係とその判定	坂本
19	スクリーニング	スクリーニングとROC曲線	坂本
20	疾病登録	がん登録	坂本
21	生活習慣と健康課題（1）	生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布	坂本
22	生活習慣と健康課題（2）	生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布	坂本
23	疾患と予防（1）	調査結果のまとめ方を学ぶ	坂本
24	疾患と予防（1）	疾患の頻度と分布と危険因子	坂本
25	疾患と予防（2）	疾患の頻度と分布と危険因子	坂本
26	疫学研究の実際（1）	疫学の実践例	坂本
27	疫学研究の実際（2）	疫学の実践例	坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。
60時間の時間外学習を行うこと。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(20%)、試験(80%)から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で解説を行う。

【9】　教科書

日本疫学会.『やさしい疫学』改定第3版.南江堂（最新版）

【10】　参考書

坂本なほ子.『はじめての保健統計学』.サイオ出版.2023年
車谷典男・松本泉美他.『疫学・保健統計』.建帛社.2018年

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学原論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Basic Principles of Public Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月　由紀子（看護学研究科・准教授）坂本美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

地域で生活している様々な成長発達レベル、健康レベルにある、個人・家族・集団・地域を対象に健康レベルを向上させ、QOLを高めるための支援を展開する公衆衛生看護の役割と機能、倫理について学ぶ。

【３】　到達目標

１．地域看護・公衆衛生看護の概念、理念、目的、歴史、展開方法を説明できる。
２．様々な保健活動とそれに関わる法規、関連機関や職種について具体的に説明できる。
３．多様な人々の健康レベルやQOL向上のための支援を展開する保健師の役割や機能を説明できる。
４．公衆衛生看護活動における倫理的問題とその対処について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス、公衆衛生看護の概念・理念	ガイダンス、公衆衛生看護の概念・理念	岸
2	公衆衛生看護活動の基本1	公衆衛生看護活動の場、対象1	岸
3	公衆衛生看護活動の基本2	公衆衛生看護活動の方法1	岸
4	親子保健の制度と保健活動1	親子保健の動向と制度	坂本
5	親子保健の制度と保健活動2	親子保健の制度と保健活動	坂本
6	家庭訪問1	家庭訪問の目的、対象と方法1	坂本
7	家庭訪問2	家庭訪問の目的、対象と方法2	坂本
8	健康相談1	健康相談の方法と特徴	望月
9	健康相談2	健康相談の基本姿勢と地域活動への展開	望月
10	親子保健の制度と保健活動3	支援ニーズが高い親子への支援	坂本
11	健康診査1	乳幼児期の健康課題、成長・発達の評価1	望月
12	健康診査2	乳幼児の成長・発達の評価2	望月
13	地域診断	地域診断の目的、方法、健康課題の抽出	坂本
14	健康教育1	健康教育の目的、対象・場による方法	望月
15	健康教育2	健康教育の位置づけ・目的、対象と場	望月
16	健康診査3	健康診断(歯科含む)の知識	望月
17	健康診査4	健康診断(歯科含む)技術	望月
18	成人保健の制度と保健活動1	成人保健の動向・制度	望月
19	成人保健の制度と保健活動2	成人保健の保健活動	望月
20	グループ支援、組織化	グループ支援、組織化の知識・技術	望月
21	感染症の制度と保健活動１	感染症の動向と制度	岸
22	感染症の制度と保健活動2	感染症の保健活動	岸
23	障害を持つ人々への保健活動	障害を持つ人々への保健活動	岸
24	難病を持つ人々への保健活動	難病を持つ人々への保健活動	岸
25	精神保健の制度と保健活動1	精神保健（福祉）における動向・制度・施策	岸
26	精神保健の制度と保健活動2	精神保健（福祉）の保健制度と健康課題への支援	岸
27	まとめ	まとめ	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）
2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
4. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【10】　参考書

1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護活動展開論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Development of Public Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）伊藤 桂子（看護学研究科・教授）荒木 暁子（看護学研究科・教授）狩野 修（医学部　教授）小板橋 恵美子（健康科学部・教授）佐川 きよみ（東京都看護協会・常任理事）藤原 佳典（東京都健康長寿医療センター研究所、社会参加と地域保健研究チーム・研究部長）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp 伊藤　　桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 荒木　　睦子　akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【2】　授業概要

地域で生活する人々（母子、成人、高齢者、精神、感染症、生活弱者）が抱える健康課題に応じた公衆衛生看護の展開方法を学ぶ。また個人・家族と集団・地域を連動させた活動の展開方法について理解し、多様な人々の健康レベルに合わせたアプローチの方法を習得する。

【3】　到達目標

1　公衆衛生看護活動で用いる理論、公衆衛生看護活動の基本となる支援方法を具体的に説明できる。
2　母子、成人、高齢者、精神、生活弱者を対象とした保健制度と保健活動を具体的に述べることができる。
3　多様な人々の健康レベルに合わせたアプローチの必要性と展開方法について根拠をもとに説明できる。
4　具体的な事例から、人々の生活者としての視点を重視する保健師の判断について根拠をもって説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	親子（母子）保健活動1	親子（母子）支援システムと公衆衛生看護活動	坂本
2	親子（母子）保健活動2	親子（母子）支援システムと公衆衛生看護活動	坂本
3	親子（母子）保健活動3	医療的ケア児・障害児と家族の支援1	荒木
4	親子（母子）保健活動4	医療的ケア児・障害児と家族の支援2	荒木
5	障害者（児）保健（福祉）活動1	障害保健福祉の動向・制度・施策	小板橋
6	障害者（児）保健（福祉）活動2	障害保健福祉における健康課題への支援	小板橋
7	難病保健（福祉）活動１	難病保健福祉の動向・制度・施策	小板橋
8	難病保健（福祉）活動2	難病保健における健康課題への支援	小板橋
9	成人保健活動1	成人保健施策と公衆衛生看護活動1	望月
10	成人保健活動2	成人保健施策と公衆衛生看護活動2	望月
11	精神保健（福祉）活動1	依存症の回復支援　医療連携体制の構築と地域コミュニティの活用1	伊藤
12	精神保健（福祉）活動2	依存症の回復支援　医療連携体制の構築と地域コミュニティの活用2	伊藤
13	精神保健（福祉）活動3	精神保健の動向・制度・施策	佐川
14	精神保健（福祉）活動4	精神保健の健康課題への支援	佐川
15	高齢者保健（福祉）活動1	高齢者保健福祉の動向・制度・施策	岸
16	高齢者保健（福祉）活動2	高齢者保健福祉の健康課題への支援	岸
17	成人保健活動3	成人保健施策と公衆衛生看護活動3	望月
18	成人保健活動4	成人保健施策と公衆衛生看護活動4	望月
19	高齢者保健（福祉）活動3	事業化・施策化の実際1	藤原
20	高齢者保健（福祉）活動4	事業化・施策化の実際2	藤原
21	高齢者保健（福祉）活動5	事業化・施策化の実際3	藤原
22	高齢者保健（福祉）活動6	事業化・施策化の実際4	藤原
23	成人保健活動5	成人保健施策と具体的な展開方法1	望月
24	成人保健活動6	成人保健施策と具体的な展開方法2	望月
25	成人保健活動7	成人保健施策と具体的な展開方法3	望月
26	難病保健（福祉）活動3	難病の治療と支援の実際1	狩野
27	難病保健（福祉）活動4	難病の治療と支援の実際2	狩野

【６】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）
2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
4. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【10】　参考書

1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護活動展開論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Development of Public Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	望月　由紀子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:45～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

多様な人々の健康課題に即した公衆衛生看護活動を展開するために必要な家庭訪問・健康相談・健康診査等の知識・技術を学び、対象に合わせてそれらの技術を組み合わせて公衆衛生看護を展開する方法を習得する。

【３】　到達目標

１　様々な対象における事例展開を通して、地域で生活する対象者に応じた展開方法を選択し、その根拠を説明できる。
２　公衆衛生看護活動（健康診査、家庭訪問）における必要な知識や基礎的な支援技術を具体的に説明できる。
３　家庭訪問や健康診査の方法を用いて、個人や家族、集団や地域への支援方法について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	家庭訪問1	家庭訪問に必要な知識	坂本
2	家庭訪問2	家庭訪問に必要な発育発達の見方・技術	坂本
3	家庭訪問3	家庭訪問計画の準備（ワーク）	坂本
4	家庭訪問4	家庭訪問計画1	坂本
5	家庭訪問5	家庭訪問計画2	坂本
6	家庭訪問6	家庭訪問計画3	坂本
7	家庭訪問7	家庭訪問計画4	坂本
8	親子（母子）保健活動	母子保健活動における事例展開の準備（ワーク）	坂本
9	家庭訪問8	家庭訪問計画発表会（ワーク）	岸・望月・坂本
10	親子（母子）保健活動1	母子保健活動における事例展開1	坂本
11	親子（母子）保健活動2	母子保健活動における事例展開2	坂本
12	親子（母子）保健活動3	母子保健活動における事例展開3	坂本
13	親子（母子）保健活動4	母子保健活動における事例展開4	坂本
14	親子（母子）保健活動5	母子保健活動における事例展開のまとめ（ワーク）	坂本
15	家庭訪問9	家庭訪問ロールプレイの計画立案（ワーク）	坂本
16	家庭訪問10	家庭訪問演習1 ロールプレイ/模擬患者	岸・望月・坂本
17	家庭訪問11	家庭訪問演習2 ロールプレイ/模擬患者	岸・望月・坂本
18	家庭訪問12	家庭訪問演習発表会（ワーク）	岸・望月・坂本
19	精神保健（福祉）活動1	精神保健活動における事例展開1	岸
20	精神保健（福祉）活動2	精神保健活動における事例展開2	岸
21	精神保健（福祉）活動3	精神保健活動における事例展開のまとめ（ワーク）	岸
22	難病保健（福祉）活動4	難病保健活動における事例展開1	岸
23	難病保健（福祉）活動5	難病保健活動における事例展開2	岸
24	難病保健（福祉）活動6	難病保健活動における事例展開のまとめ（ワーク）	岸
25	高齢者保健（福祉）活動7	高齢者保健活動における事例展開1	岸
26	高齢者保健（福祉）活動8	高齢者保健活動における事例展開2	岸
27	高齢者保健（福祉）活動9	高齢者保健活動における事例展開のまとめ（ワーク）	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　**教科書**

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）
2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
4. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【10】　**参考書**

1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年
2. 前川喜平、小枝達也著「写真でみる乳幼児健診の神経学的チェック法改訂10版」南山堂・2022年

【11】　**備考(関連科目等)**

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護活動展開論Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Development of Public Health NursingⅢ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	望月　由紀子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:45～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動を展開するために必要な健康診査・健康相談・健康教育の知識・技術を対象に応じて組み合わせ公衆衛生看護を実践する方法を学ぶ。また、地域の特性や健康課題を明確化し、課題解決の方向性を見出すための地域診断に必要な技術を習得する。

【３】　到達目標

１　公衆衛生看護活動（健康相談、地域診断、健康教育）における必要な知識や基礎的な支援技術を具体的に説明できる。
２　地域の特徴や対象者に応じた健康診査における問診・保健指導を行い、実施する際の視点や対象のアセスメント、必要な保健指導を具体的に説明できる。
３　地域における多彩な人々の健康課題について、地域診断の手法を用いて具体的に説明できる。
４　保健所・保健センターで実施されている保健事業をまとめ、事業の根拠や必要性、評価などを具体的に説明できる。
５　実習前の事前訪問に向けて、打合せや確認内容を明確にして事前訪問計画を立案し、その内容を根拠もって説明できる。
６　地域包括支援センターの実習に向けて準備を行い、実習課題や学習内容について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	健康教育1	健康教育の技術・展開方法	望月
2	健康教育2	健康教育の指導案の立案、実施、評価	望月
3	地域診断1	地域診断の目的・方法	坂本
4	地域診断2	地域診断に活用される理論・モデル	坂本
5	地域診断3	地域診断の実際1	岸・望月・坂本
6	地域診断4	地域診断の実際2	岸・望月・坂本
7	地域診断5	地域診断の実際3	岸・望月・坂本
8	健康教育3	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案1	岸・望月・坂本
9	健康教育4	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案2	岸・望月・坂本
10	地域診断6	地域診断発表会	岸・望月・坂本
11	地域診断7	健康課題の抽出、評価、地域診断の方法(地区踏査)	坂本
12	健康診査1	乳幼児の健康診査の目的・対象	望月
13	健康診査2	乳幼児の健康診査の支援方法	望月
14	健康診査3	健康診査（問診）の立案（ワーク）	望月
15	健康診査4	乳幼児を対象とした健康診査の実施1 問診ロールプレイ/模擬患者	岸・望月・坂本
16	健康診査5	乳幼児を対象とした健康診査の実施2 問診ロールプレイ/模擬患者	岸・望月・坂本
17	健康診査6	乳幼児を対象とした健康診査のまとめ（ワーク）	望月
18	健康相談1	健康相談（成人）ロールプレイの計画立案（ワーク）	望月
19	健康相談2	健康相談（成人）の事例展開・演習1 ロールプレイ/模擬患者	岸・望月・坂本
20	健康相談3	健康相談（成人）の事例展開・演習2 ロールプレイ/模擬患者	岸・望月・坂本
21	健康相談4	健康相談（成人）のまとめ（ワーク）	望月
22	健康相談5	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案3	岸・望月・坂本
23	健康相談6	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案4	岸・望月・坂本
24	健康相談7	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案5	岸・望月・坂本
25	健康相談8	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案6	岸・望月・坂本
26	健康相談9	ニーズに合わせた健康教育指導案の立案7	岸・望月・坂本
27	健康相談10	健康教育発表会	岸・望月・坂本

【６】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 佐伯和子 編「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド」医歯薬出版・2018年（第2版）

2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）

3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）

4. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【10】　参考書

1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**地域健康危機管理特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Crisis Management	選択	講義	1年次･秋	1単位 15時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）　中板 育美（武蔵野大学看護学部・教授）石田 千絵（日本赤十字看護大学・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸 恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能のうち、災害保健活動、虐待対応、感染症対応など健康危機管理について学び、多機関との連携調整を含む保健師に必要なマネジメント能力を養う。

【３】　到達目標

１　個人/家族、地区/小地域、保健師の所属する組織の健康状態に危機的状況が起こる場面に応じた公衆衛生看護活動が説明できる。
２　健康危機管理におけるリスクマネジメントと必要な関係機関との連携・協働が説明できる。
３　虐待対応における危機的介入と必要な関係機関との連携・協働が説明できる。
４．パンデミックや複合災害への対応が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の目的と進め方	岸
2	虐待対応と危機介入1	児童虐待の対応と保健活動１	中板
3	虐待対応と危機介入2	児童虐待の対応と保健活動2	中板
4	虐待対応と危機介入3	児童虐待の対応と保健活動3	中板
5	虐待対応と危機介入4	高齢者虐待・障害者虐待対応と保健活動1	岸
6	虐待対応と危機介入5	高齢者虐待・障害者虐待対応と保健活動2	岸
7	虐待対応と危機介入6	DVの対応と保健活動	岸
8	災害対策と健康危機管理1	災害対策におけるリスクマネジメント1	石田
9	災害対策と健康危機管理2	災害対策におけるリスクマネジメント2	石田
10	災害対策と健康危機管理3	放射線被ばくと保健活動	石田
11	災害対策と健康危機管理4	テロ・生物兵器への対策と保健活動	石田
12	感染症対策と健康危機管理2	パンデミックへの対応とマネジメント1	岸
13	感染症対策と健康危機管理3	パンデミックへの対応とマネジメント2	岸
14	まとめ	講義のまとめ	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．15時間の講義に対して、30時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**地域健康危機管理演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Community Health Crisis Manegemanet Seminar	選択	演習	1年次･秋	1単位 15時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）小林 寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸 恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 小林 寅喆　kobatora■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能のうちの健康危機管理について、平時からの発災時を想定した災害保健活動や、パンデミックに対応できる感染症対応などについて、演習を通して実践的に学び基礎的な技術を習得する。

【３】　到達目標

1　感染症診断に基づき、感染制御を目的としたサーベイランスの方法が説明できる。
2　感染症パンデミックにおける対応と公衆衛生看護の役割について説明できる。
3　災害時のアセスメントとそれに対応した保健活動を模擬事例を通して実践できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の目的と進め方	岸
2	健康危機管理としての感染症対応1	感染症の診断① 手指消毒の除菌・殺菌効果① 病原細菌の環境における生存性①	小林、勝瀬
3	健康危機管理としての感染症対応2	感染症の診断① 手指消毒の除菌・殺菌効果① 病原細菌の環境における生存性①	小林、勝瀬
4	健康危機管理としての感染症対応3	感染症の診断② 手指消毒の除菌・殺菌効果② 病原細菌の環境における生存性②	小林、勝瀬
5	健康危機管理としての感染症対応4	感染症の診断② 手指消毒の除菌・殺菌効果② 病原細菌の環境における生存性②	小林、勝瀬
6	健康危機管理としての感染症対応5	感染症の診断③ 手指消毒の除菌・殺菌効果③ 病原細菌の環境における生存性③	小林、勝瀬
7	健康危機管理としての感染症対応6	感染症の診断③ 手指消毒の除菌・殺菌効果③ 病原細菌の環境における生存性③	小林、勝瀬
8	健康危機管理としての災害対応1	災害のアセスメント	岸
9	健康危機管理としての災害対応2	避難所・仮説住宅における保健活動１	岸
10	健康危機管理としての災害対応3	避難所・仮説住宅における保健活動2	岸
11	健康危機管理としての災害対応4	災害のアセスメントの実際1	岸
12	健康危機管理としての災害対応5	災害のアセスメントの実際2	岸
13	健康危機管理としての災害対応6	災害のアセスメントの実際3	岸
14	まとめ	講義のまとめ	岸

【６】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．15時間の講義に対して、30時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）により総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**継続事例支援演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Support of Continuous Cases Seminar	選択	演習	1年次･通年	2単位 30時間
科目責任者	坂本　美佐子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）、望月 由紀子（看護学研究科・准教授）、坂本 美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

継続的な家庭訪問を通して、対象者との信頼関係の深まりやニーズの変化、個人や家族の発達段階・課題に合わせて、地域と連携しながら公衆衛生看護を展開するための技術を習得する。

【３】　到達目標

1　地域の特徴や個人や家族特性を捉えた個別の潜在的・顕在的な健康課題が抽出できる
2　継続的な家庭訪問により、信頼関係の深まりや生活上のニーズの変化を把握できる
3　個別のアウトリーチによる保健師の支援方法が実践できる
4　家庭訪問や健康相談を実践することで課題解決能力を高める支援を実践することができる
5　対象者の課題を解決するための具体的な計画立案・実施・評価ができる
6　地域包括ケアシステムのなかで、多機関・多職種との連携・協働する保健師の役割・機能が説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	ガイダンス・演習計画	坂本
2	地域包括ケアシステム1	親子等を取り巻く社会資源や地域包括ケアシステム	坂本
3	学外演習１の計画	オリエンテーション、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
4	学外演習1(1)	フィールドワーク（産科外来）1	岸・望月・坂本
5	学外演習1(2)	フィールドワーク（産科外来）2	岸・望月・坂本
6	学外演習1(3)	フィールドワーク（新生児外来/1か月児健診）1	岸・望月・坂本
7	学外演習1(4)	フィールドワーク（新生児外来/1か月児健診）2	岸・望月・坂本
8	地域包括ケアシステム2	子ども家庭総合支援拠点における連携・協働1	望月
9	地域包括ケアシステム3	子ども家庭総合支援拠点における連携・協働2	望月
10	学外演習２の計画(1)	初回訪問オリエンテーション	岸・望月・坂本
11	学外演習２の計画(2)	まとめ、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
12	学外演習2	フィールドワーク（１～２か月児家庭訪問等）	岸・望月・坂本
13	学外演習3の計画(1)	授乳・離乳の支援	岸・望月・坂本
14	学外演習3の計画(2)	こどもの健康への支援	岸・望月・坂本
15	学外演習3の計画(3)	オリエンテーション、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
16	学外演習3(1)	フィールドワーク（産後ケアセンター）1	岸・望月・坂本
17	学外演習3(2)	フィールドワーク（産後ケアセンター）2	岸・望月・坂本
18	学外演習3(3)	フィールドワーク（産後ケアセンター）3	岸・望月・坂本
19	学外演習4の計画	まとめ、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
20	学外演習4	フィールドワーク（3～4か月児家庭訪問等）	岸・望月・坂本
21	学外演習5の計画	まとめ、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
22	学外演習5	フィールドワーク（6～7か月児家庭訪問等）	岸・望月・坂本
23	学外演習6の計画	まとめ、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
24	学外演習6	フィールドワーク（9～10か月児家庭訪問等）	岸・望月・坂本
25	学外演習7の計画	まとめ、計画立案・フィールドワークの準備	岸・望月・坂本
26	学外演習7	フィールドワーク（12か月頃家庭訪問等）	岸・望月・坂本
27	報告会	プレゼンテーション・まとめ	岸・望月・坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

１．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
２．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
プレゼンテーションは授業内で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）
2. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
3. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）

【10】　参考書

1. 厚生労働統計協会「国民の福祉と介護の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年
2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2023/2024」厚生労働統計協会・2023年

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして授業に臨むこと。
学生間のグループ討議により、主体的に演習準備を行う。
演習に必要な内容を主体的に学習する。
授業形態は対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、ZOOM を用いたリアルタイム配信にて実施する。

科目名(日本語)	公衆衛生看護管理特論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Management of Public Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）永田 容子（結核予防会結核研究所　対策支援部（保健看護学科）・副部長）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能として、公衆衛生看護管理の目的と展開方法を理解する。健康危機管理、情報管理、組織・運営管理、人材育成、地域ケアシステム構築について学び、保健師に必要なマネジメント能力を養う。

【３】　到達目標

1. 地域住民の健康向上を実現するための、公衆衛生看護管理の目的と展開方法が説明できる。
2. 健康危機管理における公衆衛生看護の役割・機能について根拠をもって説明できる。
3. 地域ケアシステム構築のプロセスと保健師の役割について具体的に説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義ガイダンス、公衆衛生看護管理の目的	岸
2	公衆衛生看護管理1	公衆衛生看護管理の機能	岸
3	公衆衛生看護管理2	業務管理	岸
4	公衆衛生看護管理3	情報管理	岸
5	公衆衛生看護管理4	地区管理	岸
6	公衆衛生看護管理5	人材育成・人事管理	岸
7	公衆衛生看護管理6	組織運営管理	岸
8	公衆衛生看護管理7	予算管理	岸
9	健康危機管理1	感染症対策における公衆衛生看護の役割・機能1（感染防護服着脱演習）	岸、坂本
10	健康危機管理2	感染症対策における公衆衛生看護の役割・機能2（感染防護服着脱演習）	岸、坂本
11	健康危機管理3	感染症対策における公衆衛生看護活動（結核）1	永田（岸）
12	健康危機管理4	感染症対策における公衆衛生看護活動（結核）2	永田（岸）
13	健康危機管理5	感染症対策における公衆衛生看護活動（結核）3	永田（岸）
14	健康危機管理6	感染症対策における公衆衛生看護活動（結核）4	岸
15	健康危機管理7	感染症対策における公衆衛生看護活動（結核）5	岸
16	健康危機管理8	感染症対策における公衆衛生看護活動（結核）6	岸
17	健康危機管理9	感染症対応における事例演習1	岸、坂本
18	健康危機管理10	感染症対応における事例演習2	岸、坂本
19	健康危機管理11	感染症対策における公衆衛生看護の役割・機能3 （積極的疫学調査　事例展開）	岸、坂本
20	健康危機管理12	感染症対策における公衆衛生看護の役割・機能4 （積極的疫学調査　事例展開）	岸、坂本
21	公衆衛生看護管理8	公衆衛生看護管理の実際1	岸
22	公衆衛生看護管理9	公衆衛生看護管理の実際2	岸
23	公衆衛生看護管理10	公衆衛生看護の倫理1	岸
24	公衆衛生看護管理11	公衆衛生看護の倫理2	岸
25	公衆衛生看護管理12	公衆衛生看護の倫理3	岸
26	公衆衛生看護管理13	公衆衛生看護の倫理4	岸
27	まとめ	まとめ	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

1．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
2．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への参加態度・レポート（20%）、筆記試験（80%）により総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【9】　教科書

1. 村嶋幸代・岸恵美子 編「保健学講座 1 公衆衛生看護学概論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**産業保健・学校保健特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Occcupational and School Health	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	望月　由紀子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師） 深石 純子（青山学院・中等部）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:45～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

〃　産業保健・学校保健・地域包括支援センターなど多様な場で展開される公衆衛生看護活動について、健康課題を明らかにし、課題を解決するための基礎的な技術を習得する。
＜産業保健＞
あらゆる職業に従事する人々の疾病・障害を予防し、健康の保持増進に関連する様々な要因を探求する。産業保健の理念・目的・対象を理解して、将来を見据えた労働者の健康の保持増進へのアプローチや産業保健に関するシステム、産業保健活動の実際や保健師の役割や機能を学ぶ。
＜学校保健＞
学校保健の理念・目的・対象を理解して、現代の変化に伴う子どもが抱える社会状況を理解し、子どもの成長発達における地域・社会との関わりの重要性や学校と地域との連携について考察する。養護教諭や教職員が専門家や関係機関、地域と連携し、チームとして課題解決に取り組む学校保健活動の実際や養護教諭の役割を学ぶ。〃

【３】　到達目標

1　産業保健の理念・目的・対象を理解して、職業性疾病や障害を予防する支援方法を説明できる。
2　学校保健の理念・目的・対象を理解して、子どもが抱える課題を解決する支援方法を説明できる。
3　環境が健康に及ぼす要因を探るため環境測定を行い、根拠に基づくリスクマネジメント手法を学ぶ。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス、産業保健の理解	理念、目的・意義、歴史	望月
2	場と対象の理解1	社会構造、産業保健の位置づけ	望月
3	場と対象の理解2	働き方改革、多様化する働き方	望月
4	産業保健行政の動向・制度1	労働災害、健康状態の実態	望月
5	産業保健行政の動向・制度2	法制度・システム	望月
6	産業保健行政の動向・制度3	施策化、健康経営・コラボヘルス・BCP	望月
7	産業保健分野の健康課題1	メンタルヘルス、治療と仕事の両立支援・復職支援	望月
8	産業保健分野の健康課題2	女性特有の健康課題、高年齢労働者への支援	望月
9	産業保健分野の健康課題3	職場巡視、環境測定、アセスメント1	望月
10	産業保健分野の健康課題4	職場巡視、環境測定、アセスメント2	望月
11	産業保健の事例展開1（関鉄工所）	中小企業で働く人々の安全・健康の実際1	岸・望月・坂本
12	産業保健の事例展開2（関鉄工所）	中小企業で働く人々の安全・健康の実際2	岸・望月・坂本
13	産業保健の事例展開3（関鉄工所）	中小企業で働く人々の安全・健康の実際3	岸・望月・坂本
14	産業保健の事例展開4（関鉄工所）	中小企業で働く人々の安全・健康の実際4	岸・望月・坂本
15	産業保健活動の実際1	大企業における産業保健活動の実際1	望月
16	産業保健活動の実際2	大企業における産業保健活動の実際2	望月
17	学校保健の理解	理念、目的・意義、歴史	望月
18	学校保健の制度	歴史・学校保健の法制度やシステム	望月
19	学校保健の健康課題1	発達段階における対象の特徴	望月
20	学校保健の健康課題2	主な健康課題への対策と支援	望月
21	学校保健の健康課題3	特別な支援を必要とする子どもへの対策と支援	望月
22	学校保健活動の実際1	学校保健の健康課題への実際1	深石
23	学校保健活動の実際2	学校保健の健康課題への実際2	深石
24	学校保健分野の事例展開1（放課後デイサービス）	特別な支援が必要な児童の健康課題1	岸・望月・坂本
25	学校保健分野の事例展開2（放課後デイサービス）	特別な支援が必要な児童の健康課題2	岸・望月・坂本
26	学校保健分野の事例展開3（放課後デイサービス）	特別な支援が必要な児童の健康課題3	岸・望月・坂本
27	学校保健分野の事例展開4（放課後デイサービス）	特別な支援が必要な児童の健康課題4	岸・望月・坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

1．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
2．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への参加態度・レポート（20%）、筆記試験（80%）により総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【9】　教科書

1．岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**地区管理・組織支援演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Community Management and Support Seminar	選択	演習	1年次･通年	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）横井 郁子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）　御任 充和子（地域連携教育支援センター・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 横井　郁子　yokoiyk■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

小地域をフィールドとして、地域における住民や関係機関・関係職種と関わり協働することで、公衆衛生看護活動の地域での展開方法である地区活動や組織支援に必要な技術を習得する。

【３】　到達目標

１　人々の日常生活の基盤である地区/近隣/コミュニティ/小地域等の概念について説明できる。
２　地域における住民組織/地域組域の活動目的や組織構造が説明できる。
３　関係機関・関係職種と連携・協働し、住民が主体となって地域づくりを行うための地区活動や組織支援について具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の目的とすすめ方	岸
2	地区活動の基本	地区活動の基本	岸
3	地域におけるグループ・組織化	地域におけるグループ・組織化と保健師の役割地域の組織化とその支援	岸
4	住民とのパートナーシップ	住民とのパートナーシップと協働	岸
5	地域における多機関・多職種との連携	地域の健康課題を解決するための多機関・多職種との連携	岸
6	フィールドワーク1（多機関・多職種連携）	地域における関係機関・職種の理解（地域包括支援センター）	岸・望月・坂本
7	フィールドワーク1（多機関・多職種連携）	地域における関係機関・職種の理解（シニアステーション）	岸・望月・坂本
8	フィールドワーク1（多機関・多職種連携）	地域における関係機関・職種の理解（児童館）	岸・望月・坂本
9	フィールドワーク2（地区診断）	地域の量的データの収集と分析	岸・望月・坂本
10	フィールドワーク2（地区診断）	地区踏査による情報収集と分析	岸・望月・坂本
11	フィールドワーク2（地区診断）	地域の質的データの収集と分析	岸・望月・坂本
12	フィールドワーク3（多機関・多職種連携２）	地域における関係機関・職種の理解（社会福祉協議会の機能）	岸・望月・坂本
13	フィールドワーク3（多機関・多職種連携２）	地域における関係機関・職種の理解（コミュニティワーカーの役割）	岸・望月・坂本
14	フィールドワーク3（多機関・多職種連携２）	地域における関係機関・職種の理解（地域活動支援センター）	岸・望月・坂本
15	フフィールドワーク4（グループ・組織との連携）	自主グループのニーズと課題（セルフ・ヘルプグループ）	岸・望月・坂本
16	フィールドワーク4（グループ・組織との連携）	住民の集いの場のニーズと課題（サポートグループ）	岸・望月・坂本
17	フィールドワーク4（グループ・組織との連携）	住民の集いの場のニーズと課題（サポートグループ）	岸・望月・坂本
18	フィールドワーク5（住民との協働）	地域のキーパーソンが捉える住民のニーズと課題（民生児童委員・健康推進員）	岸・望月・坂本
19	フィールドワーク5（住民との協働）	地域のキーパーソンが捉える住民のニーズと課題（自治会長・老人クラブ）	岸・望月・坂本
20	フィールドワーク5（住民との協働）	地域のキーパーソンが捉える住民のニーズと課題（健康推進員・婦人会）	フィールドワーク7（地域の健康課題の抽出と課題解決のための計画立案）
21	フィールドワーク6（専門職としての情報と課題の共有）	地域の専門職が捉える住民のニーズと課題（いえラボ：暮らしの保健室）社会福祉協議会の活動	横井・御任・岸・坂本
22	フィールドワーク6（専門職としての情報と課題の共有）	地域の専門職が捉える住民のニーズと課題（社会資源のアセスメントと開発）	横井・御任・岸・坂本
23	フィールドワーク6（専門職としての情報と課題の共有）	地域の専門職が捉える住民のニーズと課題（いえラボ：専門職の連携）	横井・御任・岸・坂本
24	フィールドワーク7（地域の健康課題の抽出と課題解決のための計画立案）	地域のニーズと課題についてのプレゼンテーション	岸・望月・坂本
25	フィールドワーク7（地域の健康課題の抽出と課題解決のための計画立案）	地域の課題解決のための計画のプレゼンテーション	岸・望月・坂本
26	フィールドワーク7（地域の健康課題の抽出と課題解決のための計画立案）	地域の課題解決のための住民とのディスカッション	岸・望月・坂本
27	まとめ	フィールドワークのまとめ	岸・坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

1．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
2．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への参加態度・レポート（20%）、筆記試験（80%）により総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年　　（初版）

2. 岸恵美子、村嶋幸代 編「保健学講座3　公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社・2022年（初版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	**地域診断・ケアシステム特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Assessment and Care System	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師） 上地 賢（健康科学部・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ＊■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

地域診断により健康課題を明らかにし、既存のケアシステムを評価することを通して、地域に必要な事業を企画・立案し、システム化・施策化へと展開するケアシステム構築のための実践的な技術を習得する。

【３】　到達目標

１　地域診断に必要な情報収集・データ収集と分析方法が説明できる。
２　地域診断により抽出された健康課題を解決するために必要な事業を企画・立案できる。
３　既存のケアシステムを評価し、企画・立案した事業の評価計画を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	講義の目的と進め方	岸
2	地域診断1	地域診断の必要性と活用できる理論・モデル	岸
3	地域診断2	データ収集の必要性と収集方法1	岸
4	地域診断3	データ収集の必要性と収集方法2	岸
5	地域診断4	データの解釈1	上地
6	地域診断5	データの解釈2	上地
7	地域診断6	収集したデータの分析1	上地
8	地域診断7	収集したデータの分析2	上地
9	地域診断8	情報収集とアセスメント1	岸・望月・坂本
10	地域診断9	情報収集とアセスメント2	岸・望月・坂本
11	地域診断10	地区踏査による情報収集1	岸・望月・坂本
12	地域診断11	地区踏査による情報収集2	岸・望月・坂本
13	地域診断12	地区踏査による情報収集3	岸・望月・坂本
14	地域診断13	地区踏査による情報収集4	岸・望月・坂本
15	地域診断14	アセスメントと健康課題の抽出1	岸・望月・坂本
16	地域診断15	アセスメントと健康課題の抽出2	岸・望月・坂本
17	地域診断16	アセスメントと健康課題の抽出3	岸・望月・坂本
18	地域診断17	アセスメントと健康課題の抽出4	岸・望月・坂本
19	事業計画の立案と評価計画の作成1	事業計画の立案1	岸・望月・坂本
20	事業計画の立案と評価計画の作成2	事業計画の立案2	岸・望月・坂本
21	事業計画の立案と評価計画の作成3	事業計画の立案3	岸・望月・坂本
22	事業計画の立案と評価計画の作成4	事業計画の立案4	岸・望月・坂本
23	事業計画の立案と評価計画の作成5	評価計画の作成1	岸・望月・坂本
24	事業計画の立案と評価計画の作成6	評価計画の作成　2	岸・望月・坂本
25	事業計画の立案と評価計画の作成7	評価計画の作成	岸・望月・坂本3
26	事業計画の立案と評価計画の作成8	評価計画の作成4	岸・望月・坂本
27	事業計画および評価計画の発表	事業計画および評価計画の発表	岸・望月・坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

1．授業ごとに該当分野の予習復習をする。
2．30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への参加態度・レポート（20%）、筆記試験（80%）により総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

1. 岸恵美子、平野かよ子、村嶋幸代 編「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」メヂカルフレンド社・2022年（初版）
2. 野村陽子・加藤典子 編「保健学講座 5 保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社・2022年 （初版）

【10】　参考書

1.金川克子,早川和生監訳, コミュニティアズパートナー第2版,2007,医学書院

【11】　備考(関連科目等)

「遠隔形式」に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。

科目名(日本語)	公衆衛生看護学実習Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticeⅠ	選択	実習	1年次･秋	2単位 90時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）　望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子 yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【2】　授業概要

保健所・保健センターで行われる実習を通じて、個人・家族と集団・地域と連動させながら、健康課題を解決していくための公衆衛生看護活動としての実践的な技術を習得する。

【3】　到達目標

１　地域で生活する多様な人々の健康レベル・特徴等を理解し、地域のケア資源を活用しつつ、住民に寄り添い支援をする保健師の活動の概要を説明できる。
２　地域で生活する多様な人々の健康ニーズに対して、地域診断の手法を使って健康課題を明らかにし抽出できる。
３　公衆衛生看護の役割・機能を理解し、行政における公的責任と住民の健康を守る保健師の役割・責務について説明できる。″

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
	実習施設	東京都23区内の保健所・保健センター	
	実習期間	2週間（学内演習、準備、まとめを含む）	
	実習内容	・実習区オリエンテーション ・実習区の地域診断・健康課題の抽出 ・実習区で展開されている保健事業の理解と参加 ・家庭訪問への同行・支援計画の立案 ・事例理解のための各種相談、会議の同席 ・住民の健康課題に合わせた健康教育の準備 ・実習施設カンファレンス	岸・望月・坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

実習で学習する予定の内容および自分の関心の高い分野の事前学習をして実習に臨む。
実習で学習した内容の事後学習を行う。

【7】　評価方法・基準

実習への取り組み・参加態度（30%）、実習記録・レポート等（70%）を総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、解説して返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、Active Academy・classroomに掲示する。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

これまでに紹介したテキスト

【11】　備考(関連科目等)

感染拡大等により実施内容を変更する場合がある。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。
実践的教育から構成する授業科目である。

科目名(日本語)	公衆衛生看護学実習Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticeⅡ	選択	実習	1年次･秋	2単位 90時間
科目責任者	坂本 美佐子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）坂本 美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日　13：45～14：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom、Google forms　等

【２】　授業概要

保健所・保健センターで行われる実習を通し、地域の人々（個人・家族・集団・地域）の健康課題を明らかにし、健康課題を解決するための事業計画を立案、実施、評価する一連の公衆衛生看護活動としての技術を習得する。

【３】　到達目標

１健康ニーズや健康課題に対してPDCAの視点で展開されている保健事業を抽出し、保健計画立案や評価の視点を習得すると共に、必要な社会資源を創出する保健師の役割を説明できる。
２地域住民の健康レベルとQOL向上のために必要な公衆衛生看護活動の方法を理解し、基礎的な知識・技術・態度を習得できる。
３予防を含め、多様な人々の健康を守るために各分野の多職種・多機関と連携・協働して地域全体を支える包括的かつ重層的な支援体制の構築を目指す公衆衛生看護の役割を考察する。
４行政における公衆衛生看護管理を学び、組織の中で働く行政保健師の役割や意義を考察する。
５地域住民による支えあいを育むと共に、住民と共に安心して健康に暮らせる地域づくりを目指し、地域共生社会の実現に寄与する保健師の役割を考察する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
	実習施設	東京都23区内の保健所・保健センター	
	実習期間	2週間（準備、まとめを含む）	
	実習内容	健康ニーズや健康課題に対してPDCAの視点で展開されている保健事業を抽出し、保健計画立案や評価の視点を習得するし、必要な社会資源を創出する保健師の役割を理解できる。 地域住民の健康レベルとQOL向上のために必要な公衆衛生看護活動の方法を理解し、基礎的な知識・技術・態度を習得できる。 予防を含め、多様な人々の健康を守るために各分野の多職種・多機関と連携・協働して地域全体を支える包括的かつ重層的な支援体制の構築を目指す公衆衛生看護の役割を理解できる。 行政における公衆衛生看護管理を学び、組織の中で働く行政保健師の役割や意義を理解できる。 地域住民による支えあいを育むと共に、住民と共に安心して健康に暮らせる地域づくりを目指し、地域共生社会の実現に寄与する保健師の役割を理解できる。	岸・望月・坂本

【６】　事前・事後学習とその時間

実習で学習する予定の内容および自分の関心の高い分野の事前学習をして実習に臨む。
実習で学習した内容の事後学習を行う。

【７】　評価方法・基準

実習への取り組み・参加態度（30%）、実習記録・レポート等（70%）を総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、解説して返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、Active Academy・classroomに掲示する。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

これまでに紹介したテキスト

【11】　備考(関連科目等)

感染拡大等により実施内容を変更する場合がある。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。
実践的教育から構成する授業科目である。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学実習Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticeⅢ	必修	実習	2年次･春	2単位 90時間
科目責任者	望月　由紀子				
担当教員	岸 恵美子（看護学研究科・教授）望月 由紀子（看護学研究科・准教授）　坂本 美佐子（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月　由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp 坂本　美佐子　misako.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日13:45～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

学校保健・産業保健・地域包括支援センターなど多様な場で展開される公衆衛生看護活動の場で行われる実習を通じて、健康課題を明らかにし、基礎的な技術を習得する。

【３】　到達目標

1　労働者の健康課題を把握し、企業における公衆衛生看護活動と保健師の役割・機能について考察し、説明できる。
2　学校保健の仕組み、学校保健の対象や健康課題を把握し、対象への学校保健活動を学び、学校保健活動における養護教諭・保健師の役割について考察し、説明できる。
3　高齢者やその家族の健康課題を理解し、地域で展開されている事業について理解を深めるとともに、地域の人々とともに地域づくりを推進する保健師の役割や多機関との連携について考察し、説明することができる。
4　それぞれの施設において対象とする住民の健康課題を明らかにし、課題解決に向けた方策を検討することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
	実習オリエンテーション	学内実習	岸・望月・坂本
	環境測定・職場巡視実習	学内実習	岸・望月・坂本
	産業保健実習（外部施設）	・実習施設オリエンテーション ・実習施設の特徴と労働者の健康課題の理解 ・保健師業務の見学 ・保健師・管理者・衛生部門等からの講話 ・実習施設カンファレンス	岸・望月・坂本
	学校保健実習（外部施設）	・実習施設オリエンテーション ・実習施設の特徴と児童・生徒・学生の健康課題の理解 ・養護教諭業務の見学 ・養護教諭・管理者・衛生部門等からの講話 ・実習施設カンファレンス	岸・望月・坂本
	地域包括支援センター実習 （大田区内 外部施設）	・実習施設オリエンテーション ・実習施設が管轄する地域の高齢者の特徴と健康課題の理解 ・各種事業、会議の参加・見学 ・家庭訪問への同行 ・実習施設カンファレンス	岸・望月・坂本
	学内報告会		岸・望月・坂本

【６】　事前・事後学習とその時間

実習で学習する予定の内容および自分の関心の高い分野の事前学習をして実習に臨む。
実習で学習した内容の事後学習を行う。

【７】　評価方法・基準

実習への取り組み・参加態度（30%）、実習記録・レポート等（70%）を総合的に評価する。
レポート内容は、A,B,Cの3段階で評価する。

【８】　フィードバック方法

レポート内容は、解説して返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、Active Academy・classroomに掲示する。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

これまでに紹介したテキスト

【11】　備考(関連科目等)

感染拡大等により実施内容を変更する場合がある。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信等を行う。
実践的教育から構成する授業科目である。

科目名(日本語)	**在宅看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Home Health Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, タブレット端末

【２】　授業概要

国内外の在宅ケアの現状、動向、および関連する法制度についての分析から、地域包括的に在宅看護の現状をアセスメントできる能力を養う。

【３】　到達目標

１．在宅看護について、歴史、法制度、地域包括ケアシステム、および看護組織管理などから多面的に分析し記述できる。
２．在宅療養の意義と看護の役割について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学の概念	オリエンテーション	成澤
2	在宅ケアの概念　1	在宅ケアの理念①	成澤
3	在宅ケアの概念　2	在宅ケアの理念②	成澤
4	在宅ケアの概念　3	在宅ケアの歴史①	成澤
5	在宅ケアの概念　4	在宅ケアの歴史②	成澤
6	在宅ケアの現状　1	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源①	成澤
7	在宅ケアの現状　2	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源②	成澤
8	在宅ケアの現状　3	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源③	成澤
9	在宅ケアの現状　4	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源④	成澤
10	在宅看護と地域包括ケア1	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状①	成澤
11	在宅看護と地域包括ケア2	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状②	成澤
12	在宅看護と地域包括ケア3	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後①	成澤
13	在宅看護と地域包括ケア4	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後②	成澤
14	療養者への理解　1	対象者理解のための理論①	成澤
15	療養者への理解　2	対象者理解のための理論②	成澤
16	療養者への理解　3	対象者理解の実際①	成澤
17	療養者への理解　4	対象者理解の実際②	成澤
18	在宅看護組織の管理運営1	訪問看護ステーションの管理運営①	成澤
19	在宅看護組織の管理運営2	訪問看護ステーションの管理運営②	成澤
20	在宅看護組織の管理運営3	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営①	成澤
21	在宅看護組織の管理運営4	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営②	成澤
22	在宅看護における倫理　1	在宅看護における倫理的問題①	成澤
23	在宅看護における倫理　2	在宅看護における倫理的問題②	成澤
24	在宅看護における倫理　3	在宅看護における倫理的問題③	成澤
25	在宅看護における倫理　4	在宅看護における倫理的問題④	成澤
26	在宅看護学の動向　1	在宅看護学の課題と動向①	成澤
27	在宅看護学の動向　2	在宅看護学の課題と動向①	成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	在宅看護学特論Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Home Health NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明　akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle，タブレット端末

【２】　授業概要

理論やモデルをもとに在宅療養者をアセスメントできる基礎能力を養う。

【３】　到達目標

１．地域で生活しながら療養する人々と家族について理解を深めるため、在宅看護の基本的な理論について説明できる。
２．対象を理解するための理論を理解し、在宅看護における課題を記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学における理論	ガイダンス	成澤
2	在宅看護学における理論と概念　１	エンパワメント①	成澤
3	在宅看護学における理論と概念　２	エンパワメント②	成澤
4	在宅看護学における理論と概念　３	エンパワメント③	成澤
5	在宅看護学における理論と概念　４	エンパワメント④	成澤
6	在宅看護学における理論と概念　５	ストレングスモデル①	成澤
7	在宅看護学における理論と概念　６	ストレングスモデル②	成澤
8	在宅看護学における理論と概念　７	ストレングスモデル③	成澤
9	在宅看護学における理論と概念　８	ストレングスモデル④	成澤
10	在宅看護学における理論と概念　９	国際機能分類ーICF　①	成澤
11	在宅看護学における理論と概念　１０	国際機能分類ーICF　②	成澤
12	在宅看護学における理論と概念　１１	国際機能分類ーICF　③	成澤
13	在宅看護学における理論と概念　１２	国際機能分類ーICF　④	成澤
14	在宅看護学における理論と概念　１３	ニューマンシステムモデル①	成澤
15	在宅看護学における理論と概念　１４	ニューマンシステムモデル②	成澤
16	在宅看護学における理論と概念　１５	ニューマンシステムモデル③	成澤
17	在宅看護学における理論と概念　１６	ニューマンシステムモデル④	成澤
18	在宅看護と家族看護論　１	在宅療養者の家族の実際と課題①	成澤
19	在宅看護と家族看護論　２	在宅療養者の家族の実際と課題②	成澤
20	在宅看護と家族看護論　３	在宅療養者の家族の実際と課題③	成澤
21	在宅看護と家族看護論　４	在宅療養者の家族の実際と課題④	成澤
22	地域と在宅ケア　１	療養場所移行を支えるチームのあり方と看護①	成澤
23	地域と在宅ケア　２	療養場所移行を支えるチームのあり方と看護①	成澤
24	地域と在宅看護　１	地域における在宅看護の役割と課題①	成澤
25	地域と在宅看護　２	地域における在宅看護の役割と課題②	成澤
26	地域と在宅看護　３	地域における在宅看護の役割と課題③	成澤
27	地域と在宅看護　４	地域における在宅看護の役割と課題④	成澤

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【８】　フィードバック方法

Moodleで全体評価を行うとともに授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**在宅看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Home Health Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明　akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, タブレット端末

タブレット端末

【２】　授業概要

在宅看護学に関連する文献に関して批判的に吟味、検討するとともに、実践報告のレビューを行いゼミ形式で課題検討、および効果的な在宅看護実践方法を探求する能力を養う。

【３】　到達目標

１．地域において療養する人とその家族を包括的にアセスメントするための方略を文献および実践を通して記述できる。
２．在宅療養継続のためのシームレスな看護方略およびチームケアのあり方について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学研究	ガイダンス	成澤
2	在宅看護継続のための看護方略①	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略①	成澤
3	在宅看護継続のための看護方略②	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略②	成澤
4	在宅看護継続のための看護方略③	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略③	成澤
5	在宅看護継続のための看護方略④	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略④	成澤
6	在宅看護継続のための看護方略⑤	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑤	成澤
7	在宅看護継続のための看護方略⑥	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑥	成澤
8	在宅看護継続のための看護方略⑦	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑦	成澤
9	在宅看護継続のための看護方略⑧	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略⑧	成澤
10	在宅看護における文献クリティーク①	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク①	成澤
11	在宅看護における文献クリティーク②	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク②	成澤
12	在宅看護における文献クリティーク③	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク③	成澤
13	在宅看護における文献クリティーク④	在宅看護に関する量的研究の文献クリティーク④	成澤
14	在宅看護における文献クリティーク⑤	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク①	成澤
15	在宅看護における文献クリティーク⑥	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク②	成澤
16	在宅看護における文献クリティーク⑦	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク③	成澤
17	在宅看護における文献クリティーク⑧	在宅看護に関する質的研究の文献クリティーク④	成澤
18	フィールドワーク①	フィールドワーク計画書の作成①	成澤
19	フィールドワーク②	フィールドワーク計画書の作成②	成澤
20	フィールドワーク③	フィールドワーク計画書の作成③	成澤
21	フィールドワーク④	フィールドワーク計画書の作成④	成澤
22	フィールドワーク⑤	フィールドワーク計画書の発表①	成澤
23	フィールドワーク⑥	フィールドワーク計画書の発表②	成澤
24	フィールドワーク⑦	フィールドワーク計画書の発表③	成澤
25	フィールドワーク⑧	フィールドワーク計画書の発表④	成澤
26	フィールドワーク⑨	フィールドワーク計画書の修正①	成澤
27	フィールドワーク⑩	フィールドワーク計画書の修正②	成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**在宅看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Home Health NursingⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明　akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle,　タブレット端末

【２】　授業概要

各自が関心を持っている領域から研究課題を明確にし、分析方法を検討できる能力を養う。

【３】　到達目標

１．関心を持っている看護実践の場において、在宅療養における重要な課題や研究課題を説明できる。
２．研究課題を実証的に検討する方法を検討し、研究計画書を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	研究の進め方	成澤
2	研究課題の明確化①	在宅看護における研究課題の発表①	成澤
3	研究課題の明確化②	在宅看護における研究課題の発表②	成澤
4	研究課題の明確化③	研究課題に関する文献クリティーク①	成澤
5	研究課題の明確化④	研究課題に関する文献クリティーク②	成澤
6	研究課題の明確化⑤	研究課題に関する文献クリティーク③	成澤
7	研究課題の明確化⑥	研究課題に関する文献クリティーク④	成澤
8	研究課題の明確化⑦	研究課題に関する文献クリティーク⑤	成澤
9	研究課題の明確化⑧	研究課題に関する文献クリティーク⑥	成澤
10	研究デザイン①	研究デザインの発表①	成澤
11	研究デザイン②	研究デザインの発表②	成澤
12	研究デザイン③	研究デザインの発表③	成澤
13	研究デザイン④	研究デザインの発表④	成澤
14	フィールドワーク①	フィールドワーク（予備調査）①	成澤
15	フィールドワーク②	フィールドワーク（予備調査）②	成澤
16	フィールドワーク③	フィールドワーク（予備調査）③	成澤
17	フィールドワーク④	フィールドワーク（予備調査）④	成澤
18	フィールドワーク⑤	フィールドワーク（予備調査）の結果評価①	成澤
19	フィールドワーク⑥	フィールドワーク（予備調査）の結果評価②	成澤
20	研究計画書①	研究計画書の作成①	成澤
21	研究計画書②	研究計画書の作成②	成澤
22	研究計画書③	研究計画書の作成③	成澤
23	研究計画書④	研究計画書の作成④	成澤
24	研究計画書⑤	研究計画書の発表①	成澤
25	研究計画書⑥	研究計画書の発表②	成澤
26	研究計画書⑦	研究計画書の発表③	成澤
27	研究計画書⑧	研究計画書の発表④	成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
ゼミでは、学生の主体的な運営により実施する。行なってきた文献検討、フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し課題を深めることを期待する。
紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**感染制御学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Infection Control and Prevention Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）金坂伊須萌（看護学研究科・講師） 内藤拓（医学部・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆　毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子　毎週木曜日12：15-13：15 金坂伊須萌　毎週木曜日12：15-13：15 内藤拓　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

感染症の起炎菌と感染経路およびその制御について検討する。
感染症の診断と治療に関する基礎知識と宿主免疫の働きについて理解する。

【３】　到達目標

1.感染症起炎菌の感染経路と対策について具体的に述べることができる。
2.臨床における主な感染症とその診断法の概要を説明できる。
3.抗菌薬と抗菌薬耐性菌に関する基礎的知識について述べることができる。
4.病原体に対する宿主免疫の働きについて述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染制御学の概念	感染制御とは	小林
2	感染症と流行	病原体の移動と伝播	小林
3	感染経路と遮断①	各種感染経路別対策と方法①	小林
4	感染経路と遮断②	各種感染経路別対策と方法②	小林
5	感染症と病原微生物①	食中毒、主要な細菌感染症①	小林
6	感染症と病原微生物②	食中毒、主要な細菌感染症②	小林
7	感染症と病原微生物③	主要なウイルス感染症と特徴①	小林
8	感染症と病原微生物④	主要なウイルス感染症と特徴②	小林
9	日和見感染症①	免疫力の低下と感染症①	小林
10	日和見感染症②	免疫力の低下と感染症②	小林
11	感染症診断①	臨床検体の採取と取り扱い①	小林
12	感染症診断②	臨床検体の採取と取り扱い②	小林・金坂
13	感染症診断③	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念①	小林
14	感染症診断④	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念②	小林・金坂
15	抗菌薬感受性の基礎	抗菌薬感受性試験とその概念	勝瀬
16	抗菌薬感受性と標準法①	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準①	勝瀬
17	抗菌薬感受性と標準法②	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準②	勝瀬
18	抗菌薬と特徴①	抗菌薬の微生物に対する作用①	勝瀬
19	抗菌薬と特徴②	抗菌薬の微生物に対する作用②	勝瀬
20	抗菌薬と特徴③	抗菌薬の種類と作用機序①	勝瀬
21	抗菌薬と特徴④	抗菌薬の種類と作用機序②	勝瀬
22	抗菌薬耐性菌①	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌①	勝瀬・金坂
23	抗菌薬耐性菌②	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌②	勝瀬・金坂
24	免疫①	免疫とは①	内藤
25	免疫②	免疫とは②	内藤
26	免疫③	病原体に対する免疫の働き①	内藤
27	免疫④	病原体に対する免疫の働き②	内藤

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(70%)、研究プロトコールおよびプレゼンテーション(30%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
その他、講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってMoodle,zoom等を用い授業を行う。
講義を基にゼミナール形式で行う。
過去に学習した感染と防御(予防)に関する内容について復習しておくことが望ましい。
身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Infection Control and PreventionⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）金坂伊須萌（看護学研究科・講師） 内藤拓（医学部・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆　毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子　毎週木曜日12：15-13：15 金坂伊須萌 毎週木曜日12：15-13：15 内藤拓　　授業後に質問を受け付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

医療関連施設内感染が生じる要因について環境および宿主側の因子から探求し、サーベイランスの必要性およびその遮断法について検討する。抗菌薬耐性菌と効果的な抗菌薬治療について科学的根拠に基づいたPK-PD理論を理解する。特殊病態下での免疫について理解し、易感染宿主における感染対策について検討する。

【３】　到達目標

1. 医療関連感染で問題となる病原体と分布について具体的に述べることができる。
2. 抗菌薬耐性菌の性質とそれらが生じる仕組みを説明することができる。
3. 抗菌薬の特性と適正使用による耐性菌の抑制法に関する基礎的な知識を説明することができる。
4. アレルギーや特殊病態下での免疫と感染症とのかかわりについて概要を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療関連感染①	医療関連感染の実態①	小林
2	医療関連感染②	医療関連感染の実態②	小林
3	医療関連感染と病原体①	医療関連感染の主な病原体①	小林
4	医療関連感染と病原体②	医療関連感染の主な病原体②	小林
5	起炎菌と感染症診断①	抗原や遺伝子を利用した感染症診断①	勝瀬・金坂
6	起炎菌と感染症診断②	抗原や遺伝子を利用した感染症診断②	勝瀬・金坂
7	起炎菌と感染症診断③	染色や培養法による感染症診断	勝瀬
8	AMR(抗菌薬耐性菌)問題	世界における抗菌薬耐性菌問題	小林・金坂
9	抗菌薬耐性菌①	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など①	小林
10	抗菌薬耐性菌②	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など②	小林
11	抗菌薬耐性菌③	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など①	小林
12	抗菌薬耐性菌④	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など②	小林
13	抗菌薬適正使用①	抗菌薬の体内動態とモニタリング①	小林
14	抗菌薬適正使用②	抗菌薬の体内動態とモニタリング②	小林
15	抗菌薬適正使用③	PK-PD理論と抗菌薬適正使用①	小林
16	抗菌薬適正使用④	PK-PD理論と抗菌薬適正使用②	小林
17	感染症サーベイランス①	各種サーベイランスと手法①	小林
18	感染症サーベイランス②	各種サーベイランスと手法②	小林
19	主要な感染症①	血流感染症と起炎菌の特徴①	小林
20	主要な感染症②	血流感染症と起炎菌の特徴②	小林
21	主要な感染症③	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴①	小林
22	主要な感染症④	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴②	小林
23	免疫⑤	免疫とアレルギー①	内藤
24	免疫⑥	免疫とアレルギー②	内藤
25	免疫⑦	特殊病態下での免疫①	内藤
26	免疫⑧	特殊病態下での免疫②	内藤
27	遺伝子疫学解析	遺伝子手法を利用した分子疫学的解析	小林・金坂

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(70%)、研究プロトコールおよびプレゼンテーション(30%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってMoodle,zoom等を用い授業を行う。
講義を基にゼミナール形式で行う。
感染制御学特論Ⅰで学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Infection Control and Prevention Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）金坂伊須萌（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆　毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子　毎週木曜日12：15-13：15 金坂伊須萌　毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

感染制御学特論を基盤に、感染症の診断について理解し、感染制御における意義を検討する。感染症起炎菌の抗菌薬に対する感受性を実験的に検証することにより抗菌薬の特性や抗菌薬耐性菌の検索の手法を理解し、病院感染および市中感染の適切な対応へつなげる能力を培う。

【３】　到達目標

1. 微生物を法令に準拠した方法で適正に取り扱うことができる。
2. 細菌学的手法を用い感染症の診断と耐性菌検出を行うことができる。
3. 実際のアウトブレイク事例をとおしサーベイランスを行うことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染症および微生物と法律①	バイオハザード、バイオセーフティ①	小林・勝瀬
2	感染症および微生物と法律②	バイオハザード、バイオセーフティ②	小林・勝瀬
3	感染症および微生物と法律③	病原微生物の適正な取扱い方法①	小林・勝瀬
4	感染症および微生物と法律④	病原微生物の適正な取扱い方法②	小林・勝瀬
5	感染症診断①	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い①	小林・勝瀬
6	感染症診断②	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い②	小林・勝瀬
7	感染症診断③	塗抹と鏡見、グラム染色①	小林・勝瀬
8	感染症診断④	塗抹と鏡見、グラム染色②	小林・勝瀬
9	感染症診断⑤	臨床検体の培養と同定①	小林・勝瀬
10	感染症診断⑥	臨床検体の培養と同定②	小林・勝瀬
11	感染症診断⑦	迅速診断法	小林・勝瀬
12	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御①	抗菌薬感受性測定の原理と実際① ディスク拡散法	小林・勝瀬・金坂
13	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御②	抗菌薬感受性測定の原理と実際② MIC法	小林・勝瀬・金坂
14	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御③	抗菌薬感受性測定の原理と実際③ MIC法	小林・勝瀬・金坂
15	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御④	国際標準(CLSI)基準による感受性測定結果の解釈	小林・勝瀬
16	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑤	抗菌薬耐性菌の検出①	小林・勝瀬
17	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑥	抗菌薬耐性菌の検出②	小林・勝瀬
18	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑦	抗菌薬耐性菌の検出③	小林・勝瀬・金坂
19	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑧	抗菌薬耐性菌の検出④	小林・勝瀬・金坂
20	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑨	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証①	小林・勝瀬
21	抗菌薬耐性菌(AMR)と感染制御⑩	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証②	小林・勝瀬
22	感染制御を目的としたサーベイランス①	流行の分類、アウトブレイクの検知①	小林・勝瀬
23	感染制御を目的としたサーベイランス②	流行の分類、アウトブレイクの検知②	小林・勝瀬
24	感染制御を目的としたサーベイランス③	アウトブレイク事例への対応の実際①	小林・勝瀬
25	感染制御を目的としたサーベイランス④	アウトブレイク事例への対応の実際②	小林・勝瀬
26	感染制御を目的としたサーベイランス⑤	アウトブレイク事例への対応の実際③	小林・勝瀬
27	感染制御を目的としたサーベイランス⑥	アウトブレイク事例への対応の実際④	小林・勝瀬

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(80%)、研究(実験)の成果(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。
必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。
感染制御学特論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症と抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名(日本語)	**看護教育論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Education of nursing science	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）夏原和美（看護学研究科･教授）申　于定（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM, Moodle

【２】　授業概要

人の成長を支援する教育の基礎理論について学び、看護学教育(基礎教育･継続教育)を実践するための基礎能力を養う。

【３】　到達目標

1. 看護教育に必要とする基礎理論を理解し説明できる。
2. 学習者の特徴を踏まえた教育環境･教育方法を選択できる。
3. キャリアの概念を理解し、ポートフォリオを用いて看護職としての自己のキャリアをデザインできる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1 - 3	ガイダンス	・オリエンテーション・ポートフォリオ作成・看護教育の特徴と課題	原･夏原･申
4 - 7	看護教育のための基礎理論とその活用①	・看護教育の特徴・動機付け理論理論・ワーク	夏原
8-11	看護教育のための基礎理論とその活用②	・成人学習理論・コーチング・ワーク	原
12-15	看護教育のための基礎理論とその活用③	・経験学習・教育評価・ワーク	原
16-19	看護教育のための基礎理論とその活用④	・学習目標の設定・教育評価・ワーク	夏原
20-23	看護教育のための技能	・学びを促進する教育技法と環境・個別指導と集団指導・模擬授業・ワーク	原・夏原･申
24-27	キャリアの概念と看護教育	・キャリアダイナミクスとキャリア開発・ポートフォリオを活用して自己のキャリアを描く	原・夏原･申

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書
講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書
講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式で実施する。グループワークを実施するため2名以上で開講する。

科目名(日本語)	**看護理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Theory	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授） 緑川綾（看護学研究科・助教）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
その他

「その他」の内容

ケースメソッド

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

看護理論は「看護」という営みを理解し、新たな看護実践を創造する枠組として価値づけられる。本科目では、看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性について概観した後に、理論のクリティーク方法を学修する。また、代表的ないくつかの理論について論及し、看護理論の看護事象への活用可能性について議論する。さらに、選択した1 つの看護理論について枠組みを用いて分析し、その結果をプレゼンテーションする。これらにより、看護理論を看護実践に活用する能力、および看護事象を理論的に捉える能力を醸成する。

【３】　到達目標

1)看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を説明できる。
2) いくつかの看護論の背景、主要概念、枠組みを説明することができる。
3) 理論に基づく事例検討を行い、課題解決に看護理論を用いる方法を説明することができる。
4) 1つの看護理論について背景、主要概念、枠組み、事例への活用方法をプレゼンテーションすることができる。
5)看護実践の基盤となる諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用について検討し、自分の考えを論理的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	看護学の理論体系の発展経緯	看護における理論開発の歴史 看護理論の概観と看護科学、看護学との関連	菊池
3-4	看護現象の概念化や理論化の意味や重要性	看護理論の諸概念 卓越した看護実践への看護理論の活用 看護実践の質を維持・発展させるための理論構築 理論と概念、理論の分析と評価 看護実践・教育・研究における看護理論の重要性	菊池
5-8	ケアリング理論	ジーン・ワトソンの看護理論 ・ケースの検討（看護理論の活用） ・理論家の背景、理論の源泉、問題意識、前提、主要概念、命題	緑川・菊池
9-12	セルフケア理論	ドロセア・オレムの看護理論① ・ケースの検討（看護理論の活用） ・理論家の背景、理論の源泉、問題意識、前提、主要概念、命題	菊池
13-17	クリティーク演習①	グループで選択した看護理論についてのクリティーク①	菊池
18-21	中範囲理論	病みの軌跡理論・症状マネジメント理論　など ・ケースの検討（看護理論の活用） ・理論家の背景、理論の源泉、問題意識、前提、主要概念、命題	菊池
22-25	課題発表	課題発表：選択した看護理論の看護実践への活用－その実際と課題－	菊池
26-17	看護理論と看護実践	・看護実践への看護理論の活用の可能性 ・看護理論を看護実践に活用する上での課題	菊池・緑川

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
ケースメソッドによるケースの検討や課題発表を行うので、事前準備をして積極的に参加すること。
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

筒井真優美編集(2015)，看護理論家の業績と理論評価，医学書院，第２版

【10】　参考書

筒井真優美編（2008），看護理論　看護理論20の理解と実践への応用，南江堂，第３版.

【11】　備考(関連科目等)

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

科目名(日本語)	**看護倫理**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Ethics	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授） 伊藤桂子（看護学研究科・教授） 富岡由美（看護学研究科・教授） 小坂志保（看護学研究科・准教授） 丹木博一（上智大学短期大学部・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美（mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp） ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	授業日13:00-18:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

この科目では、めまぐるしく変化する医療・看護の現場および社会における倫理的課題について学修する。臨床事象の分析、倫理的調整を図るための問題解決策の検討により、「看護倫理とは何か」を学生ひとりひとりが探求する。生命倫理と看護倫理の基礎的知識を修得し、看護の場における倫理的課題について倫理原則や看護実践にかかわる倫理概念などの視点からの事例の分析と対策の検討をとおして、倫理的課題に気づく力、課題解決能力・調整力を養う。

【３】　到達目標

1.生命倫理の基礎的知識を理解し、看護倫理の歴史的背景、国際的動向について説明することができる。
2.看護実践における倫理的問題についての分析と意思決定のプロセスについて説明することができる。
3.複雑化・多様化する医療現場の現象を看護倫理の視点から分析し、説明することができる。
4.臨床で経験する倫理的ジレンマに対し、倫理的調整をはかるための問題解決のプロセスと方法について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護倫理とは、看護職者の倫理要領	看護職者にとって「倫理」を学ぶ必要性について学修する	菊池
2-5	看護倫理の重要概念を理解する	自主（autonomy）・責任（Accountability/ Responsibilit）・無害（無危害non-maleficence）・善行（与益beneficence）・正義と公平（justice/equality）・忠誠と誠実（Veracity/ Fidelity）・権利（right）・アドボカシー（Advocacy）等の概念を学ぶ	菊池
6	倫理的課題の分析枠組み	倫倫理的意思決定に向けて何が課題となるのか、課題解決に向けてどのように取り組めるかを学修する	菊池
7-12	倫理と倫理学	・歴史的背景をもとに、看護倫理を考える基盤となる学問について学ぶ ・生命倫理／医療倫理／臨床倫理／看護倫理 ・正義の倫理／ケアの倫理／徳の倫理	丹木
13-18	トラウマ・インフォームドケア	・トラウマ・インフォームドケアの定義、トラウマの概念、３つのE、4つの要素、６つの原則 ・文献検討からトラウマ・インフォームドケアを考える ・トラウマ・インフォームドケアを実現するための検討①：臨床の現場で起きているTICとNON－TICを検討する ・トラウマ・インフォームドケアを実現するための検討②：病院組織をトラウマ・インフォームドケアの視点で見直す ・医療の場における看護師のジレンマとその対処について検討する	伊藤
19-21	医療現場の倫理的課題①「臓器移植」関わる倫理的課題と課題解決策	「臓器移植」をテーマに取り上げ、医療現場で遭遇する倫理的課題と課題解決策の糸口を検討する	小坂
22-24	医療現場の倫理的課題②「妊娠・出産」関わる倫理的課題と課題解決策	「妊娠・出産」を巡る課題をテーマに取り上げ、医療現場で遭遇する倫理的課題と課題解決策の糸口を検討する	富岡
25-27	看護研究に関わる倫理的課題と課題解決策	人間を対象とした看護学研究を巡る倫理的諸問題について学修するとともに、例示された研究計画について「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に照らして倫理的妥当性の判断を試みる	菊池

【６】　事前・事後学習とその時間

1.講義内容と文献や書籍を基に学修し、ゼミナール形式で議論を行う。
2.30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

学習した内容の発表など、学習者主体のゼミナール形式のため積極的な発表と議論を期待する。各講義の前には、発表準備ならびに十分な文献・資料を読み講義に臨むこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**疾病学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Medicine	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	湯浅　玲奈				
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	湯浅玲奈rnyuasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週金曜日：12:30～13:30 メールで事前に連絡をすること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、zoom

【２】　授業概要

医療、看護に従事するために必要な哲学の役割を理解し、さらに疾患の病態生理を理解するために、人体の正常構造やその機能を再認識し、臨床医学、臨床看護に役立つ知識を身につけられるようにする。また、臨床上頻繁に遭遇する糖尿病、腎疾患等の最新知識や、他の疾患と臨床症状が似ているために適切な診断と治療にすぐに結びつきづらい内分泌疾患、加齢により生じる多様な変化などを最近のトピックスなども幅広く取り入れて講義する。さらに、近年避けられない地震や天候不良などにより生じる災害と医療の関係性についても講義していく。講義内では院生のプレゼンテーションやデスカッション等も積極的に行っていく。

【３】　到達目標

疾患の病態生理を理解し、正しく説明できる。
医療現場で実際に患者を診る際に、患者の心身の状態から病態をできる限り正確に把握し、可能な限り迅速に適切な看護や治療に結び付けることができる。突然に起こる災害の際には、持っているスキルを最大限に活かして、患者の心身状態を適切に把握し看護することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	プロローグ	自分の考える看護とは	湯浅
2	医療と哲学①	その役割	湯浅
3	医療と哲学②	医療の哲学	湯浅
4	糖尿病①	糖尿病の定義・診断・治療	湯浅
5	糖尿病②	糖尿病の合併症と治療	湯浅
6	内分泌学①	下垂体	湯浅
7	内分泌学②	甲状腺	湯浅
8	内分泌学③	副腎	湯浅
9	他の疾患に間違われやすい内分泌疾患	他の疾患に間違われやすい内分泌疾患	湯浅
10	腎臓学①	腎機能と検査	湯浅
11	腎臓学②	腎疾患	湯浅
12	腎臓学③	腎代替療法：血液透析・腹膜透析	湯浅
13	腎疾患④	腎代替療法：腎移植	湯浅
14	更年期	女性	湯浅
15	更年期	男性	湯浅
16	加齢とは	その症状、年のせいだから大丈夫って本当？	湯浅
17	老年医学①	フレイル	湯浅
18	老年医学②	誤嚥性肺炎	湯浅
19	老年医学③	フレイルと理学療法	湯浅
20	緩和医療①	緩和医療とはなにか	湯浅
21	緩和医療②	広義・狭義の緩和医療	湯浅
22	緩和医療③	グリーフケア	湯浅
23	災害と医療	災害時に必要な医療	湯浅
24	災害と看護	災害時に必要な看護	湯浅
25	災害時の医療体制	透析療法を中心に	湯浅
26	災害と感染	災害時に起こりうる感染とその対策	湯浅
27	エピローグ	講義を通して感じたこと、考えたこと	湯浅

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された資料がある場合は、講義前に理解をしておく。
講義後には内容を振り返り、知識を定着させる。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

資料の配布、もしくは必要に応じ適宜参考図書等を提示する。

【10】　参考書

必要に応じ適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

基本的に対面形式にて実施するが、状況によっては対面形式と遠隔形式（zoomを用いたリアルタイム配信など）を組み合わせるハイブリッド方式にすることも対応できるようにする。

科目名(日本語)	**看護英語論文通読**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Methods of Nursing Research	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小倉　咲				
担当教員	小倉咲（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	小倉咲saki.ogura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週火曜日、13:30-13:50				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、Google Classroom、各自のPC

【２】　授業概要

・研究に必要な英語論文を読み、またその一部を書く力を養う。
・英文の内容を正確に理解し、必要な情報を得るための基本的な読解スキルを習得する。
・看護研究における英語の語彙や知識を身につける。

上記項目の実践として、各受講者が自身の専門分野の先行研究から論文を選び講読する。
選択した英語論文については、学期中に段階的に読み進め、その内容について授業内で個人発表を行う。

【３】　到達目標

1. 看護英語論文を適切に読み解き、またその一部を書くことができる。
2. 専門分野の英文をより早く正確に読むことができる。
3. 看護及び医療に関する英語の語彙や知識を自らの専門分野の論文精読に活用できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	＜遠隔＞ ガイダンス、授業の概要	小倉
2-3	英語文献講読（１）	＜遠隔＞ テキスト Unit 1	小倉
4-5	英語文献講読（2）	＜対面＞ テキスト Unit 2/3	小倉
6	英語論文リサーチ（1）	＜対面＞ 英語論文・英語文献の検索方法の解説と実践	小倉
7-8	英語文献講読（3）	＜対面＞ テキスト Unit 6	小倉
9	英語論文リサーチ（2）	＜対面＞ 課題の中間報告（各自のリサーチテーマと英語文献検索状況） Abstractの読み方	小倉
10-11	英語文献講読（4）	＜対面＞ テキスト Unit 7	小倉
12	Abstractを読む（1）	＜対面＞ 受講生が選択した英語論文のAbstractを読む（１）	小倉
13-14	英語文献講読（5）	＜対面＞ テキスト Unit 10	小倉
15	Abstractを読む（2）	＜対面＞ 受講生が選択した英語論文のAbstractを読む（2）	小倉
16-17	英語文献講読（6）	＜対面＞ テキスト Unit 11	小倉
18	Abstractを読む（3）	＜対面＞ 受講生が選択した英語論文のAbstractを読む（3） 自分の分野に合わせたAbstractの一部を書く※次週以降、随時フィードバックを行う	小倉
19-20	英語文献講読（7）	＜対面＞ テキスト Unit 17/19	小倉
21	個人発表（1）	＜対面＞ 各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	小倉
22-23	英語文献講読（8）	＜対面＞ テキスト Unit 22	小倉
24	個人発表（2）	＜対面＞ 各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	小倉
25-26	個人発表（3）	＜遠隔＞ 各受講生による自身の研究分野の英語論文についての発表と、クラスディスカッション	小倉
27	まとめ	＜遠隔＞ 講義内容のまとめを行う	小倉

【６】　事前・事後学習とその時間

講義・演習（30 時間）：30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
事前に提示された文献については、必ず予習をして参加すること。

【７】　評価方法・基準

課題点40%、平常点（授業への貢献度）10%、個人発表50%で総合的に判断する。

【８】　フィードバック方法

授業内での講評およびGoogle Classroomを併用する。

【９】　教科書

野口ジュディー、幸重美津子（2012）『医療系学生のための総合英語』三修社

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

テキストは、可能な限り授業初日までに準備すること。
授業に英和・和英辞典（電子辞書可）を持参することを推奨。
対面形式を中心に、履修者と社会状況に応じて遠隔形式（zoom）と組み合わせて実施する。
履修者の専門分野や講義の進捗状況や社会状況等によって、授業計画や方式が変更になる場合がある。

科目名(日本語)	**医療言語論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical Discourse Analysis	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	吉朝　加奈				
担当教員	吉朝加奈（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	吉朝加奈 kana.yoshiasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週月曜13:00-13:20				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

言語活動を考察するために重要なテキストを読み、その読解を中心に、言語活動の諸問題を考える。
とりわけ「病」「健康」「医療」をめぐる言語のあり方について、ポスト構造主義言語理論や、医療人類学の成果を紐解きつつ、「ことば」が「病と健康」という二項対立の構造を構築する過程について、ブックレポートを通じて検討する。一部、英語のテキストを読む場合もある。

講義、学生による発表（順番に担当）を元にゼミナール形式で議論を行う。

【３】　到達目標

医療は言語活動の場であることを理解し、言語活動を幅広く分析し、考察することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	導入　医療言語論とは	なぜ医療言語論か？－多言語社会としての医療現場	吉朝
4-6	文献検討1	波平『医療人類学入門』検討1	吉朝
7-9	文献検討2	波平『医療人類学入門』検討2	吉朝
10-12	文献検討3	波平『医療人類学入門』検討3	吉朝
13-15	文献検討4	波平『医療人類学入門』検討4	吉朝
16-18	文献検討5	波平『医療人類学入門』検討5	吉朝
19-21	文献検討6	波平『いのちの文化人類学』検討1	吉朝
22-24	文献検討7	波平『いのちの文化人類学』検討2	吉朝
25-27	文献検討　とまとめ	波平『いのちの文化人類学』検討3	吉朝

【６】　事前・事後学習とその時間

講義・演習（30 時間）：30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。

【７】　評価方法・基準
授業内での発表（レジュメ作成含む）30%、ディスカッションへの貢献20%、ブックレポート50%

【８】　フィードバック方法
口頭発表・ディスカッションについては口頭で講評する。
レポートは評価用ルーブリック上のスコアで返却する。

【９】　教科書
波平恵美子『医療人類学入門』朝日選書 、1994年
波平恵美子『いのちの文化人類学』新潮選書、1996年

【10】　参考書
参考文献表を授業時に配布する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業前に該当文献を抄読し、ディスカッションできる準備をしてから授業に参加することが求められる。
・初回は対面で行うが、2回目以降は、受講生の人数や状況によってzoom（リアルタイム）を併用する回もある。
・講義の進捗状況や社会状況等によって、授業方式や授業計画が変更になる場合がある。

科目名(日本語)	**生殖医学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Medicine	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	片桐由起子（大森病院・教授）　小宮山慎一（大森病院・准教授）　麻生敬子（大森病院・講師）　斎藤芙美（大森病院・講師）　長島克（大森病院・助教）　玉置優子（大森病院・助教）　伊藤歩（大森病院・助教） 李　巍（薬学部・教授）　安宅大輝（大森病院・不妊症看護認定看護師）　永野妙子（大森病院・不妊症看護認定看護師） 富岡由美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美 yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	片桐由起子　授業終了後に質問を受け付ける。 小宮山慎一　授業終了後に質問を受け付ける。 麻生敬子　授業終了後に質問を受け付ける。 齊藤芙美　授業終了後に質問を受け付ける。 長島克　授業終了後に質問を受け付ける。 玉置優子　授業終了後に質問を受け付ける。 伊藤歩　授業終了後に質問を受け付ける。 李巍　授業終了後に質問を受け付ける。 安宅大輝　授業終了後に質問を受け付ける。 富岡由美　毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

GoogleClassroom　Zoom　PC

【２】　授業概要

助産師国家試験受験資格を得るための必須科目である。
性と生殖に関する知識を医学的観点から教授する。生殖器の機能、生殖補助医療、性感染症、不妊症などを中心テーマとする。
男女の生殖器系の健康状態を査定し診断するために必要な性と生殖の基礎的な知識を学ぶ。また、ライフサイクル各期の起こる主な疾患や生殖や妊孕性に関連する諸問題、生殖医療、性感染症について理解し、健康状態のアセスメントができる能力を身につける。

【３】　到達目標

1.男女の生殖器系の解剖を図示し、男女の生殖器系の生理を説明できる。
2.女性の悪性腫瘍の診断方法、治療方法を説明できる。
3.生殖や妊孕性に関連する倫理を含む諸問題を理解し、女性の妊孕性に影響する要因を述べることができる。
４．女性の一生の中で特にホルモンの影響を受ける時期に特有な疾患に対する治療について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	男女の生殖器系①	男性の生殖器系の解剖	富岡
2	男女の生殖器系②	女性の生殖器系の解剖	富岡
3	生殖期を中心とした乳腺疾患と検査①	生殖期を中心とした乳腺疾患	齊藤
4	生殖期を中心とした乳腺疾患と検査②	生殖期を中心とした乳腺疾患における検査	齊藤
5	生殖器系の検査①	内分泌検査法・内視鏡検査法・画像検査法	伊藤
6	生殖器系の検査②	検査の実際の見学	伊藤
7	生殖器系の治療①	ホルモン療法・腹腔鏡手術	伊藤
8	生殖器系の治療②	手術の見学	伊藤
9	思春期に起こりやすい疾患①	病態	麻生
10	思春期に起こりやすい疾患②	治療	麻生
11	女性の性周期と不妊	女性の性周期の調整機序と不妊症	片桐
12	生殖補助医療	生殖補助医療	片桐
13	がん生殖	がん生殖	片桐
14	性感染症①	性感染症の検査	長島
15	性感染症②	性感染症の治療	長島
16	生殖補助医療における支援①	生殖補助医療を受ける夫婦への支援①	安宅
17	生殖補助医療における支援②	生殖補助医療を受ける夫婦への支援②	安宅
18	更年期障害	女性の疾患に利用される漢方薬（薬学部で行います。）	李
19	更年期障害	桂枝茯苓丸の調剤　（薬学部で行います。）	李
20	出生前診断①	出生前診断の方法	玉置
21	遺伝①	遺伝性疾患の診断	玉置
22	遺伝②	遺伝性疾患の治療	玉置
23	出生前診断②	出生前診断を受ける女性への支援	永野
24	女性の悪性腫瘍の診断①	女性の悪性腫瘍の診断①	小宮山
25	女性の悪性腫瘍の診断②	女性の悪性腫瘍の診断②	小宮山
26	女性の悪性腫瘍の治療①	女性の悪性腫瘍の治療①	小宮山
27	女性の悪性腫瘍の治療②	女性の悪性腫瘍の治療②	小宮山

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
なお、講義は原則として対面形式にて実施し、提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。
新型コロナウイルス感染症の感染状況によりオンラインでの講義となることがある。

【7】　評価方法・基準

講義中の発言・課題の取り組み（80%）、出席（20%）から総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

試験については結果を提示し、設問について解説する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

1）武谷雄二他「プリンシプル産科婦人科学１」メヂィカルビュー社・2014年(第3版)

【11】　備考(関連科目等)

授業では、積極的に発言し参加すること。必ず復習をして見学等に臨むこと。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用い、事前に動画視聴を前提とした講義およびグループワークをリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**性科学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Sexology	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡由美（看護学研究科・教授）　永尾光一（大森病院・教授） 渡邉幸恵（看護学研究科・講師）　加藤知子（看護学研究科・講師） 安宅大輝（大森病院・不妊症看護認定看護師） 主原翠　（大森病院・遺伝カウンセラー）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡由美　毎週月曜日 10:00～11:00 渡邉幸恵　毎週月曜日 12:00～13:00 加藤知子　毎週月曜日 12:00～13:00 永尾光一　授業終了後に質問を受け付ける。 安宅大輝　授業終了後に質問を受け付ける。 主原翠　授業終了後に質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、Zoom

【２】　授業概要

助産師国家試験受験資格を得るための必須科目である。講義とゼミ・演習形式で展開する。助産の対象となる妊産婦とそのパートナーをそれぞれの性をもち生きる人間として幅広く捉える基盤を養う。また、性に対する健康教育を実践することで、学部で学んだ性科学概論を基に、様々な性を生きる人間のあり様を探求する。

【３】　到達目標

1. 人間の性（humansexuality）を、生殖という身体的・生理学的側面から説明できる。
2. 人間の性（humansexuality）を、心理社会的側面から学際的にとらえて説明できる。
3. 人間の性愛や医療を大脳生理学・神経生理学の領域からもとらえて男女の性差による違いを説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス	性の捉え方についての意見交換	富岡
2	科学的にみた性	性を科学的にみる、セクシュアリティにおける性差	富岡
3	女性のライフサイクルと性	思春期から更年期までの性意識	富岡
4	男性のライフサイクルと性①	思春期から更年期までの男性の性①	永尾
5	男性のライフサイクルと性②	思春期から更年期までの男性の性②	永尾
6	男性の性①	男性の性反応①	永尾
7	男性の性②	男性の性反応②	永尾
8	男性の性③	男性不妊の病態ED治療の臨床①	永尾
9	男性の性④	男性不妊の病態ED治療の臨床②	永尾
10	女性の性の諸問題①	人工妊娠中絶①	加藤
11	女性の性の諸問題②	人工妊娠中絶②	加藤
12	女性の性の諸問題③	DV、虐待①	加藤
13	女性の性の諸問題④	DV、虐待②	加藤
14	性の多様化①	マイノリティの性①	富岡
15	性の多様化②	マイノリティの性②	富岡
16	性の多様化③	マイノリティの性③	渡邉
17	性の多様化④	マイノリティの性④	渡邉
18	遺伝カウンセリング①	遺伝カウンセリングの実際①	主原
19	遺伝カウンセリング②	遺伝カウンセリングの実際②	主原
20	遺伝カウンセリング③	遺伝カウンセリングの実際③	主原
21	男性特有の疾患への支援①	男性特有の疾患における不妊への支援①	安宅
22	男性特有の疾患への支援②	男性特有の疾患における不妊への支援②	安宅
23	性科学と研究①	プレコンセプションについて①	富岡
24	性科学と研究②	プレコンセプションについて②	富岡
25	性科学と研究③	プレコンセプションについて③	渡邉
26	性科学と研究④	プレコンセプションについて④	渡邉
27	まとめ	講義内容のまとめを行う	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
講義に加えて、一部グループワークを行う。
対面形式にて実施する。

【7】　評価方法・基準

授業およびディスカッションへの取り組み（20%）、各自の分担課題についてのプレゼンテーション（80%）で総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

グループワークやプレゼンテーションに対してフィードバックを行う。

【9】　教科書

1）我部山キヨ子，武谷雄二編「助産学講座２　母子の基礎科学」医学書院・2021年（第6版）

【10】　参考書

適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。原則、対面形式にて実施する。遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと本授業計画に沿ってZoomを用いリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**看護コンサルテーション論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Consultation	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）佐藤由紀子（看護学研究科・講師） 梅澤志乃（大森病院・精神看護専門看護師） 富田学（大森病院・感染症看護専門看護師） 黒澤亮子（大森病院・がん看護専門看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子　akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	荒木　毎週木曜日12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関する概念・技術を教授する。コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析する能力を養う。専門領域におけるコンサルテーションを実施する際の課題について検討し、事例を批判的に吟味しながら実践活動に応用できる能力を習得する。

【３】　到達目標

1.コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人もしくは組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについて説明することができる。
2.コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析し説明することができる。
3.学習した概念を用いて実際の現象を分析することを通して、専門看護師としてコンサルテーション機能を実践する際の自己の課題を明確にし、課題解決のための基礎的能力について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護コンサルテーションの概要	看護コンサルテーションについて	村上
2-8	看護コンサルテーションの概要	専門看護師の役割と機能（①コンサルタントの役割、②コンサルテーションのタイプと実践モデル、③内部コンサルテーションと外部コンサルテーション、④専門看護師としてどのようにコンサルテーションを実施するか①から③の概念を用いて検討する）	村上
9-15	看護コンサルテーションのプロセス	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	村上
16-19	臨床の場における看護コンサルテーションの実際（感染看護領域）	組織内における職種横断的感染対策における事例を用いながら、コンサルテーションのあり方を検討する。さらに、隔離を要する状態にある患者、HIV陽性患者などの倫理的配慮に関するコンサルテーションの実際を検討する	富田
20-23	臨床の場における看護コンサルテーションの実際（がん看護領域）	複雑な事例に対するがん看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、看護管理者と専門看護師との連携の実際と課題を検討する	黒澤
24-26	臨床の場における看護コンサルテーションの実際（リエゾン精神看護領域）	複雑な事例に対する精神看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、コンサルティ中心のコンサルテーション活動の実際と課題を検討する	梅澤
27	まとめ	講義のまとめを行う	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**看護政策特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing policy	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸恵美子				
担当教員	岸　恵美子（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	岸　恵美子　毎週木曜日　13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

保健医療福祉政策が大きく転換する中で、看護の立場から政策に提言することは住民の生活の質を保障するという観点から非常に重要である。看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を明らかにし、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言を探究する。
院生が関心を持っている看護政策課題について、文献研究およびフィールド研究によって看護政策の現状・課題を明らかにし、新たな政策案をプレゼンテーションし、討論する。院生の主体的発表・討論を重視する。

【３】　到達目標

1.保健医療福祉政策が大きく転換する中で、住民の生活の質を保障するという観点で看護の立場から政策に提言するために必要なプロセスを述べることができる。　2.
看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を述べることができる。
3.上記を踏まえ、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言書を作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	看護政策①	わが国の看護政策の変遷	岸
3	看護政策②	わ医療政策と看護政策	岸
4	看護政策③	看護政策 変遷と現状・課題①人材育成 資格制度	岸
5	看護政策④	看護政策 変遷と現状・課題②看護教育 看護職員需給計画	岸
6	看護政策⑤	看護政策 変遷と現状・課題③看護職員確保対策	岸
7	看護政策の展開過程①	保健師助産師看護師法を例に成立過程、その後の法律や看護諸政策・施策の改正等について	岸
8	看護政策の展開過程②	保健師助産師看護師法を例に成立過程、その後の法律や看護諸政策・施策の改正等について	岸
9	看護政策の展開過程③	看護政策の問題分析・評価　―看護制度を例に―	岸
10	保健医療福祉制度①	保健医療福祉制度の動向及び諸問題	岸
11	保健医療福祉制度②	高齢者保健福祉政策と制度	岸
12	保健医療福祉制度③	成人保健福祉政策と制度	岸
13	社会保障制度①	社会保障制度の動向および諸問題	岸
14	社会保障制度②	社会福祉・公的扶助の制度と概要	岸
15	社会保障制度③	介護保険制度の概要と地域包括ケアシステム	岸
16	文献研究・フィールドワーク①	文献研究・フィールド研究等を実施：2～12で学んだ看護政策について、各自の取り組みたい分野（成人保健福祉・高齢者保健福祉・母子（親子）保健福祉・精神保健福祉など）を設定し、その分野について文献研究およびフィールドワークを行う。フィールドワークでは、看護の実践現場に出向き、実践現場の見学や職員との意見交換により体験的に学ぶ。各自の取り組む分野についての看護の政策的働きかけを提言するために、法律・制度・組織を活用する方法、情報収集と分析、課題の明確化と立案をまでの政策形成のプロセスを習得する。	岸
17	文献研究・フィールドワーク②	文献研究・フィールド研究等を実施	岸
18	文献研究・フィールドワーク③	文献研究・フィールド研究等を実施	岸
19	文献研究・フィールドワーク④	文献研究・フィールド研究等を実施	岸
20	文献研究・フィールドワーク⑤	文献研究・フィールド研究等を実施	岸
21	看護政策提言書の作成①	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題への看護政策提言書の作成：文献研究・フィールドワークでの政策形成のプロセスをふまえ、政策提言を体験的に習得するために、最新の保健医療福祉制度の動向および諸問題に対する看護政策提言書を作成する。	岸
22	看護政策提言書の作成②	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題への看護政策提言書の作成	岸
23	看護政策提言書の発表①	院生による発表と討論①：作成した看護政策提言書を発表し、ディスカッションする。看護政策提言書が情報収集と分析、課題の明確化から提言されているかについてディスカッションし、看護の政策的働きかけについて探求する。	岸
24	看護政策提言書の発表②	院生による発表と討論②	岸
25	看護政策提言書の発表③	院生による発表と討論③	岸
26	看護政策提言書の発表④	院生による発表と討論④	岸
27	まとめ	・講義内容のまとめを行う。 ・看護政策に対する自分の考え方が、履修後にどのように変化し、今後どのように活用していきたいのかディスカッションする	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーショ（20%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【８】　フィードバック方法

プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【９】　教科書

課題にそって授業開始時に提示する。

【10】　参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。学生が主体的に学習する。院生各自の課題を元にグループ討議を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**看護フィジカルアセスメント論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Physical Assessment	選択	演習	1年次･秋	2単位 45時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）、竹田佳子（大森病院・看護部）、 橋本裕（看護学研究科・講師）、渕本雅昭（大森病院・看護部）、 山田亨（大森病院・看護部）、 福田友秀（武蔵野大学・講師／急性・重症患者看護専門看護師）、 小坂志保(看護学研究科・准教授)				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	荒木　毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

複雑な健康問題をもった対象の身体状況の査定と臨床判断に必要な基礎的な知識・技術を教授する。また、現在臨床実践を行っている各分野のエキスパートの指導を受けて、系統的・統合的なフィジカルアセスメントを実践する能力を習得する。

【３】　到達目標

1.臨床病態生理学特論・臨床薬理学特論で得た知識を活用し学内演習でそれぞれの専門分野の看護実践へとつながる基礎的なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得し、説明することができる。
2.専門看護師として必要な高度なフィジカルアセスメント能力について説明することができる。
3.複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について理解し、シミュレーション教育を通して習得することが出来る。
4.臨床を想定した複雑な事例に対してフィジカルアセスメントを実施し、高度看護実践の方針を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護におけるフィジカルアセスメントの必要性	看護におけるフィジカルアセスメントの必要性 本科目の進め方・オリエンテーション	渕本
2-3	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント総論	系統的全身診査とは、フィジカルアセスメントの基本的事項、現病歴の聴取(history taking),SOAPの記載方法	渕本
4-7	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 呼吸器	呼吸のアセスメント,呼吸器系の診察法、呼吸器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	荒木・小坂
8-11	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論　循環器	循環器のアセスメント,循環器系の診察法、循環器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	荒木・小坂
12-15	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論　消化器	消化器のアセスメント,消化器系の診察法、消化器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	福田
16-19	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論　脳神経	脳神経系のアセスメント,脳神経系の診察法、脳神経系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	渕本
20-22	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論　筋骨格	外皮・感覚器系のアセスメント,外皮・感覚器系の診察法、外皮・感覚器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	山田
23-25	高度実践看護師に求められるフィジカルアセスメント各論 腎・泌尿器・内分泌代謝系	腎・泌尿器・内分泌代謝系のアセスメント,腎・泌尿器・内分泌代謝系の診察法、腎・泌尿器・内分泌代謝系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	小坂
26-27	多様な発達段階に対するフィジカルアセスメント 小児のフィジカルアセスメント	生理的変化をふまえた身体機能の評価、知能・認知や生活機能の評価、筋・骨格系のアセスメントを基にした小児から高齢者への人間の加齢変化の視点	竹田
28-29	多様な発達段階に対するフィジカルアセスメント 高齢者のフィジカルアセスメント	生理的変化をふまえた身体機能の評価、知能・認知や生活機能の評価、筋・骨格系のアセスメントを基にした小児から高齢者への人間の加齢変化の視点	橋本
30-31	症状論1	呼吸困難の症状および兆候からのアセスメント	荒木・小坂
32-33	症状論2	胸痛の症状および兆候からのアセスメント	荒木・小坂
34-35	症状論3	腹痛の症状および兆候からのアセスメント	福田
36-37	症状論4	頭痛の症状および兆候からのアセスメント	渕本
38-43	統合演習	学内シミュレーション	荒木・小坂・渕本
44-45	総合演習まとめ	総合演習まとめ・プレゼンテーション、臨床実習計画立案	荒木・小坂
46-52	総合演習　病院	東邦大学医療センター大森病院（ICU、病棟等）	渕本・荒木・小坂
53-54	看護フィジカルアセスメント論まとめ	科目まとめ	荒木・小坂

【6】　事前・事後学習とその時間

1．講義および実習室・シミュレーションラボ・救命救急センター等での演習を行う。
2．45 時間の演習に対して、45時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み20%、演習への取り組み20%、プレゼンテーション40%、OSCE20%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

講義・演習の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義・演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

1．基本的なフィジカルアセスメントを復習した上で参加すること。
2．演習に関する留意事項は別途提示する。
3．遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床病態生理学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Pathophysiology	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	湯浅　玲奈				
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）、瓜田純久（大森病院・教授） 舘田一博（医学研究科・教授）、本多満（大森病院・教授）、中島耕一（大森病院・教授） 南木敏宏（大森病院・教授）、片桐由起子（大森病院・教授）、根本隆洋（大森病院・教授） 周郷延雄（大森病院・教授）、濱崎祐子（大森病院・准教授）、関谷秀樹（大森病院・准教授） 小原明（東京工科大学・特任教授）、荒木暁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	湯浅玲奈rnyuasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週金曜日13:00ー13:30				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

臨床症状が生じる原因・病態生理を学ぶことは、看護のアセスメントの根拠となり得る。
患者の症状からそのメカニズムを理解することは疾患の原因の推測につながり、異常の早期発見のための観察を可能にし、看護師として重要な役割となる。さまざまな疾病の病態生理を解説し、根拠に基づく検査の進め方、身体所見、検査所見などを統合し、どのように鑑別診断を行っているか、科学的な根拠・思考に基づく診断過程について解説する。さらに、症例に対する問診、身体所見等、検査結果、診断過程について解説し、ケアとキュアを統合するにあたり、どのような臨床看護判断が必要になるのか検討する。

【３】　到達目標

1. 対象の病態生理学的変化を根拠にもとづいて解釈し、看護診断の基盤となる知識を述べることができる。
2. 発現している身体症状の原因となる病態生理を説明できる。
3. 病状に対する診断法および治療法の知識を深め、根拠に基づいた看護実践を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染症	・免疫機構 ・細菌・ウイルス・真菌が原因の疾病の病態、診断・治療 ・発熱と感染症との関連 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	舘田、荒木
2-3	呼吸器および循環器疾患①	・呼吸の異常の病態生理 ・呼吸困難、咳嗽、喀痰、喀血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全（ショック）、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	本多、荒木
4-5	呼吸器および循環器疾患②	・呼吸の異常の病態生理 ・呼吸困難、咳嗽、喀痰、喀血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全（ショック）、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	本多、荒木
6-7	血液疾患	・血液疾患および播種性血管内凝固に関する病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	小原、荒木
8-9	内分泌疾患	・臨床上よく見かける内分泌疾患 －下垂体・甲状腺疾患・副腎疾患など－ ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	湯浅、荒木
10-11	臓器移植	（特別講師として、相川厚名誉教授） ・臓器移植 －腎不全の場合の腎移植など－ ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	相川、荒木
12-13	小児救急疾患	・症状からみた小児移植の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	濱崎、荒木
14-15	消化器疾患	・食欲不振、腹痛、便秘、下痢の症状から消化器疾患の病態生理の関連 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	瓜田、荒木
16-17	婦人科疾患	・婦人科疾患の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	片桐、荒木
18-19	泌尿器疾患	・泌尿器系疾患の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	中島、荒木
20-21	膠原病	・膠原病の原因、病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	南木、荒木
22-23	精神疾患	・精神疾患の診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	根本、荒木
24-25	口腔内疾患	・口腔内疾患の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	関谷、荒木
26-27	脳神経外科	・脳神経外科疾患の病態生理、診断・治療 ・症例を用いてディスカッションし、ケアとキュアの統合を検討する	周郷、荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

各専門領域の医師による講義。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

今まで体験してきた臨床所見と結びつけ、探求心を持ち学習に臨むこと。履修についての問い合わせは荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jpまで(※■を@に置き換える。)
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床薬理学特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Pharmacology	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	杉山 篤				
担当教員	杉山篤（医学部・教授）田中耕一郎（大森病院・准教授）武井義則（医学部・准教授） 中瀬古寛子（医学部・准教授）越川一誠（大森病院・薬剤部） 木村伊都紀（大森病院・薬剤部）大橋隼人（大森病院・薬剤部）伊藤優紀（大森病院・薬剤部） 今川未紀（大森病院・薬剤部）青山剛一（大森病院・薬剤部）川上達也（大森病院・薬剤部） 平山忍（大森病院・薬剤部）小川隆之（大森病院・薬剤部） 荒木暁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	杉山篤atsushi.sugiyama■med.toho-u.ac.jp 村上好恵ymuraka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	荒木暁子　毎週木曜日12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

薬物は『両刃の剣』と呼ばれるように、治療や診断に極めて有用である反面、副作用や中毒の危険性も有する。臨床看護活動において薬物治療に対する理解は極めて重要である。薬物と人体の相互作用およびそれらの臨床応用について学ぶ。また、臨床現場で活動している臨床薬剤師の講義から実践的に学び、薬剤投与に関する判断、投与後の患者の観察、投薬を余儀なくされた患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理に関する看護を考える。

【３】　到達目標

1.人体に対する薬物の作用、作用点、作用機序の概念を説明できる。
2.薬物の吸収・分布・代謝・排泄および薬効に影響する因子について説明できる。
3.生体内活性物質の生理作用と病態との連関を薬物治療の観点から説明できる。
4.基本的な疾患・病態における薬物治療の根拠を説明できる。
5.代表的な薬物の作用、作用機序、副作用を列挙し、説明できる。
6.病態との関連を考慮し、薬剤投与を受ける患者の看護計画立案ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	薬物、薬理学、薬力学	・薬物とは何か ・薬理学のなりたちと様々な分野とのかかわり ・薬が作用するしくみ（薬物受容体、受容体と薬物の相互作用、イオンチャネル）	杉山
3-4	薬物動態学	・薬物の投与経路と投与された薬物の体内での吸収、分布、代謝、排泄のしくみ ・薬物動態の指標 ・薬物相互作用（薬物動態的相互作用、薬力学的相互作用）	中瀬古
5-6	薬効の個人差	・薬効の個人差に影響する因子（年齢、性別、妊娠、遺伝子 ・薬物使用の有益性と危険性 ・薬と法律	武井
7-8	抗感染症薬	抗菌薬の適正使用について薬剤選択、体内動態、薬効、毒性などについて学ぶ。	平山
9-10	抗癌薬	がん化学療法について副作用の症状・管理について学ぶ	越川
11-12	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬・抗炎症薬の体内動態・薬効・副作用について学ぶ。	小川
13-14	呼吸器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物のメカニズムについて学ぶ。	今川
15-16	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系の構造・機能について学ぶ。また代表的な麻酔薬・催眠薬・頭痛薬の作用について学ぶ。	木村
17-18	心臓・血管系に作用する薬物	循環器系に作用する薬物のメカニズムについて学び、代表的な心不全治療薬・抗高血圧症薬・抗狭心症薬および抗不整脈薬の作用について学ぶ。	大橋
19-20	消化器・生殖器系に作用する薬物	代表的な消化性潰瘍治療薬および制吐薬の作用について学ぶ。また、女性の性と生殖における薬物について学ぶ。	川上
21-22	物質代謝に作用する薬物	特に脂質代謝および脂質異常症の作用メカニズムについて学ぶ。	伊藤
23-24	救急の際に使用される薬物	救急時使用薬の作用について学ぶ。	青山
25-26	漢方薬	漢方薬の作用機序・特徴を知る。	田中
27	薬理学の基本的知識をもとに対象者へのアプローチを検討	・各自の臨床事例について、その薬剤に対する作用と副作用、薬物動態の知識をもとに起きている現象や必要な看護を検討する ・各自の臨床事例をもとに、薬物投与後の患者モニタリングや生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るため看護技術について検討する	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

1.講義・宿題発表
2.30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

講義への取り組み40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

1)系統看護学講座薬理学大鹿英世他医学書院
2)病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDSi

【10】　参考書

1)系統看護学講座薬理学大鹿英世他医学書院
2)病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDSi

【11】　備考(関連科目等)

本科目を受講するにあたり、生理学と薬理学について、充分な基礎知識を習得しておくことが前提となる。テキストを事前に読んでおくこと。履修についての問い合わせは村上まで。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**看護管理**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Administration	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）熊谷雅美（非常勤講師）藤野泰平（非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子 akiko.araki■med.toho-u.ac.jp（■を@に置き換える）				
オフィスアワー	荒木：毎週木曜日12：30～13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

マクロな視点での医療制度・政策、ミクロな視点での病院組織（チーム組織）の理解、人的資源管理について講義・学生のプレゼンを中心に討議を行う。

【３】　到達目標

1.高度実践看護師として必要な看護管理の基礎知識（日本におけるヘルスケアシステム・看護制度・政策・看護管理、看護職の社会的な立場や環境、組織と組織で働く人間を理解するための理論）を学ぶことで、看護管理の知識について説明できる。
2.1.の知識をもとに、自らが置かれている組織（働く場）や看護チーム・個々人について分析しプレゼンテーションできる。
3.1.と2.を活用し、組織の中で協働する力やマネジメント能力をどのように活用するかを述べることができる。
4.看護職における人材育成の課題や将来展望を見いだすためにキャリア開発・人的資源管理の諸理論を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護管理概論	ガイダンス／看護管理者・高度実践看護師として学ぶ看護管理とは	荒木
2	医療の動向と看護管理①	ヘルスケアシステム論	荒木
3	医療の動向と看護管理②	医療政策と診療報酬	荒木
4	医療の動向と看護管理③	介護報酬、障害福祉サービス、	荒木
5	組織管理①	組織論、組織行動論	荒木
6	組織管理②	組織論、組織行動論	荒木
7	組織管理③	組織論、組織行動論	荒木
8	組織管理④	組織論、組織行動論	荒木
9	看護サービスの質管理①	医療におけるクオリティ・マネジメント	荒木
10	看護サービスの質管理②	医療におけるクオリティ・マネジメント	荒木
11	看護サービスの質管理③	看護サービスの質保証・向上	荒木
12	看護サービスの質管理④	看護サービスの質保証・向上	荒木
13	組織管理⑤	リーダーシップ論とチームマネジメント	荒木
14	組織管理⑥	リーダーシップ論と課題解決	荒木
15	人的資源管理①	キャリア開発・人材育成	荒木
16	人的資源管理②	キャリア開発・人材育成	荒木
17	人的資源管理③	人材ポートフォリオ・高度実践看護師の活用	荒木
18	労務管理①	労働法令、賃金体系、医療安全	熊谷
19	労務管理②	労働法令、賃金体系、医療安全	熊谷
20	労務管理③	労働法令、賃金体系、医療安全	熊谷
21	地域における看護管理①	地域包括ケアにおける看護管理	荒木
22	地域における看護管理②	地域包括ケアにおける看護管理	藤野
23	地域における看護管理③	地域における起業家としての看護管理	藤野
24	地域における看護管理④	地域における起業家としての看護管理	藤野
25	地域における看護管理⑤	地域ケアシステムからみた自組織の位置づけと将来像	荒木
26	まとめのプレゼンテーション	課題に関するプレゼンテーション	荒木
27	まとめのプレゼンテーション	課題に関するプレゼンテーション	荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

授業テーマについての学生のプレゼンテーションをもとに討議を行い、学修を深める。
授業の実施形式は、履修者と相談の上決定する。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

討議への参加状況（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

適宜授業内で必読文献を紹介する予定。

【10】　参考書

・井部俊子ほか監修.『看護管理学習テキスト第3版第１~5巻』日本看護協会出版会、2022
・スティーブン P.ロビンス，マネジメント入門，ダイヤモンド社，2014
・佐藤美香子.看護管理実践計画書　標準テキスト.日総研.2016

【11】　備考(関連科目等)

最初の授業時に、各プレゼンテーションの担当を決定する。各回の授業テーマに関する参考文献をあらかじめ読み授業に臨むこと。それを元に、テーマについてのグループワークやディスカッションを通して学びを深めていく。テーマによっては、その分野におけるエキスパートを招いて見識を広めていく。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	**看護医療経済学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health Economics	選択	講義	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	松本　邦愛				
担当教員	松本邦愛				
科目責任者 連絡先(教室)	東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分野（2415）				
オフィスアワー	講義前後				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

本科目は、医療経済学の基礎学習を行う。近年のわが国の医療費の増加は経済成長率を凌駕しており、医療の世界でも資源の効率的な配分が重要となってきている。こうした中で、医療経済学が重要であるとの認識は高まっているが、実際に医療経済学がどのようなものであるか初学者に解説したものは少ない。本講義は、このような中で医療経済学の基本的な分析道具を説明しながら、その分析道具で実際の日本の状況を観察することで、医療経済学とはどういうものか、その基本的な概念はどのようなものか理解することを目標とする。本科目を履修することで、より進んだ応用にまで興味を持つことができるよう指導する。
日本における少子高齢化社会の進行から医療費の適正化をはじめとする医療資源の効率的活用を考え、医療・看護にかかわる諸問題について、医療経済学の視点からその解決方法や評価方法を見出す力を養う。

【３】　到達目標

１　医療経済学について、その基本的な概念が理解できる。
２　医療経済学の視点で日本の状況について観察することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	科目の概要と進め方について説明する。	松本邦愛
2	医療に関する経済的問題	現在の医療が直面する経済問題を解説する。	松本邦愛
3	費用と現在価値	機会費用と現在割引価値を紹介する。	松本邦愛
4	限界	「限界」概念から消費者行動を分析する。	松本邦愛
5	需要曲線	消費者行動分析から需要曲線を導出する。	松本邦愛
6	生産と費用	一般の財・サービスの生産分析を解説する。	松本邦愛
7	供給曲線	生産者行動分析から供給曲線を導出する。	松本邦愛
8	市場の均衡	完全競争市場と効率性について説明する。	松本邦愛
9	市場の失敗	市場原理に任せられないケースを説明する。	松本邦愛
10	医療経済学はなぜ必要か	医療サービスの特殊性を解説する。	松本邦愛
11	費用と結果	医療の費用と帰結の分析方法を解説する。	松本邦愛
12	効用の測定	効用の測定方法について説明する。	松本邦愛
13	Evidence Based Medicine	EBMの実践について解説する。	松本邦愛
14	医学判断学	判断樹の作り方を解説する。	松本邦愛
15	医学判断学の実例	実例を取り上げ、実際に判断樹をつくる。	松本邦愛
16	国民所得計算と国民医療費	GDPと国民医療費の現状を説明する。	松本邦愛
17	Cost of illness	疾病の費用の測定法を解説する。	松本邦愛
18	医療保険の経済学	医療保険がどうして必要か解説する。	松本邦愛
19	日本の医療保険制度	日本の医療保険制度について解説する。	松本邦愛
20	海外の医療保険制度	海外の医療保険制度について解説する。	松本邦愛
21	診療報酬制度	医療施設の収入について解説する。	松本邦愛
22	介護保険制度	介護保険制度の概要について説明する。	松本邦愛
23	医療制度改革	近年の医療制度改革について解説する。	松本邦愛
24	医師の需給	医師需給の現状について解説する。	松本邦愛
25	看護師の需給	看護師の需給について歴史的に解説する。	松本邦愛
26	出生率を上げるためには	出生率上昇の方策を経済学的に考察する。	松本邦愛
27	COVID-19対策の評価	COVID-19の医療経済的影響を考察する。	松本邦愛

【6】　事前・事後学習とその時間

できるだけ平易に説明するつもりなので、特に前提知識は必要としないが、授業の内容をより深く理解するためには、以下に挙げるテキスト及び参考図書の該当箇所を読んでおくことが望ましい。また、授業で扱った事項に関しては通常の復習に加えて、新聞・専門雑誌・インターネット上の関連ページなどのメディアで報道される関連事項にも目を通して興味を持つように努めること。

講義（30 時間）：30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

レポート（60%）、授業中のレスポンスシート（40%）から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

各回授業の最後に提出を求める『レスポンスシート』について、次回授業の冒頭で解説、講評する。レポートは10段階で評価して返却する。

【9】　教科書

長谷川敏彦、松本邦愛（編）『医療を経済する―質・効率・お金の最適バランスをめぐって』医学書院・2006

【10】　参考書

長谷川友紀・長谷川敏彦・松本邦愛（編）『医療職のための公衆衛生・社会医学』第９版、エムスリーエデュケーション・2024

【11】　備考(関連科目等)

特になし。

科目名(日本語)	**保健統計特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Statistics for Health Professionals	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	坂本　なほ子				
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC

【２】　授業概要

本講義では、統計学についての基礎的な知識を学び、健康・医療の情報について、「統計学」の考え方に基づく理解力を高めます。

【３】　到達目標

・統計学の基礎的な事項を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	科目の概要と進め方	坂本
2	記述統計①	記述統計	坂本
3	記述統計②	記述統計	坂本
4	推測統計①	確率的な考え方	坂本
5	推測統計②	二項分布・ポアソン分布	坂本
6	推測統計③	正規分布	坂本
7	推測統計④	推測統計の基礎	坂本
8	推測統計⑤	様々な確率分布	坂本
9	推測統計⑥	推定	坂本
10	推測統計⑦	仮説検定	坂本
11	推測統計⑧	検定方法の選択・t検定	坂本
12	推測統計⑨	F検定・分割表の検定	坂本
13	推測統計⑩	対応おある検定・一元配置分散分析	坂本
14	推測統計⑪	無相関検定	坂本
15	統計ソフトの利用①	表計算ソフトでの集計	坂本
16	統計ソフトの利用①	統計ソフトを利用したデータ解析	坂本
17	統計ソフトの利用②	統計ソフトを利用したデータ解析	坂本
18	統計ソフトの利用③	統計ソフトを利用したデータ解析	坂本
19	統計ソフトの利用④	統計ソフトを利用したデータ解析	坂本
20	政府統計①	人口静態統計、人口動態統計	坂本
21	政府統計②	国民生活基本統計、患者統計、医療施設統計	坂本
22	政府統計③	学校保健統計、社会生活基本統計	坂本
23	政府統計④	感染症発生動向調、・国民健康・栄養調査	坂本
24	人口統計①	日本の人口、人口ピラミッド、死亡率、年齢調整死亡率	坂本
25	人口統計②	出生率、主な健康指標	坂本
26	人口統計③	生命表、平均寿命	坂本
27	総括	全体の総括	坂本

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。60時間の時間外学習を行うこと。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(26%)、試験(74%)からに評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で解説を行う。

【9】　教科書

坂本なほ子.『はじめての保健統計学』サイオ出版. 2023年

【10】　参考書

適宜、紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

科目名(日本語)	**看護学特別研究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Research on Nursing Sciences and Arts	必修	実験・実習	2～3年次・通年	8単位 240時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）　岸恵美子（看護学研究科・教授）　横井郁子（看護学研究科・教授） 小林寅喆（看護学研究科・教授）　伊藤桂子（看護学研究科・教授）　菊池麻由美（看護学研究科・教授） 原三紀子（看護学研究科・教授）　夏原和美（看護学研究科・教授）　湯浅玲奈（看護学研究科・教授） 坂本なほ子（看護学研究科・教授）富岡由美（看護学研究科・教授） 藤野秀美（看護学研究科・准教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授） 成澤明　（看護学研究科・准教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）原沢のぞみ（看護学研究科・准教授） 吉朝加奈（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	各指導教員に確認すること。				
オフィスアワー	各指導教員に確認すること。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【2】　授業概要

看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、博士論文を作成する。

【3】　到達目標

1．フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる。
2．自らの研究の学術的意義，新規性，独創性及び応用的価値について説明できる。
3．研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
4．課題の研究的探索に有効な研究計画を立案できる。
5．収集したデータを分析し、得られた知見を論文として表現できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	各指導教員・副指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、博士論文の作成まで、自主的に研究の過程を展開します。	各担当教員
2	指導体制	指導教員・副指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

【6】　事前・事後学習とその時間

各指導教員が適切な方法により実施する。

【7】　評価方法・基準

研究計画書の立案から、博士論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【９】　教科書
各指導教員が適宜、必要な文献等について指示する。

【10】　参考書
各指導教員が適宜、必要な文献等について指示する。

【11】　備考(関連科目等)
各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

科目名(日本語)	**高齢者看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Gerontological Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

関心分野の文献検討を行い問いを立てる作業を行う。問いをさらに具体的に、かつ、仮説を導くためにフィールドワークを行う。

【３】　到達目標

1. 問いを立てながら自身の研究課題を明確にするためのフィールドワークを計画することができる。
2. フィールドワークの成果をもとに自身の研究課題とともに課題解決のための研究方法について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者看護学分野における研究の動向	研究課題と社会背景	横井・藤野
2	研究課題の背景1	文献レビュー	横井・藤野
3	研究課題の背景2	文献レビュー	横井・藤野
4	研究課題の背景3	文献レビュー	横井・藤野
5	研究課題の背景4	文献レビュー	横井・藤野
6	研究課題の探求1	フィールドワーク	横井・藤野
7	研究課題の探求2	フィールドワーク	横井・藤野
8	研究課題の探求3	フィールドワーク	横井・藤野
9	研究課題の探求4	フィールドワーク	横井・藤野
10	研究課題の探求5	フィールドワーク	横井・藤野
11	研究課題の探求6	フィールドワーク	横井・藤野
12	研究課題の探求7	フィールドワーク	横井・藤野
13	研究課題の探求8	フィールドワーク	横井・藤野
14	研究課題の探求9	フィールドワーク	横井・藤野
15	研究課題の探求10	フィールドワーク	横井・藤野
16	研究課題の探求11	フィールドワーク	横井・藤野
17	研究課題の探求12	フィールドワーク	横井・藤野
18	課題の焦点化1	フィールドノーツの分析	横井・藤野
19	課題の焦点化2	フィールドノーツの分析	横井・藤野
20	課題の焦点化3	フィールドノーツの分析	横井・藤野
21	課題の焦点化4	フィールドノーツの分析	横井・藤野
22	課題への取り組み方法の検討1	発表と討議	横井・藤野
23	課題への取り組み方法の検討2	発表と討議	横井・藤野
24	課題への取り組み方法の検討3	発表と討議	横井・藤野
25	課題への取り組み方法の検討4	発表と討議	横井・藤野
26	研究計画立案1	発表と討議	横井・藤野
27	研究計画立案2	発表と討議	横井・藤野

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドの特性を十分考慮して課題に臨めるよう準備する。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

授業への取り組み40%、レポート60%
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

学生によるプレゼンテーションおよび討議
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**性・生殖看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Reproductive Health Nursing	選択	講義	1年次・春学期	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡 由美　（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡 由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡 由美 毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

オムニバス方式と学生の主体的学習を組み合わせて行い、学生の自主性・積極性を尊重したゼミ形式で行う。

【３】　到達目標

リプロダクティブヘルス/ライツの理念のもとに性と生殖に関する学識を深め、ヘルスプロモーションの視点から女性のライフサイクルの各期における看護のあり方を探求し、新しい看護ケアの開発を目指す。
また、常に変化する社会のなかで医療・看護の立場から人々の健康の保持・増進に寄与できる人材を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。
博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス	科目の目標と狙い　オリエンテーション	富岡
2	性・生殖と看護課題	わが国の性・生殖看護の現状と課題	富岡
3	性・生殖と研究	性と生殖に関する文献検討	富岡
4	性・生殖と研究	周産期の倫理	富岡
5	性・生殖と研究	周産期の倫理	富岡
6	性・生殖と研究	出生前診断につて	富岡
7	性・生殖と研究	出生前診断について	富岡
8	性・生殖と研究	不妊症について	富岡
9	性・生殖と研究	不妊症について	富岡
10	性・生殖と研究	不育症について	富岡
11	性・生殖と研究	不育症について	富岡
12	思春期の保健課題	思春期保健の諸問題	富岡
13	思春期の保健課題	思春期保健の諸問題	富岡
14	思春期保健と研究	思春期保健の諸問題に関する文献検討	富岡
15	思春期保健と研究	思春期保健の諸問題に関する文献検討	富岡
16	思春期保健と研究	思春期保健の諸問題に関するクリティーク	
17	思春期保健と研究	思春期保健の諸問題に関するクリティーク	
18	成熟期の保健課題	成熟期および生殖期にある女性の保健課題について	富岡
19	成熟期の保健課題	成熟期および生殖期にある女性の保健課題について	富岡
20	成熟期の保健課題	成熟期および生殖期にある女性の保健課題について	富岡
21	成熟期保健と研究	成熟期の女性の健康課題に関する文献検討及びクリティーク	富岡
22	成熟期保健と研究	成熟期の女性の健康課題に関する文献検討及びクリティーク	富岡
23	周産期の看護課題	周産期の女性の健康課題に関する文献検討	富岡
24	周産期の看護課題	周産期の女性の健康課題に関する文献検討	富岡
25	更年期・老年期の課題	更年期・老年期における性の諸問題 文献クリティーク	
26	更年期・老年期の課題	更年期・老年期における性の諸問題 文献クリティーク	
27	まとめ	性・生殖に関する看護課題について討論	富岡

【6】　事前・事後学習とその時間

ゼミ形式で行う。文献検討は学生が主体的に実施する。
講義および提示した課題に対しプレゼンテーションとディスカッションによって進める。事前に提示した課題を行い、講義に参加すること。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合し評価を行う。
授業時間の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【8】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。
また、プレゼンテーションについては講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

使用しない

【10】　参考書

授業の中で関連する文献、参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いた講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	性・生殖看護学演習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Reproductive Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡 由美（看護学研究科教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡 由美 yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡 由美 月曜日　8時～9時				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて学び、フィールドワークを通して研究課題の明確化、研究計画の立案を行う。

【３】　到達目標

性・生殖看護学特講を基盤に、リプロダクティブヘルス/ライツに関する問題を追及し、新たなケア技術を開発するための知識と技術を探求し実践する。特に女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する諸問題を探求し、健康の保持増進に寄与する健康支援モデルの検討を行い、ヘルスプロモーションの視点から看護ケア、看護介入プログラムを開発できる能力を修得し、性・生殖の分野で必要な研究者としての資質と態度を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	科目のオリエンテーション	オリエンテーション：性・生殖看護に関する自己の課題を設定する	富岡
3-4	研究課題の明確化	性・生殖看護に関する文献レビュー	富岡
5-6	研究課題の明確化	性・生殖看護に関する文献レビュー	富岡
7-8	研究課題の明確化	性・生殖看護に関する文献レビュー	富岡
9-10	フィールドワーク	フィールドワークの課題の決定	富岡
11-12	フィールドワーク	フィールドワークの対象の設定	富岡
12-14	フィールドワーク	フィールドワークの計画立案	富岡
15-16	フィールドワーク	フィールドワークの計画設定	富岡
14-15	フィールドワーク	計画に沿ってフィールドワークの実施	富岡
16-17	フィールドワーク	計画に沿ってフィールドワークの実施	富岡
18-19	フィールドワーク	計画に沿ってフィールドワークの実施	富岡
20-21	フィールドワーク	計画に沿ってフィールドワークの実施	富岡
22-23	フィールドワーク	計画に沿ってフィールドワークの実施	富岡
24-25	フィールドワークのまとめ	得られた成果について考察をする	富岡
26-27	フィールドワーク	フィールドワークの成果の発表	富岡

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドの特性を十分理解するために文献・資料を収集し、事前に学習を行うこと。

【７】　評価方法・基準

出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【10】　参考書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いた講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**小児看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Child Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

小児看護学領域で重要となる理論や概念に関する文献を抄読し、子どもと家族の健康をめぐる様々な現象を明らかにする具体的な研究方法を探究する。小児看護学関連領域の研究論文をクリティークし、小児看護学における研究の動向と課題を探究するとともに、自らの研究課題を明らかにする。

【３】　到達目標

1.小児看護学領域における主な理論や概念について理解し、研究におけるそれらの重要性について述べることができる。
2.論文クリティークをとおして、小児看護学領域における研究の動向と課題について述べることができる。
3.自分の研究課題とその解決のための方法を明らかにすることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション、理論と概念について	荒木
2	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
3	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
4	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
5	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
6	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
7	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
8	小児医療、小児看護に関する文献検討	文献検討を通して、小児医療、小児看護に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する。	荒木
9	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
10	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
11	研究課題に関する文献検討		荒木
12	研究課題に関する文献検討		荒木
13	研究課題に関する文献検討		荒木
14	研究課題に関する文献検討		荒木
15	研究課題に関する文献検討		荒木
16	研究課題に関する文献検討		荒木
17	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
18	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
19	研究課題に関する文献検討	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う。	荒木
20	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
21	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
22	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
23	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
24	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
25	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
26	研究方法に関する文献検討	自らが探求したい現象に関する文献検討を基に課題形成し、その課題解決のために研究上のアプローチを検討する。	荒木
27	まとめ	授業のまとめ	荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

・課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

主体的に関心のある領域の文献検討を行い、研究課題を絞ることにつなげる。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	小児看護学演習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Child Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	荒木　暁子				
担当教員	荒木暁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	荒木暁子akiko.araki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom, Zoom, PC

【２】　授業概要

子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、看護支援について検討する。また、研究を遂行する際の研究手法としてのデータ収集および分析方法について学ぶ。

【３】　到達目標

1.文献検討やフィールドワークをとおして、子どもや家族が抱える課題・看護支援について述べることができる。
2.研究課題に沿ったデータ収集方法や分析方法について述べることができる。
3.研究計画の概要を記述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション	荒木
2	フィールドワーク①	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
3	フィールドワーク②	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
4	フィールドワーク③	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
5	フィールドワーク④	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
6	フィールドワーク⑤	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
7	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
8	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
9	フィールドワーク①	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
10	フィールドワーク②	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
11	フィールドワーク③	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
12	フィールドワーク④	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
13	フィールドワーク⑤	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
14	フィールドワーク⑥	フィールドでの観察・インタビューの実施	荒木
15	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
16	フィールドワークの検討	データ収集・分析方法の検討	荒木
17	概念分析①	探求したい課題に関する概念分析	荒木
18	概念分析②	探求したい課題に関する概念分析	荒木
19	概念分析③	探求したい課題に関する概念分析	荒木
20	概念分析④	探求したい課題に関する概念分析	荒木
21	サブストラクション①	探求したい課題に関するサブストラクション	荒木
22	サブストラクション②	探求したい課題に関するサブストラクション	荒木
23	サブストラクション③	探求したい課題に関するサブストラクション	荒木
24	研究計画①	研究計画に関するディスカッション	荒木
25	研究計画①	研究計画に関するディスカッション	荒木
26	研究計画①	研究計画に関するディスカッション	荒木
27	まとめ	授業のまとめ	荒木

【6】　事前・事後学習とその時間

研究課題に関連する文献検討を主体的に行い、フィールドワーク等をとおして実現可能な研究計画書の作成につなげる。
30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

・フィールドワークでは対象者に対する倫理的配慮を十分に行う。
・研究課題に関連する学術集会やセミナーには積極的に参加する。
・遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いたリアルタイム配信授業などを行う。

科目名(日本語)	**基礎看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Nursing Arts	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）小坂志保（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【２】　授業概要

この科目は博士論文となる研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。関心事象の記述と文献の抄読により、関心のある事象周辺の概念を整理し、研究計画書作成につなげる。また、文献を批判的に読む能力および、研究者に求められる倫理的姿勢を醸成する。

【３】　到達目標

関心のある看護の事象を多角的に把握することができる。
関心のある看護の事象を探求し、自分の研究のReal Reasonを言語化し、Clinical Question、Research Questionを明確にすることができる。
関心のある看護の事象について、レビュー論文を作成することができる。
研究者倫理について理解し、一看護学研究者として研究計画書を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	看護と看護科学	科目のオリエンテーション 看護学の発展の経緯と実践の科学としての看護学の特徴 看護学研究の研究方法 課題提示	菊池・小坂
4-7	論文クリティークの方法	論文クリティークの意義 論文クリティークの方法 文献の検索	菊池・小坂・図書館司書
8-17	文献検索・クリティーク演習	キーワードの決定 文献の検索 検索結果の保存と管理	菊池・小坂
18-21	量的研究のクリティークの実際	プレゼンテーション 討論	小坂・菊池
22-25	質的研究（質的記述的研究）のクリティーク	プレゼンテーション 討論	菊池・小坂
26-27	まとめ	論文クリティークとクリティカル・シンキング サブストラクション	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

開講時、提示する。

【10】　参考書

開講時、提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名(日本語)	**基礎看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Nursing Arts	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小坂　志保				
担当教員	小坂志保（看護学研究科・准教授）菊池麻由美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp 小坂志保shiho.kosaka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

zoom

【２】　授業概要

・勘や経験に頼ったり、単にマニュアルやプロトコルに則るのではなく、最新のevidenceをもとに看護実践を行うことや、臨床看護師の看護研究を促進できる人材育成を目標として、自身のテーマに沿った国内外の文献を検索し、精読することによって具体的に根拠に基づく看護ケア(Evidence based practice:EBP)の在り方について検討し、考察を深め他者へ効果的なプレゼンテーションができる能力を養う機会とする。
・自身の看護実践と文献検討を照らし合わせながら今後の研究テーマについて検討し、Research Questionの創出を目指す。

【３】　到達目標

・看護の現場で根拠に基づいた実践を行い、様々な看護ケアを科学的・哲学的に検証し探求することを目的として、国内外の文献を検索・検討・抄読したうえで、自身の考えを論理的に説明することができる。
・自身の看護実践をもとにテーマを創出し、看護ケアに関連する文献を分析的・批判的にに読み、まとめ・プレゼンテーションすることができる。
・看護実践と文献検討から、clinical questionをresearch questionに転換し研究テーマを明確化できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	根拠に基づいた実践の導入	科目のオリエンテーション 根拠に基づいた実践(Evidence Based Practice)の紹介	小坂・菊池
2	根拠に基づいた実践の探求	看護実践とEvidence Based Practiceの関連について検討	小坂・菊池
3-5	文献検索方法	Pubmed/CINAHLを用いてResearch questionに基づく文献検索の実践	小坂・菊池・メディアセンター担当者
6	プレゼンテーション方法	英語文献の紹介方法	小坂
7-8	文献検索	関心ある自身のテーマに沿って関連文献の検索	小坂
9-12	文献検討(量的研究)	量的研究論文の精読	小坂
13-15	プレゼンテーション(量的研究)	量的研究論文について自身の考察とともにプレゼンテーション	小坂・菊池
16-18	プレゼンテーション(グラウンデッド・セオリー)	質的研究論文(グラウンデッド・セオリー)の精読 質的研究論文(グラウンデッド・セオリー)について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
19-21	プレゼンテーション(エスノグラフィー)	質的研究論文(エスノグラフィー)の精読 質的研究論文(エスノグラフィー)について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
22-24	プレゼンテーション(現象学的アプローチ)	質的研究論文(現象学的アプローチ)の精読 質的研究論文(現象学的アプローチ)について自身の考察とともにプレゼンテーション	菊池・小坂
25	Clinical question から Research questionへの転換	文献検討を通して、Clinical QuestionからResearch Questionへの転換を行う	菊池・小坂
26	Research Questionの創出	自身の研究テーマとなるResearch questionを見出す	菊池・小坂
27	まとめ	授業の総括	菊池・小坂

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義・演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。
受講者による文献の検索、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションにより授業を進めるので、事前準備をして臨むこと。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。
各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。
あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

科目名(日本語)	**臨床看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）、原沢のぞみ（看護学部･准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM,PC

【２】　授業概要

臨床看護学における有用な諸理論や研究のクリティークを通して、臨床看護学における研究の課題を明らかにすることができる。
講義は、プレゼンテーションを主体とする。

【３】　到達目標

臨床看護学領域における諸理論や国内外の研究の動向について学び、研究課題・研究方法について明らかにすることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	ガイダンス	オリエンテーション・学習計画の立案	原
3－6	看護実践に活かす理論①②	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル①②	原
7－10	看護実践に活かす理論③④	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル③④	原
11－14	看護研究クリティーク（1）	臨床看護学領域における研究の動向①②	原沢
15－18	看護研究クリティーク（2）	臨床看護学領域における研究の動向③④	原沢
19－22	看護研究クリティーク（3）	臨床看護学領域における研究の動向⑤⑥	原沢
23－25	看護研究クリティーク（4）	臨床看護学領域における研究の課題①	原･原沢
26－27	まとめ	学びの統合	原

【６】　事前・事後学習とその時間

各回のテーマについて事前に学習したものを発表し、ディスカッションを中心に進める。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準
プレゼンテーション60％、レポート40％で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、適宜提示する。

【10】　参考書
参考文献は、適宜提示する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**臨床看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Clinical Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	原　三紀子				
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	原三紀子mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:45 - 13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、PC

【２】　授業概要

専門領域の研究の動向を踏まえ、研究課題を抽出できる。研究課題をもとにフィールドワークの計画、実施、評価を行い、研究テーマを精選することができる。講義はプレゼンテーションを主体とする。

【３】　到達目標

各自の専門領域に関する文献レビューとフィールドワーク行い、研究テーマを明確化することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1－2	臨床看護学演習①	ガイダンス	原
3－6	臨床看護学演習②	専門領域における研究の動向①②	原
7－10	臨床看護学演習③	専門領域における研究課題の抽出①②	原
11－14	臨床看護学演習④	専門領域における研究課題の抽出③④	原
15－18	臨床看護学演習⑤	フィールドワーク①②	原
19－22	臨床看護学演習⑥	フィールドワーク③④	原
23－25	臨床看護学演習⑦	フィールドワークの結果分析①②	原
26－27	臨床看護学演習⑧	演習のまとめ	原

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準
プレゼンテーション40%、フィールドワークによる取組み40%、レポート20%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【８】　フィードバック方法
講義の中で講評ならびに解説を伝え、学習課題を共有する。

【９】　教科書
参考文献は、適宜提示する。

【10】　参考書
参考文献は、適宜提示する。

【11】　備考(関連科目等)
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合は、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**在宅看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Home Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤　明（看護学研究科　准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明　akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, タブレット端末

【２】　授業概要

在宅看護学領域における自己の関心現象や支援方法を探究する上で必要な理論・概念に関する文献を検討し、在宅看護学を体系化する基盤能力を養う。

【３】　到達目標

１．在宅療養者・家族の健康上および生活上の課題および効果的な看護実践方法の開発に必要な知識基盤を形成し記述できる。
２．在宅看護の現象や支援方法に関連する理論・概念を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	わが国の在宅看護の変遷と現状　1	在宅療養を取り巻く社会状況と看護①	成澤
2	わが国の在宅看護の変遷と現状２	在宅療養を取り巻く社会状況と看護①	成澤
3	わが国の在宅看護の変遷と現状　3	在宅療養と社会制度・政策①	成澤
4	わが国の在宅看護の変遷と現状　4	在宅療養と社会制度・政策②	成澤
5	諸外国の在宅看護の現状　1	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護①	成澤
6	諸外国の在宅看護の現状　2	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護②	成澤
7	諸外国の在宅看護の現状　3	諸外国における在宅療養と社会制度・政策①	成澤
8	諸外国の在宅看護の現状　4	諸外国における在宅療養と社会制度・政策②	成澤
9	文献クリティーク　1	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク①	成澤
10	文献クリティーク　2	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク②	成澤
11	文献クリティーク　3	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク③	成澤
12	文献クリティーク　4	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク④	成澤
13	文献クリティーク　発表　1	関心のテーマの文献クリティークについて発表①	成澤
14	文献クリティーク　発表　2	関心のテーマの文献クリティークについて発表②	成澤
15	在宅ケアと地域包括ケアシステム　1	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連①	成澤
16	在宅ケアと地域包括ケアシステム　2	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連①	成澤
17	在宅ケアと地域包括ケアシステム　3	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連③	成澤
18	在宅ケアと地域包括ケアシステム　4	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連④	成澤
19	在宅ケアと地域包括ケアシステム　5	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策①	成澤
20	在宅ケアと地域包括ケアシステム　6	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策②	成澤
21	在宅ケアと地域包括ケアシステム　7	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策の発表①	成澤
22	在宅ケアと地域包括ケアシステム　8	在宅ケアと地域包括ケアシステムの課題と対策の発表②	成澤
23	地域看護活動の評価１	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	成澤
24	地域看護活動の評価　2	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	成澤
25	地域看護活動の評価　3	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	成澤
26	地域看護活動の評価　4	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	成澤
27	地域と在宅看護	地域における在宅看護	成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔授業およびゼミ形式により進める。
紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	在宅看護学演習	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Home Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤明（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明　akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

1. 在宅看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。
2. 研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行う。

【３】　到達目標

１．在宅看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討し説明できる。
２．予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	在宅看護学演習ガイダンス	成澤
2	在宅看護と在宅ケア　1	在宅看護の現状と課題	成澤
3	在宅看護と在宅ケア　2	在宅看護と在宅ケア	成澤
4	在宅ケアと地域包括ケアシステム　1	在宅療養の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	成澤
5	在宅ケアと地域包括ケアシステム　2		成澤
6	地域と地域包括ケアシステム　1		成澤
7	地域と地域包括ケアシステム　2		成澤
8	フィールドワーク概要　1	フィールドワークへの理解	成澤
9	フィールドワーク概要　2	フィールドワークへの理解	成澤
10	フィールドワークの実際	フィールドワーク内容の理解	成澤
11	フィールドワークの実際　2	フィールドワーク内容の理解	成澤
12	フィールドワーク計画の検討　1	フィールドワーク計画の検討	成澤
13	フィールドワーク計画の検討　2	フィールドワーク計画の検討	成澤
14	フィールドワーク実践の結果発表　1	フィールドワーク実践の発表と評価	成澤
15	フィールドワーク実践の結果発表　2	フィールドワーク実践の発表と評価	成澤
16	研究課題の明確化　1	フィールドワークを踏まえ研究課題の明確化	成澤
17	研究課題の明確化　2	フィールドワークを踏まえ研究課題の明確化	成澤
18	研究課題の発表　1	在宅看護学領域における研究課題の発表と評価	成澤
19	研究課題の発表　2	在宅看護学領域における研究課題の発表と評価	成澤
20	研究計画書の作成　1	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	成澤
21	研究計画書の作成　2	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	成澤
22	研究計画書の作成　3	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	成澤
23	研究計画書の作成　4	適切なデザイン・研究方法を含めて研究計画を作成	成澤
24	研究計画の発表　1	研究計画の発表	成澤
25	研究計画の発表　2	研究計画の発表	成澤
26	研究計画の評価　1	研究計画の評価と課題の明確化	成澤
27	研究計画の評価　2	研究計画の評価と課題の明確化	成澤

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%から総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。

【9】　教科書

必要な文献を適宜紹介する。

【10】　参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。授業はゼミ形式で行う。
紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名(日本語)	**母子保健学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Maternal and Child Health	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡 由美（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡 由美　yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡 由美 毎週月曜日10:00～11:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

オムニバス方式と学生の主体的学習を組み合わせて行い、学生の自主性・積極性を尊重したゼミ形式で行う。

【３】　到達目標

リプロダクティブヘルス/ライツの理念のもとに性と生殖に関する学識を深め、ヘルスプロモーションの視点から女性のライフサイクルの各期における看護のあり方を探求し、新しい看護ケアの開発を目指す。
また、常に変化する社会のなかで医療・看護の立場から人々の健康の保持・増進に寄与できる人材を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	科目ガイダンス	科目の目標とねらい　オリエンテーション 学習目標の設定	富岡
3-4	母子保健について	わが国の性・生殖看護（母子保健）の現状と課題	富岡
5-6	研究課題に対する検討	母子保健に関する文献検討 文献レビューを通して課題の絞り込み	富岡
7-8	研究課題に対する検討	母子保健に関する文献検討 文献レビューを通して課題の絞り込み	富岡
9-10	研究課題に対する検討	母子保健に関する文献検討 文献レビューを通して課題の絞り込み	富岡
11-12	研究課題に対する検討	母子保健に関する文献検討：クリティーク	富岡
13-14	研究課題に対する検討	母子保健に関する文献検討：クリティーク	富岡
15-16	課題にたいする研究方法	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	富岡
17-18	課題にたいする研究方法	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	富岡
19-20	課題にたいする研究方法	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	富岡
21-22	課題にたいする研究方法	文献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法	富岡
23-24	課題にたいする研究方法	献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法　についてのクリティーク	富岡
25-26	課題にたいする研究方法	献検討を通して課題を明らかにする方法論を探索する 研究デザイン・対象者・分析方法　についてのクリティーク	富岡
27	まとめ	習目標の評価、今度の研究の遂行に向けての自己の課題の明確化	富岡

【６】　事前・事後学習とその時間

ゼミ形式で行う。文献検討は学生が主体的に実施する。

【７】　評価方法・基準

出席30%、授業中の態度や取組み20%、レポート50%

【８】　フィードバック方法

レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書

使用しない

【10】　参考書

授業の中で関連する文献、参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)

特になし

科目名(日本語)	**母子保健学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Maternal and Child Health Exercise	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	富岡　由美				
担当教員	富岡 由美（看護学研究科　教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	富岡 由美 yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	富岡 由美 月曜日11時～12時				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC、Zoom

【２】　授業概要

臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて学び、活用・応用できる資質を身につける。

【３】　到達目標

性・生殖看護学特講を基盤に、リプロダクティブヘルス/ライツに関する問題を追及し、新たなケア技術を開発するための知識と技術を探求し実践する。特に女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する諸問題を探求し、健康の保持増進に寄与する健康支援モデルの検討を行い、ヘルスプロモーションの視点から看護ケア、看護介入プログラムを開発できる能力を修得し、性・生殖の分野で必要な研究者としての資質と態度を育成する。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	科目ガイダンス	オリエンテーション 学習課題の設定	富岡
3-6	母子保健に関する研究計画の立案	研究対象者の決定・選定基準の絞り込み	富岡
7-17	母子保健に関する研究計画の立案	研究計画の作成に向けた フィールドワーク・専門家へのコンサルテーション	富岡
18-24	母子保健に関する研究計画の立案	研究計画作成に向けた予備調査・試作	富岡
25-27	母子保健に関する研究計画の立案	研究計画のまとめ、完成に向けての検討	富岡

【６】　事前・事後学習とその時間

臨地にて健康教育場面に参加し、分析する。

【７】　評価方法・基準

出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%

【８】　フィードバック方法
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、フィードバックする。

【９】　教科書
特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【10】　参考書
特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【11】　備考(関連科目等)
授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。遠隔形式の場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿って、Zoomを用いた講義をリアルタイムにて行う。

科目名(日本語)	**疾病論特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Clinical Medicine	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	湯浅　玲奈				
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	湯浅玲奈rnyuasa■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週金曜日：12:30～13:00 メールで事前に連絡をすること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Classroom、zoom

【２】　授業概要

疾患の病態生理を理解し、医療現場で実際に患者を診る際に役立つ知識を習得する。

【３】　到達目標

看護ケアに必要な最先端の医学知識を学び、得た知識を実践看護に役立てられるようになる。
生理学的、解剖学的視野からも疾病の成り立ちを理解し、治療のみならず予防までも包括的に理解する。
自分の理想とする看護について説明ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	エピローグ	オリエンテーションなど	湯浅
2	医療における哲学の役割		湯浅
3	医療の哲学		湯浅
4	禁煙学①		湯浅
5	禁煙学②		湯浅
6	最先端医療①	ゲノム治療１ 糖尿病の現状	湯浅
7	最先端医学②	糖尿病の診断と治療　―医学の進歩と治療の変遷 ゲノム治療２	湯浅
8	最先端医療③	ゲノム治療３	湯浅
9	内分泌学①	気づきにくい内分泌疾患	湯浅
10	内分泌学②	下垂体・甲状腺	湯浅
11	内分泌学③	副腎	湯浅
12	腎臓学①	腎疾患	湯浅
13	腎臓学②	腎代替療法：透析	湯浅
14	腎臓学③	腎代替療法：腎移植	湯浅
15	災害と医療①	自然災害・人為災害・特殊災害	湯浅
16	災害と医療②	透析患者の場合	湯浅
17	災害と医療③	感染症対策	湯浅
18	緩和医療①	緩和とは何か	湯浅
19	緩和医療②	グリーフケア	湯浅
20	老年医学①	認知症　－治療の現状、今後の展望、社会問題―	湯浅
21	老年医学②	高齢者の特性としてのフレイル	湯浅
22	老年医学③	オーラルフレイルと誤嚥性肺炎	湯浅
23	動脈硬化と疾患①	心臓・脳・大動脈	湯浅
24	動脈硬化と疾患②	抹消動脈　―閉塞性動脈硬化症―	湯浅
25	高血圧①	原因別	湯浅
26	高血圧②	高血圧がもたらす疾患	湯浅
27	プロローグ	この講義で感じたこと、考えたこと	湯浅

【6】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に配布された資料などを理解し、講義に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み40%、プレゼンテーション30%、ディスカッション30%から総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはルーブリックを用い点数評価をする。

【8】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組むべき自己の課題を共有する。

【9】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施するが、状況によっては対面形式と遠隔形式（zoomを用いたリアルタイム配信）を組み合わせることも対応できるようにする。
授業に臨むにあたり、講義に関する疾患について各自理解し、討論に参加できるよう準備しておくこと。
積極的な討論への参加を期待する。

科目名(日本語)	**共生社会と医療**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Symbiotic Society and Medical Care	必修	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	成澤　明				
担当教員	成澤　明（看護学研究科・淳教授）、横井郁子（看護学研究科・教授）、岸恵美子（看護学研究科・教授） 伊藤桂子（看護学研究科・教授）、平田松吾（看護学研究科・非常勤講師） 御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	成澤明　akira.narusawa■med.toho-u.ac.jp　横井郁子　yokoiyk■med.toho-u.ac.jp 岸恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp　伊藤桂子　keiko.ito■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	事前にメールでアポイントを取ること				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, タブレット端末

【２】　授業概要

受講者を看護職と限定しない。
ゲストスピーカーによる話題提供をもとに議論し課題を深めていく。

【３】　到達目標

地域包括ケアが推進される現代において、暮らしを継続できる「支える医療」の関心も高まっている。多様な人が主体的に社会に参画し、ともに生きていく社会と医療のあり方について、医療を必要とする人の暮らしをとおして説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	共生社会の概念　1	共生社会の概念①	平田
2	共生社会の概念　2	共生社会の概念②	平田
3	共生する社会とは　1	共生する社会について考察①	平田
4	共生社会する社会とは　2	共生する社会について考察②	平田
5	共生社会と地域包括ケアシステム　1	共生社会と地域包括ケアシステム①	岸・横井・成澤
6	共生社会と地域包括ケアシステム　2	共生社会と地域包括ケアシステム②	岸・横井・成澤
7	共生社会と地域包括ケアシステム　3	共生社会と地域包括ケアシステム（高齢者）①	横井・岸・成澤
8	共生社会と地域包括ケアシステム　4	共生社会と地域包括ケアシステム（高齢者）②	横井・岸・成澤
9	共生社会と精神障害　1	精神障害をもって生きる（ゲストスピーカー）①	伊藤
10	共生社会と精神障害　2	精神障害をもって生きる（ゲストスピーカー）②	伊藤
11	共生社会と精神障害　3	共生社会と精神障害；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察①	伊藤
12	共生社会と精神障害　4	共生社会と精神障害；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察②	伊藤
13	共生社会とがんサバイバー1	がんと闘い生きる（ゲストスピーカー）①	横井
14	共生社会とがんサバイバー2	がんと闘い生きる（ゲストスピーカー）②	横井
15	共生社会とがんサバイバー3	共生社会とがんサバイバー；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察①	横井
16	共生社会とがんサバイバー4	共生社会とがんサバイバー；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察②	横井
17	共生社会と重度心身障害4	共生社会と重度心身障害児と家族（ゲストスピーカー）	成澤
18	共生社会と重度心身障害2	共生社会と重度心身障害児と家族（ゲストスピーカー）	成澤
19	共生社会と重度心身障害3	共生社会と重度心身障害児と家族；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察①	成澤
20	共生社会と重度心身障害4	共生社会と重度心身障害児と家族；ゲストスピーカーとの討論から共生社会について考察②	成澤
21	共生社会の実際について発表ガイダンス	テーマとプレゼンテーションについてのガイダンス	成澤・御任
22	これからの共生社会　1	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：これからの共生社会	横井、岸、伊藤、成澤、御任
23	これからの共生社会　2	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：これからの共生社会	横井、岸、伊藤、成澤、御任
24	共生社会と専門職　1	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、成澤、御任
25	共生社会と専門職　2	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、成澤、御任
26	共生社会と専門職　3	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、成澤、御任
27	共生社会と専門職　4	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、成澤、御任

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【7】　評価方法・基準

課題の提出40%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有を行う。
課題・レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、個別に対面で評価しながら返却する。

【9】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

共生社会について定義を含むさまざまな課題について予習し臨むこと。
＊最少開講人数3名。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。ゼミ（オンライン上を含む）での積極的な討論井よって課題を深めることを期待する。

科目名(日本語)	**がん看護学高度実践看護実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Practicum for CNS in Cancer Nursing	選択	実習	1～2年次・秋	10単位 500時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）寺原敦朗（大森病院放射線科・教授）山下尚美（看護学研究科・講師） 節原光江（大森病院・がん看護専門看護師） 黒澤亮子（大森病院・がん看護専門看護師）祖父江由紀子（大森病院・がん看護専門看護師） 堀孔美恵（大橋病院・がん看護専門看護師）勝俣範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科・教授） 根岸恵（聖隷横浜病院・がん看護専門看護師）小野寺恵子（日本医科大学武蔵小杉病院・がん看護専門看護師） 北爪麻紀（大森病院・がん放射線療法看護認定看護師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp 山下尚美naomi.yamashita■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【2】　授業概要

がん看護学特論ならびに演習での知識を統合し、がん看護領域における特殊性をふまえながら高度な実践能力を養うことができる。また、がん看護専門看護師として必要な役割（コンサルテーション、調整、倫理調整、研究、教育）を自立して行える実践能力の開発をめざす。

【3】　到達目標

1.がん患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力、予定治療の遂行に関わる臨床判断能力を習得し、ケア（care）とキュア（cure）を融合させた高度な看護実践能力について説明できる。
2.がん患者および家族あるいはがんサバイバーが、自律した、納得のいく日常生活を送ることができるような専門的な直接ケアと、施設と地域のシームレスな連携をはかる継続看護を実践することができる。
3.看護スタッフが対応困難と感じている患者や家族への看護について、コンサルテーション、倫理的調整、調整、教育などの実践活動を行うことを通して専門看護師の役割について説明できる。
4.臨床におけるがん看護の現状や教育ニーズを把握し、がん患者および家族やがんサバイバーへの看護の質向上を図るための教育や研究支援を実施することができる。
5.がん看護専門看護師として自己の専門性を発展させる領域（サブスペシャリティ）を見出し、必要な実践能力やケア開発能力について説明できる。
6.がん患者および家族やがんサバイバーに対する卓越した看護を開発していくための自身の課題を記述できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習Ⅰ：1年春学期3週間2単位	1)実習目的 がん看護専門看護師として焦点をあてる領域（サブスペシャリティ）を選択し、直接ケアを通して、高度な実践能力やケア開発能力を習得する。また、がん看護専門看護師として専門性を発揮するとはどういうことなのか探究する。 受け持ち患者及び家族に対する看護については、実習指導者であるがん看護専門看護師・担当教員等のスーパーバイズを受け、多角的に検討しながら実践を行う。 2)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院	村上・山下・節原・堀
2	実習Ⅱ：2年春学期3週間2単位	1)実習目的 複雑で対応困難な問題をもつがん患者やその家族に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いた質の高い看護の提供および看護支援法の開発ができるような能力を習得する。さらに、複雑で対応困難な事例に対して、スタッフ看護師と共に解決策を検討することを通して、がん看護専門看護師の実践能力を習得する。また、入退院を繰り返しながらがん治療を受けている対象者に対して、施設と地域社会とのシームレスな連携をはかる継続看護について探求する。 受け持ち患者及び家族に対する看護については、実習指導者であるがん看護専門看護師・担当教員等のスーパーバイズを受け、多角的に検討しながら実践を行う。 3)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院	村上・山下・節原・黒澤・堀
3	実習Ⅲ：1年秋学期2週間2単位	1)実習目的 がん看護専門看護師と行動を共にし、がん看護専門看護師の活動の実際から、役割機能（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）、およびチーム医療における協働のあり方を理解し、がん看護専門看護師の専門性を発揮する能力を習得する。 2)実習施設 聖隷横浜病院	村上・根岸
4	実習Ⅳ：1年秋学期4週間4単位	1)実習目的 臨床指導者（臨床指導医・がん看護専門看護師・担当教員等）の指導のもと、がんの診断・治療過程を理解し、治療の有害事象のアセスメントとモニタリング、治療遂行の判断に関する能力を習得する。また、対象者が治療を受けながら日常生活を送ることができるような継続看護を実践するために、施設と地域社会とのシームレスな連携モデルを開発する能力を習得する。 2)実習施設 東邦大学医療センター大森病院、日本医科大学武蔵小杉病院	村上・山下・寺原・勝俣・小野寺・節原・祖父江・北爪

【6】　事前・事後学習とその時間

1.さまざまな臨床問題をもつがん患者および家族への看護について、臨床医およびがん看護専門看護師、教員等のスーパーバイズを受けながら多角的に検討し実践する。
2.施設で実習が不可能な社会情勢の場合には、遠隔形式をもちいて指導者および教員とディスカッションを行う。

【7】　評価方法・基準

事前課題への取り組み20%、実習への取り組み60%、レポート20%で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

実習前・中・後で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【9】　教科書

適宜紹介する。

【10】　参考書

適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

既習の特論・演習での学びや文献検討でえたエビデンスなどを統合して事前学習を丁寧に行うこと。詳細は、がん看護専門看護師高度看護実践実習実習要項を参照すること。
遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	公衆衛生看護学課題研究	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Research: Public Health Nursing	選択	実習	2年次・通年	6単位 270時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸 恵美子（看護学部　教授）　望月 由紀子（看護学部　准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月由紀子 yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日13:30～14:00				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【2】　授業概要

文献検討を通して研究課題を抽出し、研究計画を立案する。立案した研究計画にそってデータを収集・分析し研究を実践することで、課題研究論文を作成する。研究を通じて研究者として必要な姿勢（謙虚さ、忠実性、真摯さ）と探求する態度を習得する。

【3】　到達目標

1.公衆衛生看護分野において興味・関心のある現象に関する課題を明らかにするための文献検討、文献クリティークを行うことができる。
2.フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を抽出できる。
3.研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
4.課題の研究的探索に有効な研究方法を明確にし、研究計画を立案できる。
5.研究を進めるにあたり倫理的配慮について理解し、説明できる。
6.必要なデータを収集し、適切な方法で分析できる。
7.課題研究論文を作成し、効果的にプレゼンテーションを実施できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、課題研究論文の作成まで研究の過程を展開する。	岸恵美子　望月由紀子
2	指導内容	担当教員が協力して指導にあたる。	岸恵美子　望月由紀子

【6】　事前・事後学習とその時間

テーマに関連する分野の事前・事後学習を行う

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、研究計画書（20%）、論文（60%）から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【９】　教科書
適宜提示する

【10】　参考書
適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)
学生が主体的に学習する。院生各自の課題を元にグループ討議を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**がん看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Cancer NursingⅡ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）、山下尚美（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

がん療養時期（診断前後、積極的治療期、サバイバー期、再発・転移期、終末期）にそって、がん治療によりもたらされた身体的・精神的変化や、がんの進行に伴う身体活動制限や、サバイバーの抱える諸問題に対する機能の維持・回復（リハビリテーション）するための看護支援を教授する。療養時期の変遷とともに、対象者の抱える課題は変化することを理解し、継続的かつ包括的な看護支援について科学的根拠に基づいて探求する。

さらに、がん療養時期全般の家族への看護支援や、死亡後に家族に行われている遺族ケアについて、現在の取り組みから必要な看護支援を探求する。そして、患者および家族を支援している看護師自身の精神的負担感などに対する支援のあり方を探求する。

【３】　到達目標

1.各療養場面にそって、がん治療によりもたらされた身体的・精神的苦痛や、がんの進行に伴って生じてくる身体活動の制限、サバイバーの抱える問題など特有の諸問題に対して、対象者が適切なペースで機能を維持・回復（リハビリテーション）することができるような看護支援方法を具体的に述べることができる。
2.患者や家族、サバイバー、そして遺族が抱える課題は、がん療養時期とともに変化することを理解し、継続的かつ包括的な視点での看護支援方法について科学的根拠に基づいて述べることができる。
3.がん患者および家族やがんサバイバーがおかれている状況を多角的な視点で分析し、対象者のセルフケア能力を見極めて柔軟に看護援助を展開するための高度な実践方略について述べることができる。
4. 死亡後に家族に行われている遺族ケアについて、現在の取り組みから必要な看護支援を探求することができる。
5. 患者および家族を支援している看護師自身の精神的負担感などに対する支援のあり方を探求することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がんの療養過程全般および遺族に対する継続看護について	・日常生活動作・日常生活関連動作の特徴とアセスメント方法、筋力・体力低下の予防方法と離床支援の方法など基本的な看護支援 ・死亡後に家族に提供されている遺族ケアについて、現在行われている取り組み（遺族外来など）を学び必要な看護支援を探求する	村上
2-5	診断前後の患者および家族に対する看護	初発症状の医学的査定方法と日常生活活動への影響に関するアセスメント方法、診断前後の患者および家族に対する精神的な看護支援	村上
6-9	積極的治療中にある患者および家族に対する看護	積極的治療中（がん薬物療法・放射線療法）の影響による活動量低下のアセスメント方法、活動量低下による廃用症候群予防・改善のためのリハビリテーションと看護支援	村上
10-13	がんサバイバーに対する看護	治療により器質的・機能的変化が生じたがんサバイバーの自律能力、セルフケア能力向上のための看護支援	村上
14-17	再発・転移の生じた患者および家族に対する看護	局所から全身へという治療展開やがんの集学的治療における有害事象、体力低下と廃用症候群、などの身体活動制限に対するリハビリテーションと看護支援	山下
18-21	終末期にある患者および家族、遺族に対する看護	終末期患者のADL査定や呼吸困難・浮腫に対するリハビリテーション方法と看護支援、家族や遺族の喪失への精神的な看護支援	山下
22-25	看護スタッフに対する精神的支援	がん患者や家族をケアする看護スタッフの精神的側面への支援の必要性と実際	村上
26-27	まとめ	がん治療によりもたらされた身体の器質的・機能的変化が生じた臨床経験の中での事例について、患者のセルフケア能力向上のための看護援助の方略を再検討する	村上、山下

【６】　事前・事後学習とその時間

１．課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**がん看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Cancer NursingⅡ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	村上　好恵				
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授） 辻哲也（慶應義塾大学医学部・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12:30-13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Form, ZOOM

【２】　授業概要

治療によってもたらされた器質的・機能的変化（摂食・嚥下障害、発声障害、高次機能障害、リンパ浮腫、造血幹細胞移植、緩和ケア）について病態生理や解剖学的変化と、その変化によって生じる生活への影響を教授する。これらの変化に対する専門的ながんリハビリテーションについて習得し、維持・改善するための身体的・心理的・社会的かつ多角的な視点によるがんリハビリテーション看護の方略を探究する。さらに、フィールド演習を通し、考案したがんリハビリテーション看護の方略を改良し、高度実践看護実習において活用できるよう検討を重ねる。

【３】　到達目標

1.治療によってもたらされた器質的・機能的変化について、病態生理や解剖学的変化と、その変化に伴って生じる生活への影響を理解し、リハビリテーションの専門的な知識や技術を学び、維持・改善、および患者のセルフケア能力の向上のためのがんリハビリテーション看護の方略について述べることができる。
2.治療に続発する器質的・機能的変化がもたらす精神的・社会的影響を理解し、予防的介入、あるいは早期発見し効果的な介入を行うための看護実践の方略を作成することができる。
3.作成したがんリハビリテーション看護の方略についてフィールド演習を通して改良し、有効性や実行可能性を検討することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がんリハビリテーションについて	がんリハビリテーション看護について	村上
2-3	がんリハビリテーションの概要	セルフケア能力やＱＯＬ向上のためのリハビリテーションの役割	辻
4-5	がん治療とリハビリテーション①	摂食・嚥下障害、発声障害、高次機能障害をもたらす器質的・機能的変化とリハビリテーションの実際	村上
6-7	がん治療とリハビリテーション②	がん治療がリンパ系に与える影響と病態生理や診断方法・治療方法、造血幹細胞移植時のリハビリテーションの実際	村上
8-11	緩和ケアにおけるリハビリテーション	がん性疼痛、骨転移、終末期における身体的リハビリテーションの実際、日常生活動作や生活関連動作へのアプローチの実際、体力低下と廃用症候群	村上
12-13	こころのケアとしてのリハビリテーション	・治療に伴う患者や家族に生じる可能性のある精神的苦痛（例えば抑うつや不安、喪失感やコントロール不全感、切迫感など）とそのアセスメント方法 ・対話アプローチを行うためのコミュニケーション・スキル	村上
14-15	社会的リハビリテーション	がん治療を受けながら、あるいは治療がひと段落したサバイバーが、就労や家事・育児・介護などの社会的役割をどのようにすると継続できるのか、どのようにすると元の生活スタイルに戻ることができるのか、そのためには現在はどのような社会資源が存在するのか、活用できるピアサポートにはどのようなものがあるのか、などの実際を学ぶ。	村上
15-23	フィールド演習	・がんサバイバーが設立した団体について理解し、実際にサバイバーから話をきく、運動プログラムへ参加する、などを通して、市民やサバイバーが行っている実際から看護支援を探求する。 ・焦点をあてるテーマを選択しがんリハビリテーション看護の方略案を作成し、フィールド演習を通して改良する。	村上
24-27	事例検討	作成したがんリハビリテーション看護の方略を検討し、ディスカッションを通して改良する。	村上
27	まとめ	改良したがんリハビリテーション看護の方略について、支援の有効性や実行可能性を検討し、高度実践看護について考察を深める。	村上

【６】　事前・事後学習とその時間

１．講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。
２．30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

文献学習20%、課題への取り組み20%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、今後取り組む自己の課題を共有する。

【９】　教科書

講義の中で適宜紹介する。

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってZoomを用いたリアルタイム配信を行う。

科目名(日本語)	**高齢者看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Gerontological Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp、藤野秀美morisumi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

高齢者の暮らし・療養の場をマネジメントする能力の基礎を養う。

【３】　到達目標

1. 加齢変化をふまえた環境調整について述べることができる。
2. 療養の場が高齢者に与える影響について述べるができる。
3. 1、2から、より良い環境調整について提案することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	病院という建物の変遷1	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	横井
2	病院という建物の変遷2	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	横井
3	病院という建物の変遷3	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来	横井
4	身体機能と療養の場1	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
5	身体機能と療養の場2	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
6	身体機能と療養の場3	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
7	身体機能と療養の場4	感覚系の変化と療養の場	横井・藤野
8	身体機能と療養の場5	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
9	身体機能と療養の場6	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
10	身体機能と療養の場7	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
11	身体機能と療養の場8	運動系・中枢神経系の変化と療養の場	横井・藤野
12	認知機能と療養の場1	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
13	認知機能と療養の場2	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
14	認知機能と療養の場3	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
15	認知機能と療養の場4	認知機能の変化と療養の場	横井・藤野
16	加齢変化とリスク回避1	インシデント報告の分析__治療	横井・藤野
17	加齢変化とリスク回避2	インシデント報告の分析__治療	横井・藤野
18	加齢変化とリスク回避3	インシデント報告の分析__検査	横井・藤野
19	加齢変化とリスク回避4	インシデント報告の分析__検査	横井・藤野
20	加齢変化とリスク回避5	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
21	加齢変化とリスク回避6	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
22	加齢変化とリスク回避7	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
23	加齢変化とリスク回避8	インシデント報告の分析__転倒・転落	横井・藤野
24	加齢変化とリスク回避9	インシデント報告の分析__その他	横井・藤野
25	加齢変化とリスク回避10	インシデント報告の分析__その他	横井・藤野
26	安全と安心のための環境調整1	プレゼンテーションと討議	横井・藤野
27	安全と安心のための環境調整2	プレゼンテーションと討議	横井・藤野

【6】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義への取り組み40%、課題レポート60%。
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

講義およびゼミ形式で行う。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

科目名(日本語)	**精神看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）後藤喜広（看護学研究科・講師）若山仁大（看護学研究科・非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp 若山仁大 ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

精神保健福祉の歴史的変遷を踏まえた精神保健福祉制度と体制について学び、現代の精神的健康問題について多面的に分析し、精神保健福祉と精神医療の今後の展望について探求する。

【３】　到達目標

１．精神保健医療福祉の制度と体制について、法制度の変遷、倫理、治療環境等の視点から概要と課題を述べることができる。
２．現代の精神的健康問題について多面的に分析し、関連する要因を述べることができる。
３．対象理解のための生活の評価に必要な基礎的理論と方法について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1 - 2	精神保健医療福祉の制度と体制①	日本の精神保健医療福祉に関する法制度の歴史的変遷	伊藤
3 - 4	精神保健医療福祉の制度と体制②	諸外国の精神保健福祉および精神医療の現状	伊藤
5	ライフサイクルと危機①	ライフサイクルにおける危機	後藤
6	ライフサイクルと危機②	精神力動論と自我機能とその障害	後藤
7 - 8	家族の機能と病理①	家族システム論を活用した家族の理解	伊藤
9 - 10	家族の機能と病理②	精神障害者家族のアセスメントと家族支援	伊藤
11 - 16	社会の動向と精神的健康問題①	精神保健の興味関心のある分野について、参考文献を通じて自己学習し、自身の学びと実践への応用について、プレゼンテーションを行う	伊藤、後藤
17-18	社会の動向と精神的健康問題②	スティグマと人権擁護、倫理的課題	後藤
19-20	対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論①	Mental Status Examinationの基礎的な知識	若山
21-22	対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論②	Mental Status Examinationの活用	若山
23 - 26	精神状態のアセスメントに必要な技法	精神障害者と家族の地域生活支援とケアマネジメント	伊藤
27	まとめ	精神保健医療福祉における課題と今後の展望	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）、後藤喜広（看護学研究科・講師）、梅澤志乃（大森病院・看護師）、髙田みほ（大森病院・精神保健福祉士）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp 梅沢志乃 髙田みほ ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

現代の精神看護・医療・福祉におけるアプローチの実際について専門的な知識を教授する。また個人・家族・集団に効果的な支援を探求するとともに、対象の人権を擁護するための倫理的判断能力を養う。

【３】　到達目標

１．精神保健上の問題を抱えた人々への精神看護・医療・福祉におけるアプローチの理論と技法について説明できる。
２．対象の人権を擁護することについて、トラウマインフォームドケアの視点を用いて考察することができる。
３．対象者やその家族がその人らしく生き、回復することについて、自らの意見を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向①	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向	伊藤
2 - 3	日本における精神医療および障害福祉サービスの動向②	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム	後藤
4 - 5	地域移行、地域定着のための支援①	精神科におけるソーシャルサポート	髙田
6 - 7	地域移行、地域定着のための支援②	地域移行のためのネットワークの活用	髙田
7 - 8	治療的コミュニケーション	患者 - 看護師関係と治療的コミュニケーション	伊藤
9 - 10	トラウマインフォームドケア①	トラウマインフォームドケアの概要	伊藤
11 - 12	トラウマインフォームドケア②	トラウマインフォームドケアの視点を用いた事例検討	伊藤
13 - 14	トラウマインフォームドケア③	トラウマインフォームドケアの実践	伊藤
15 - 16	多職種連携とコンサルテーション①	精神科における多職種連携	後藤
17 - 18	多職種連携とコンサルテーション②	コンサルテーション論	伊藤
19 - 20	多職種連携とコンサルテーション③	コンサルテーションを活用した介入アプローチ①	梅澤
21 - 22	多職種連携とコンサルテーション③	コンサルテーションを活用した介入アプローチ②	梅澤
23 - 24	精神障害者およびその家族の回復①	精神障害をもつ人とその家族の理解と自立を目指すための支援について、事例検討を通して探求する（リカバリーモデル、ストレングスモデル）	伊藤・後藤
25 - 26	精神障害者およびその家族の回復②	精神障害をもつ人とその家族の理解と自立を目指すための支援について、事例検討を通して探求する（自助グループ、ピアサポート）	伊藤・後藤
27	まとめ	精神保健上の問題を抱えた人々の回復とその支援	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

講義を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）、後藤喜広（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom, zoom, pc

【２】　授業概要

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマでフィールドワークを計画して実施する。フィールドワークを実施し、研究データの収集方法と分析方法を修得する。

【３】　到達目標

1. 先行文献を多角的に検討し、精神保健医療に関する現状と課題を説明することができる
2. 関心のあるテーマを検討し、演習の課題を明確にすることができる
3. フィールドワークを実施し、データ収集方法やデータ分析を修得することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	フィールドワークにおけるデータ収集と演習方法	伊藤・後藤
2	フィールドワークのテーマ選定	各自の関心のある事象を報告し、自分が取り組む研究課題を明確にする	伊藤・後藤
3 - 4	文献検討①	各自の研究課題に関連した文献を検討する	伊藤・後藤
5 - 6	文献検討②	文献検討の結果を報告し、討議する	伊藤・後藤
7 - 8	演習計画①	関心を持っているテーマに沿ってフィールドワーク計画を立案する	伊藤・後藤
9 - 10	演習計画②	フィールドワークに活用するフィールドノーツを作成する	伊藤・後藤
11 - 12	フィールドワーク①	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
13 - 14	フィールドワーク②	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
15 - 16	データ分析①	収集した情報をデータ化して、分析する	伊藤・後藤
17	演習実施報告①	フィールドワークの成果を発表し、討議する	伊藤・後藤
18 - 19	演習計画③	関心を持っているテーマに沿ってフィールドワーク計画を立案する	伊藤・後藤
20 - 21	フィールドワーク③	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
22 - 23	フィールドワーク④	計画したフィールドワークを実施し、フィールドノーツを活用してデータを収集する	伊藤・後藤
24 - 25	データ分析②	収集した情報をデータ化して、分析する	伊藤・後藤
26 - 27	演習実施報告②	フィールドワークの成果を発表し、討議する	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間

主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
関心のあるテーマに基づいてフィールドワークを実施する。
30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Mental Health and Psychiatric NursingⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）、後藤喜広（看護学研究科・講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子　keiko.itou■med.toho-u.ac.jp 後藤喜広　yoshihiro.gotou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【２】　授業概要

各自が関心を持っている領域の視点から研究課題を明確にし、実証的な研究方法を検討できる能力を養う。

【３】　到達目標

１．各自が関心を持っている領域の視点から精神保健医療福祉における重要な課題を考察することができる。
２．自身の研究課題を明確にできる。
２．研究課題に取り組むための実証的な研究方法を検討し、研究計画書を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習ガイダンス	フィールドワークにおけるデータ収集と演習方法	伊藤・後藤
2 - 3	精神保健、精神看護における研究課題	精神保健、精神看護における研究課題の発表	伊藤・後藤
4 - 5	研究課題の明確化①	研究課題における研究の動向の検討①	伊藤・後藤
6 - 7	研究課題の明確化②	研究課題における研究の動向の検討②	伊藤・後藤
8 - 9	研究課題の明確化③	研究課題における研究の動向の検討③	伊藤・後藤
10 - 11	研究デザイン①	研究課題を明らかにするための研究の方法についての検討①	伊藤・後藤
12 - 13	研究デザイン②	研究課題を明らかにするための研究の方法についての検討②	伊藤・後藤
14 - 15	フィールドワークおよび予備調査	フィールドワークおよび予備調査に関する計画立案	伊藤・後藤
16 - 17	フィールドワーク①	観察法やインタビュー調査を用いた演習①	伊藤・後藤
18 - 19	フィールドワーク②	観察法やインタビュー調査を用いた演習②	伊藤・後藤
20 - 21	フィールドワーク③	観察法やインタビュー調査を用いた演習③	伊藤・後藤
22 - 23	フィールドワーク④	フィードバック・予備調査結果の分析①	伊藤・後藤
24 - 25	フィールドワーク⑤	フィードバック・予備調査結果の分析②	伊藤・後藤
26 - 27	研究計画書の作成	フィールドワーク・予備調査結果をふまえた研究計画書の作成	伊藤・後藤

【６】　事前・事後学習とその時間
ゼミナール形式で討議を行ったのちに、関心のある領域の視点に基づいてフィールドワークを実施する。
フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し自己の研究課題を深める。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準
課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
講義内で講評や解説を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書
必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書
必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing Ⅰ	必修	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学部研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

公衆衛生看護の定義・概念・理念を踏まえて、公衆衛生看護の歴史的変遷を概観し、公衆衛生看護に関わる理論、公衆衛生活動の展開と評価方法について学ぶことで、今後の公衆衛生看護の課題と展望を探求する。

【３】　到達目標

１．公衆衛生看護の定義・概念・理念について理解し、公衆衛生看護の現状を分析的に述べることができる。
２．社会状況の変化や法制度の変遷を踏まえて、公衆衛生看護活動の変遷について述べることができる。
３．公衆衛生看護の現状を、理論や評価指標により分析・評価し、課題を述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護の概念1	公衆衛生看護の定義・概念・理念1	岸
3	公衆衛生看護の概念2	公衆衛生看護の定義・概念・理念2	岸
4	公衆衛生看護の概念3	公衆衛生看護の構成要素1	岸
5	公衆衛生看護の概念4	公衆衛生看護の構成要素2	岸
6	公衆衛生看護活動の変遷1	公衆衛生看護活動の変遷1	岸
7	公衆衛生看護活動の変遷2	公衆衛生看護活動の変遷2	岸
8	公衆衛生看護活動の変遷3	公衆衛生看護活動の変遷3	岸
9	公衆衛生看護活動の変遷4	公衆衛生看護活動の変遷4	岸
10	公衆衛生看護活動の課題1	公衆衛生看護活動の課題1	岸
11	公衆衛生看護活動の課題2	公衆衛生看護活動の課題2	岸
12	公衆衛生看護活動の課題3	公衆衛生看護活動の課題3	岸
13	公衆衛生看護活動の課題4	公衆衛生看護活動の課題4	岸
14	公衆衛生看護に関わる理論1	コミュニティ・アズ・パートナーモデル1	岸
15	公衆衛生看護に関わる理論2	コミュニティ・アズ・パートナーモデル2	岸
16	公衆衛生看護に関わる理論3	プリシード・プロシードモデル1	岸
17	公衆衛生看護に関わる理論4	プリシード・プロシードモデル2	岸
18	公衆衛生看護に関わる理論5	ミネソタ・ホイールモデル1	岸
19	公衆衛生看護に関わる理論6	ミネソタ・ホイールモデル2	岸
20	公衆衛生看護活動の展開と評価1	公衆衛生看護活動の展開1	岸
21	公衆衛生看護活動の展開と評価2	公衆衛生看護活動の展開2	岸
22	公衆衛生看護活動の展開と評価3	公衆衛生看護活動の評価1	岸
23	公衆衛生看護活動の展開と評価4	公衆衛生看護活動の評価2	岸
24	公衆衛生看護研究1	公衆衛生看護学の量的研究1	岸
25	公衆衛生看護研究2	公衆衛生看護学の量的研究2	岸
26	公衆衛生看護研究3	公衆衛生看護学の質的研究1	岸
27	公衆衛生看護研究4	公衆衛生看護学の質的研究2	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【10】　参考書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【11】　備考(関連科目等)

学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験をふまえグループ討議を行う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Public Health NursingⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）望月由紀子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸　恵美子　emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp 望月由紀子　yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

文献検討やフィールドワークを通して関心がある公衆衛生看護学領域の健康課題を明らかにし、課題解決のための方法を多面的に検討し、研究計画の立案のプロセスを通して研究方略を探求する。

【３】　到達目標

１．文献検討を行い関心がある公衆衛生看護学分野における健康課題を選定し述べることができる。
２．関連する組織・地域でフィールドワークを行い、必要なデータ収集と分析の結果を説明できる。
３．健康課題を解決するための方法を多目的に検討して、自身の研究計画を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義のガイダンス	本講義の目的と進め方	岸、望月
2	健康課題の抽出1	公衆衛生看護活動における健康課題の抽出1	岸、望月
3	健康課題の抽出2	公衆衛生看護活動における健康課題の抽出2	岸、望月
4	健康課題の抽出3	公衆衛生看護活動における健康課題の抽出3	岸、望月
5	健康課題の抽出4	公衆衛生看護活動における健康課題の抽出4	岸、望月
6	演習課題の立案1	演習計画についてのプレゼンテーション1	岸、望月
7	演習課題の立案2	演習計画についてのプレゼンテーション2	岸、望月
8	フィールドワーク　データ収集1	フィールドワーク1（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
9	フィールドワーク　データ収集2	フィールドワーク2（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
10	フィールドワーク　データ収集3	フィールドワーク3（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
11	フィールドワーク　データ収集4	フィールドワーク4（インタビュー、参加観察、基本情報の収集）	岸、望月
12	フィールドワーク分析1	フィールドワークで収集したデータの分析1	岸、望月
13	フィールドワーク分析2	フィールドワークで収集したデータの分析2	岸、望月
14	フィールドワーク分析3	フィールドワークで収集したデータの分析3	岸、望月
15	フィールドワーク分析4	フィールドワークで収集したデータの分析4	岸、望月
16	フィールドワーク分析5	フィールドワークで収集したデータの分析5	岸、望月
17	フィールドワーク分析6	フィールドワークで収集したデータの分析6	岸、望月
18	フィールドワークの評価1	フィールドワークで収集したデータの分析結果の評価1	岸、望月
19	フィールドワークの評価2	フィールドワークで収集したデータの分析結果の評価2	岸、望月
20	フィールドワークの評価3	フィールドワークで収集したデータの分析結果の評価3	岸、望月
21	フィールドワークの評価4	フィールドワークで収集したデータの分析結果の評価4	岸、望月
22	フィールドワークの評価5	フィールドワークで収集したデータの分析結果の評価5	岸、望月
23	フィールドワークの評価6	フィールドワークで収集したデータの分析結果の評価6	岸、望月
24	フィールドワークの成果1	健康課題を解決するための具体的方策の提案1	岸、望月
25	フィールドワークの成果2	健康課題を解決するための具体的方策の提案2	岸、望月
26	フィールドワークの成果3	健康課題を解決するための具体的方策の提案3	岸、望月
27	フィールドワークの成果4	健康課題を解決するための具体的方策の提案4	岸、望月

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【9】　教科書

必要に応じ、その都度提示する。

【10】　参考書

必要に応じ、その都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。
学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験を踏まえグループ討議を行う。
授業形態は対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、ZOOM を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**国際保健学特論Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Global Health Ⅰ	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

・国際保健活動の対象理解に役立つ科目である。文献講読、発表、討論を通してActive thinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。受講生の興味関心を活かし、各回テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。

【３】　到達目標

1.国際保健・看護の概念を歴史的変遷を踏まえて説明できる
2.国際保健・看護の対象の特徴を説明できる
3.国際保健が取り組むべき健康課題の重要性について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-4	国際保健/看護の概念	国際的視点からみた医療・看護の歴史的変遷	夏原
5-6	人類生態学の視点から１	生態系におけるヒトの特徴	夏原
7-8	人類生態学の視点から２	生態系の特徴と食	夏原
9-10	人類生態学の視点から３	生態系の特徴と身体・行動	夏原
11-12	人類生態学の視点から４	生態系の特徴と集団	夏原
13-14	人類生態学の視点から５	環境への適応と健康	夏原
15-16	人類生態学の視点から６	環境への適応と医療	夏原
17-18	人類生態学の視点から７	環境問題の本質	夏原
19-20	世界の健康課題の背景	人類生態学の視点からみた整理	夏原
21-22	国際保健活動の対象の特徴	・歴史・地理的特徴 ・保健医療の状況における特徴 ・特殊な状況における活動とその特徴	夏原
23-26	国際保健学が取り組むべき課題	Population issue, Communucable diseases, Non communucable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, などからトピックを選び、なぜその課題に取り組む必要があるのかをまとめる	夏原
27	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
・毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

・ディスカッションで授業を進めるため、履修登録人数によっては開講しない年もある。
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**国際保健学特論Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Global Health Ⅱ	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

・国際保健活動の方法を理解するのに役立つ授業である。文献講読、発表、討論を通してActive thinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。受講生の興味関心を活かし、各回テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。

【３】　到達目標

1.国際保健活動に関するデータ収集、分析、計画立案に関する代表的な方法論を説明できる。
2.特定の健康課題への対応方法について、背景にある状況を関連付けながら根拠とともに説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	オリエンテーション	授業の進め方とねらいを理解する	夏原
3-4	健康とデータ1	健康課題の探索とデータ	夏原
5-6	健康とデータ2	データ測定と分析	夏原
7-8	健康と文化1	文化が健康に影響を与える経路	夏原
9-10	健康と文化2	異文化理解と看護理論	夏原
11-12	健康と文化3	文化的影響を考慮した健康課題への取り組み	夏原
13-16	PHC	PRIMARY HEALTH CARE: 25 YEARS AFTER ALMA-ATA PHCの変遷	夏原
17-18	PRECEDE-PROCEED Model	モデルの概説	夏原
19-22	Project cycle management	モデルの概説とプロジェクト	夏原
23-26	フィールドワーク論	調査・研究の現状と課題	夏原
27	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間
・30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
・毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準
毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・ディスカッションで授業を進めるため、履修登録人数によっては開講しない年もある。
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**国際保健学演習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Global Health Ⅰ	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健・看護の活動・研究に用いられる様々な方法についての基本を習得し、アセスメント力をつけるための科目である。方法論について学んだ後、データ収集からまとめまでを実際に体験する。

【３】　到達目標

1.疫学、人口学、栄養学、文化人類学等の調査方法論について、その特徴を説明できる。
2.状況に応じて適切な調査方法論を選択することができる。
3.基本的なデータの収集ができる。
4.データにあった分析、まとめをスーパーバイズのもとでできる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-4	Research strategies in human biology	Planning a research project (Chap.1)	夏原
5-6	Research strategies in human biology	Research designs and sampling strategies (Chap.2)	夏原
7-8	Research strategies in human biology	Biocultural studies of ethnic groups (Chap.3)	夏原
9-10	Research strategies in human biology	Migration (Chap.4)	夏原
11-12	Research strategies in human biology	Nutritional studies in biological anthropology (Chap.6)	夏原
13-14	Research strategies in human biology	Historical demography and population structure (Chap.7)	夏原
15-16	Research strategies in human biology	Writing for publication (Chap.8)	夏原
17-24	調査方法	調査演習：人口調査、身体計測、食事調査、行動調査、インタビュー調査	夏原
25-27	まとめ	演習報告会（演習レポート作成・プレゼンテーション）	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
・毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。

【７】　評価方法・基準

毎回の課題40%、授業参加態度20%、演習レポート20%、最終プレゼンテーション20%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書

Lasker,G.W.,& Mascie-Taylor,C.N.(Eds.).Research strategies in human biology: field and survey studies(Vol.13).Cambridge University Press.(1993)
渡辺知保他.人間の生態学.朝倉書店.(2011)その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【10】　参考書

必要時、文献、書籍等を提示する。

【11】　備考(関連科目等)

・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	国際保健学演習Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Global Health Ⅱ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健活動・研究分野の興味関心のあるテーマについてレビューができるようになる授業である。テーマについての論文抄読と発表、ディスカッションを通してCritical thinking能力をつける。

【３】　到達目標

1.国際的な国際保健・看護分野の文献から自分の興味関心に沿った情報を取得できる。
2.文献から必要な情報を抽出できる。
3.抽出した情報に照らし合わせて自分の研究テーマがFINERかを吟味し修士論文の計画書に活かすことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
3-6	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（論旨一貫性）	夏原
7-8	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（図表）	夏原
9-10	論文の読み方	Systematic reviewsの読み方	夏原
11-25	論文講読	文献検討と発表 Abstract, Introduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A4用紙２枚の資料を準備する。	夏原
26-27	まとめ	リフレクション、リフレーミング	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。
・興味のあるテーマに関して文献検索し、内容を把握して発表する。他の学生の発表する論文についても内容を把握し、互いに質問しあうこと。

【７】　評価方法・基準
毎回の課題40%、授業参加態度20%、レビュー結果のまとめ40%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
毎回授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・論文を選択する際には、international journalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。
・事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名(日本語)	**感染制御学演習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Infection Control and PreventionⅡ	選択	演習	2年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp 勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp 金坂伊須萌izumo■med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	小林寅喆毎週木曜日12：15-13：15 勝瀬明子毎週木曜日12：15-13：15 金坂伊須萌毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染および市中感染の起炎菌の抗菌薬耐性機序の解析と使用抗菌薬との関連を検証する。病院感染の原因菌の伝播経路の解析方法を学び、結果を考察し実践への応用について検討する。

【３】　到達目標

1. 抗菌薬耐性菌の生じる仕組みと耐性機構について具体的に述べることができる。
2. 病院内および市中に分布する耐性菌を調査し菌株間の関連性を解析する分子遺伝学的手法を実施することができ、その結果を解析することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策①	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討①	小林・勝瀬
2	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策②	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討②	小林・勝瀬
3	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策③	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討③	小林・勝瀬
4	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策④	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討④	小林・勝瀬
5	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策⑤	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討⑤	小林・勝瀬
6	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策⑥	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討⑥	小林・勝瀬
7	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法①	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得①	小林・勝瀬
8	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法②	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得②	小林・勝瀬
9	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法③	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得③	小林・勝瀬
10	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法④	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得④	小林・勝瀬
11	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法⑤	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得⑤	小林・勝瀬
12	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法⑥	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得⑥	小林・勝瀬
13	演習内容の研究テーマへの活用①	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証①	小林・勝瀬
14	演習内容の研究テーマへの活用②	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証②	小林・勝瀬
15	演習内容の研究テーマへの活用③	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証③	小林・勝瀬
16	演習内容の研究テーマへの活用④	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証④	小林・勝瀬
17	演習内容の研究テーマへの活用⑤	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証⑤	小林・勝瀬
18	演習内容の研究テーマへの活用⑥	研究概要の整合性と妥当性の検証①	小林・勝瀬
19	演習内容の研究テーマへの活用⑦	研究概要の整合性と妥当性の検証②	小林・勝瀬
20	演習内容の研究テーマへの活用⑧	研究概要の整合性と妥当性の検証③	小林・勝瀬
21	演習内容の研究テーマへの活用⑨	研究概要の整合性と妥当性の検証④	小林・勝瀬
22	演習内容の研究テーマへの活用⑩	研究概要の整合性と妥当性の検証⑤	小林・勝瀬
23	演習内容の研究テーマへの活用⑪	研究計画書の内容について討議①	小林・勝瀬
24	演習内容の研究テーマへの活用⑫	研究計画書の内容について討議②	小林・勝瀬
25	演習内容の研究テーマへの活用⑬	研究計画書の内容について討議③	小林・勝瀬
26	演習内容の研究テーマへの活用⑭	研究計画書の内容について討議④	小林・勝瀬
27	演習内容の研究テーマへの活用⑮	研究計画書の内容について討議⑤	小林・勝瀬

【６】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み(80%)、研究(実験)の成果(20%)で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。
必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。
感染制御学特論Ⅱ、感染制御学演習Ⅰで学習した内容、実験手技について復習しておくこと。
医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて情報を集め調べておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名(日本語)	**心理学研究特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Psychology Research	選択	講義	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子keiko.itou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google classroom,zoom,pc

【２】　授業概要

心理学全般に関する研究原理を概説し、次に分野ごとの代表的な研究例を参照しながら研究方法を教授する。対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について基本的な知識を体系的に学び、自らの看護実践や研究への心理学の活用について検討する。

【３】　到達目標

1. 心理学全般に関する研究原理の基礎的な知識について述べることができる。
2. 対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について概要を説明できる。
3. 臨床心理学における心理査定法、心理療法、研究法について述べることができる。
4. 心理学の基礎的な知識を活用した、研究の構想について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程４．科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけ、各専門分野における課題を探究し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	心理学概論①	オリエンテーション、心理学研究の動向	伊藤
2	心理学概論②	心理学における研究法	伊藤
3	心理学概論③	感覚	伊藤
4	心理学概論④	知覚	伊藤
5	心理学概論⑤	認知・記憶	伊藤
6	心理学概論⑥	学習	伊藤
7	心理学概論⑦	感情	伊藤
8	心理学概論⑧	動機づけ	伊藤
9	心理学概論⑨	パーソナリティ	伊藤
10	心理学概論⑩	発達心理	伊藤
11	心理学概論⑪	社会心理（対人認知）	伊藤
12	心理学概論⑫	社会心理（援助行動・リーダーシップ）	伊藤
13 - 14	心理尺度の開発	心理尺度の開発	伊藤
15	心理尺度の活用	心理尺度の活用	伊藤
16 - 17	心理統計	統計ソフトJMPの基本的な使い方	伊藤
18 - 20	心理学研究の実際①	心理学の理論を活用した研究	伊藤
21 - 23	心理学研究の実際②	心理学を看護に応用した研究	伊藤
24 - 26	心理学を活用した研究の構想	心理学の基礎的な知識を活用した研究の構想	伊藤
27	まとめ	授業の総括	伊藤

【６】　事前・事後学習とその時間

講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。
事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

文献学習（20%）、課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解説を伝え、課題を共有する。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

原則としてzoomを用いたリアルタイム配信の遠隔形式で講義を行う。

科目名(日本語)	**社会学研究特論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Sociology Research	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	森岡　崇				
担当教員	森岡　崇（慶應義塾志木高等学校　教諭）				
科目責任者 連絡先(教室)	森岡　崇　morioka ■ shiki.keio.ac.jp ※■を @ に置き換える。				
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、またはPC

【２】　授業概要

「社会って何だろう？」これは、なかなか答えるのが難しい問いである。しかし、ベッドサイドも病院も、すべてこの「社会」に含まれる。したがって、看護研究の実践に際しても、一度立ち止まって考えてみる価値がある問いだといえよう。本講義では、テキストをもとに社会学の基礎を学びながら、実践研究へつながる道筋をイメージできるようにすることを目的とする。履修に際し社会学の基礎知識は一切不要である。しかし、自分自身に興味関心を持ち続けることを忘れずに。意外に思われるかもしれないが、社会を読み解く際のカギとなるものといえよう。

【３】　到達目標

１．病床も含めた社会のとらえ方について、基礎的資格を得ることができる。
２．社会のとらえ方を学ぶことで、新たな視点による臨床現場への理解を深めることができる。
３．数値になりにくい現象を、理解する能力を高めることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程１．専門的知識を基に、高度な看護実践を提供できる能力や研究者としての基礎的能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

博士前期課程５．国際的視野を持ち、多様な価値観を尊重し、高度な看護実践、研究活動を通して社会に貢献できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	社会学概論①	ガイダンス	森岡
2	社会学概論②	社会とは何か？	森岡
3	社会学概論③	社会とは何か？	森岡
4	社会学概論④	社会学はなにができるのか ―発想の違い	森岡
5	社会学概論⑤	社会学はなにができるのか ―日常性へのまなざし	森岡
6	社会学概論⑥	社会学はなにができるのか ―日常性へのまなざし	森岡
7	調査方法論①	グラウンデッド・セオリー1	森岡
8	調査方法論②	グラウンデッド・セオリー2	森岡
9	調査方法論③	グラウンデッド・セオリー3	森岡
10	発表①	文献輪読	森岡
11	発表②	文献輪読	森岡
12	演習①	データ分析	森岡
13	発表③	文献輪読	森岡
14	発表④	文献輪読	森岡
15	演習②	データ分析	森岡
16	発表⑤	文献輪読	森岡
17	発表⑥	文献輪読	森岡
18	演習③	インタビュー実習	森岡
19	発表⑦	文献輪読	森岡
20	発表⑧	文献輪読	森岡
21	演習④	データ分析	森岡
22	発表⑨	文献輪読	森岡
23	発表⑩	文献輪読	森岡
24	演習⑤	データ分析	森岡
25	発表⑪	文献輪読	森岡
26	発表⑫	文献輪読	森岡
27	まとめ	社会学の可能性	森岡

【6】　事前・事後学習とその時間

対面形式で実施する。
理論的な部分に関しては、講義形式をとる。演習は看護研究の作品を読み込む。また、可能であれば、質的なデータ収集、分析についての演習も取り入れる。各自の研究テーマに基づく発言を期待する。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、各自の分担課題についてのプレゼンテーション（30%）、最終課題レポート（50%）により総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

レポート、あるいは授業中のプレゼンテーションをSABCの４段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

『「あたりまえ」を疑う社会学　質的調査のセンス』好井裕明、光文社新書
『戦いの軌跡-小児がんによる子どもの喪失と母親の成長』戈木クレイグヒル滋子、川島書店
その他、授業で提示する。

【10】　参考書

『死のアウェアネスと看護 ―死の認識と終末期ケア』B. グレイザー&A. ストラウス 木下康仁（訳）、医学書院
『質的研究の基礎 第3版』J. コービン&A. ストラウス 操華子・森岡崇（訳）、医学書院
『フィールドワークの技法』佐藤郁哉、新曜社
『暴走族のエスノグラフィー―モードの叛乱と文化の呪縛』佐藤郁哉、新曜社

【11】　備考(関連科目等)

社会学の基礎知識は一切不要。
正解が見えない領域に入って行く。「社会って何だろう？」「わたしって何だろう？」といった問いをグルグル考え続けるのが好きな方、自分自身に興味を持っている方の履修を期待する。

科目名(日本語)	**看護学研究法特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Methods for Nursing Sciences and Arts	必修	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	坂本　なほ子				
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授）　野口麻衣子（東京科学大学・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:45～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

看護研究に必要とされる知識を身につけ、研究テーマに即した方法を応用できるような実践的かつ倫理的な看護研究者を育成する。

【３】　到達目標

看護研究に必要とされる方法論と実践的アプローチ法を説明できる。
研究目的に適した研究方法を理解し応用し、研究対象を的確に把握、分析、解釈できる。
研究成果を看護学に応用するための知識・技術・態度を身につけ、実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション・自己紹介	オリエンテーション、各自の修士論文について自己紹介を兼ねて紹介する	坂本
2	研究プロセス①	研究問題と研究目的	坂本
3	研究プロセス②	目標、疑問、仮説および研究変数	坂本
4	研究プロセス③	文献レビュー、枠組み	坂本
5	研究プロセス④	量的方法論	坂本
6	研究プロセス⑤	量的方法論	坂本
7	研究プロセス⑥	アウトカム研究、ミクスドメソッド研究	坂本
8	研究プロセス⑦	標本抽出法	坂本
9	研究プロセス⑧	量的測定の概念	坂本
10	研究プロセス⑨	その他の測定方法	坂本
11	データの収集と分析①	データの収集と管理、統計解析概論	坂本
12	データの収集と分析②	記述統計、分析統計	坂本
13	質的研究について①	講義	野口
14	質的研究について	講義	野口
15	輪読	輪読とディスカッション	野口
16	輪読	輪読とディスカッション	野口
17	初期段階のコーディング	演習	野口
18	輪読	輪読とディスカッション	野口
19	焦点化のためのコーディング	演習	野口
20	輪読	輪読とディスカッション	野口
21	理論的分類、ダイアグラム化、統合	演習	野口
22	輪読	輪読とディスカッション	野口
23	輪読	輪読とディスカッション	野口
24	輪読	輪読とディスカッション	野口
25	データの収集と分析③	推測統計	坂本
26	データの収集と分析④	推測統計	坂本
27	研究計画書	研究計画書の作成	坂本

【6】 事前・事後学習とその時間

講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。
60時間の時間外学習を行うこと。

【7】 評価方法・基準

課題への取り組み(40%)，レポート(60%)から総合的に評価する。

【8】 フィードバック方法

レポート内容を3段階で評価し、返却する。

【9】 教科書

バーンズ&グローブ（著），黒田裕子他（翻訳），看護研究入門　原著第9版，ELSEVIER.（2023）
キャシー・シャーマズ Kathy Charmaz（著），岡部 大祐（翻訳）．グラウンデッド・セオリーの構築[第2版]，ナカニシヤ出版.（2013）

【10】　参考書

講義にて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

自身の修士論文について再確認しておくこと。
授業はZoomを用いたリアルタイム配信授業を行う。

科目名(日本語)	**感染制御学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Infection Control and Prevention	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

関連文献やガイドラインを用い、ディスカッション、および学生によるプレゼンテーションを中心に行う。

【３】　到達目標

1.臨床微生物学に関する知識を基礎として、感染症ならびにその制御の視点から、医療施設における感染管理に応用し実施できる。
2.病院内に限らず地域の医療現場における安全性を保証すること、および、流行する新興・再興感染症の制圧に寄与することを目的とし、時代とともに変化する感染症とその制御への問題解決に対応できる研究を遂行するための基礎的知識を習得し説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ヒトと感染症①	微生物の分布およびヒトとの関わり	小林
2	ヒトと感染症②	臨床において問題となる微生物とその性状①	小林
3	ヒトと感染症③	臨床において問題となる微生物とその性状②	小林
4	ヒトと感染症④	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わり①	小林
5	ヒトと感染症⑤	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わり②	小林
6	感染症の予防と対策①	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法①	小林
7	感染症の予防と対策②	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法②	小林
8	感染症診断と感染対策①	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈①	小林
9	感染症診断と感染対策②	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈②	小林
10	感染症診断と感染対策③	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法①	小林
11	感染症診断と感染対策④	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法②	小林
12	感染症診断と感染対策⑤	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用①	小林
13	感染症診断と感染対策⑥	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用②	小林
14	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)①	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズム①	小林
15	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)②	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズム②	小林
16	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)③	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性①	小林
17	化学療法、抗菌薬耐性菌(AMR)④	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性②	小林
18	AMRの特性と感染制御①	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組み①	小林
19	AMRの特性と感染制御②	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組み②	小林
20	AMRの特性と感染制御③	医療関連施設感染における耐性菌とその問題	小林
21	サーベイランス	アウトブレイクを察知するサーベイランス手法	小林
22	領域別感染症の特性と感染制御①	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策①	小林
23	領域別感染症の特性と感染制御②	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策②	小林
24	ガイドライン①	医療関連施設感染に関する主なガイドライン①	小林
25	ガイドライン②	医療関連施設感染に関する主なガイドライン②	小林
26	まとめ①	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などの発表および質疑応答①	小林
27	まとめ②	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などの発表および質疑応答②	小林

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(70%)、研究プロトコールおよびプレゼンテーション(30%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式にて実施する。
やむを得ず遠隔形式に切り替える場合は、到達目標のもと、本授業計画に沿ってMoodle,zoom等を用い授業を行う。
。
講義を基盤にゼミナール形式で行う。
過去に学習した感染と防御(予防)に関連した内容について復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症から世界で問題となっている感染症および抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。

科目名(日本語)	**感染制御学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Infection Control and Prevention	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	小林　寅喆				
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	小林寅喆毎週木曜日12：15-13：15				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

主要な病原微生物を用いた実験と解析を中心に演習を行う。

【３】　到達目標

1.感染制御学特講を基盤に医療関連感染の実態を把握するための知識と技術を身につけ実施できる。
2.抗菌薬耐性菌が生じるメカニズムと伝播経路を理解し、適切な遮断の実行に結びつけ実施できる。
3.病院感染やアウトブレイクの発生をとらえる各種サーベイランス方法を踏まえ、疫学的側面から解析するための知識および技術を身に着けることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染予防策	WHOのバイオセーフティー概念について解説する。レベル別感染予防策と標準予防具の使用法、性能について実際に評価し理解する。	小林
2	抗菌薬適正使用①	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 －抗菌薬－	小林
3	抗菌薬適正使用②	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 －消毒薬－	小林
4	感染症診断①	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。1.各種染色	小林
5	感染症診断②	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。2.培養同定	小林
6	感染症診断③	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。3.迅速診断	小林
7	化学療法①	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。1.MIC測定	小林
8	化学療法②	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。2.殺菌曲線	小林
9	抗菌薬耐性(AMR)①	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。1.耐性菌の選択・誘導	小林
10	抗菌薬耐性(AMR)②	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。2.菌交代現象	小林
11	感染領域別サーベイランスの実際①	感染管理に必須の各種サーベイランス(血流感染、術後感染)を実際の成績を用いて解析する。	小林
12	感染領域別サーベイランス②	感染管理に必須の各種サーベイランス(人工呼吸器肺炎、耐性菌)を実際の成績を用い解析する。	小林
13	演習内容の研究テーマへの活用①	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
14	演習内容の研究テーマへの活用②	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
15	演習内容の研究テーマへの活用③	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
16	演習内容の研究テーマへの活用④	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
17	演習内容の研究テーマへの活用⑤	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
18	演習内容の研究テーマへの活用⑥	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
19	演習内容の研究テーマへの活用⑦	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
20	演習内容の研究テーマへの活用⑧	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
21	演習内容の研究テーマへの活用⑨	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
22	演習内容の研究テーマへの活用⑩	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
23	演習内容の研究テーマへの活用⑪	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
24	演習内容の研究テーマへの活用⑫	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
25	演習内容の研究テーマへの活用⑬	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
26	演習内容の研究テーマへの活用⑭	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林
27	演習内容の研究テーマへの活用⑮	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み(80%)、研究(実験)の成果(20%)で総合的に評価する。

【8】　フィードバック方法

授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【9】　教科書

なし

【10】　参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting.30thed.CLSIsupplementM100,2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

対面形式で実施する。
実験を主体とし、結果に対する考察をゼミナール形式で行う。
感染制御学特講で学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて調べておくこと。
医療関連感染に関する研究テーマについて具体的にあげ、必要な研究法について参考となる文献を準備しておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名(日本語)	**高齢者看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Gerontological Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

高齢者を取り巻く我が国の現状を整理しながら、看護師を含むケア提供者たちが抱える問題に着目し、解決のための方策を見出すための研究について討議していく。

【３】　到達目標

1. 高齢者に関するさまざまな調査報告書から現状分析ができる。
2. 医療ケア提供システムについて理解し、倫理的問題を含むさまざまな課題について述べることができる。
3. 高齢者看護の実践を支える理論について説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者と社会1	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する	横井
2	高齢者と社会2	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する	横井
3	医療ケア提供システムの現状1	医療保険と高齢者看護	横井
4	医療ケア提供システムの現状2	医療保険と高齢者看護	横井
5	医療ケア提供システムの現状3	医療保険と高齢者看護	横井
6	医療ケア提供システムの現状4	介護保険と高齢者看護	横井
7	医療ケア提供システムの現状5	介護保険と高齢者看護	横井
8	医療ケア提供システムの現状6	介護保険と高齢者看護	横井
9	高齢者看護学を支える理論1	理論に関する文献検討	横井
10	高齢者看護学を支える理論2	理論に関する文献検討	横井
11	高齢者看護学を支える理論3	理論に関する文献検討	横井
12	高齢者看護学を支える理論4	理論に関する文献検討	横井
13	高齢者看護学を支える理論5	理論に関する文献検討	横井
14	高齢者看護学を支える理論6	理論に関する文献検討	横井
15	高齢者看護学を支える理論7	理論に関する文献検討	横井
16	高齢者看護学を支える理論8	理論に関する文献検討	横井
17	高齢者看護学と倫理1	エイジズムと看護実践	横井
18	高齢者看護学と倫理2	エイジズムと看護実践	横井
19	高齢者看護学と倫理3	安全と看護実践ー身体抑制の現状と課題ー	横井
20	高齢者看護学と倫理4	安全と看護実践ー身体抑制の現状と課題ー	横井
21	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて1	「プロセス」を支えるとは	横井
22	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて2	「プロセス」を支えるとは	横井
23	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて3	「プロセス」を支えるとは	横井
24	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて4	「プロセス」を支えるとは	横井
25	高齢者看護学の課題1	発表・討議	横井
26	高齢者看護学の課題2	発表・討議	横井
27	高齢者看護学の課題3	発表・討議	横井

【6】　事前・事後学習とその時間

最新の高齢者に関わる医療制度、介護保険制度の事前学習をすませておくこと。
30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【7】　評価方法・基準

授業への取組み40%、レポート60%
レポートについてはA,B,Cの3段階で評価し、返却する。

【8】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【9】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

文献講読を中心にセミナー形式ですすめる。
対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。

2024年度

科目名(日本語)	**地域看護・ケアシステム特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【３】　到達目標

１．概念分析の哲学的基盤を理解した上で、地域看護学・ケアシステム関連分野の概念を科学的に分析する方法を具体的に説明できる。
２．文献レビューを通じて、現在の概念の用いられ方を根拠を示しながら説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方、	岸
2	概念の哲学的基盤	地域看護学における概念	岸
3	概念の哲学的基盤	概念の哲学的基盤（1）	岸
4	概念の哲学的基盤	概念の哲学的基盤（2）	岸
5	概念分析	概念分析（1）	岸
6	概念分析	概念分析（2）	岸
7	概念分析	概念分析（3）	岸
8	概念分析	概念分析（4）	岸
9	概念分析	概念分析（5）	岸
10	概念分析	概念分析（6）	岸
11	概念分析	概念分析（7）	岸
12	メタ統合	統合的レビュー（1）	岸
13	メタ統合	統合的レビュー（2）	岸
14	メタ統合	メタ統合(1)	岸
15	メタ統合	メタ統合(2)	岸
16	メタ統合	メタ統合(3)	岸
17	メタ統合	メタ統合(4)	岸
18	メタ統合	メタ統合(5)	岸
19	メタ統合	メタ統合(6)	岸
20	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（1）	岸
21	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（2）	岸
22	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（3）	岸
23	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（4）	岸
24	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（5）	岸
25	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（6）	岸
26	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（7）	岸
27	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討（8）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。
30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
学習成果をレポートとしてまとめ提出する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書

RodgersBL,KnaflKA.(2000).ConceptsDevelopmentinNursing.

【10】　参考書

RodgersBL,KnaflKA.(2000).ConceptsDevelopmentinNursing.

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

2024年度

科目名(日本語)	**地域看護・ケアシステム演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Community Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【３】　到達目標

１．文献の講読やフィールドワークを通じて、地域の健康課題を抽出できる。
２．個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した地域看護活動の展開方法を具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護活動の展開	地域看護におけるアセスメント	岸
3	地域看護活動の展開	地域看護計画の立案(1)	岸
4	地域看護活動の展開	地域看護計画の立案(2)	岸
5	地域看護活動の展開	地域看護における評価と科学的根拠(1)	岸
6	地域看護活動の展開	地域看護における評価と科学的根拠(2)	岸
7	地域看護活動の展開	地域看護におけるリーダーシップ	岸
8	地域看護活動の展開	地域ケアシステムの構築(1)	岸
9	地域看護活動の展開	地域ケアシステムの構築(2)	岸
10	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討（1）	岸
11	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討（2）	岸
12	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討（3）	岸
13	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討（4）	岸
14	フィールドワーク	フィールドワーク（1）	岸
15	フィールドワーク	フィールドワーク（2）	岸
16	フィールドワーク	フィールドワーク（3）	岸
17	フィールドワーク	フィールドワーク（4）	岸
18	フィールドワーク	フィールドワーク（5）	岸
19	フィールドワーク	フィールドワーク（6）	岸
20	フィールドワーク	フィールドワーク（7）	岸
21	フィールドワーク	フィールドワーク（8）	岸
22	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（1）	岸
23	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（2）	岸
24	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（3）	岸
25	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（4）	岸
26	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（5）	岸
27	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討（6）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

英語の書籍の精読を基にしたプレゼンテーションとフィールドワークよりすすめる。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。　30 時間
の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。　学習の成果をプレゼン
テーションおよびレポートとして提出する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、3段階で評価し返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書
別途提示する。

【10】　参考書
別途提示する。

【11】　備考(関連科目等)
事前に予習をして講義に臨むこと。

2024年度

科目名(日本語)	**地域看護健康政策特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing/ health policy	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

院生が、今までに経験し、かつ関心を持つフィールドを題材にして、文献などにより健康政策の現状、問題点・課題を明示し、新たな方策案までをプレゼンテーションし討論する。
学生の主体的発表を組み合わせて行い、発表･討論を重視する。

【３】　到達目標

１．健康政策に関する理念、発展過程およびその背景、展開方法などを多面的に把握し、問題分析と評価の方法が説明できる。
２．新たな政策課題について根拠を示しながら説明できる。
２．課題解決のための研究・実践について具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	健康政策	わが国の健康政策の理念と変遷	岸
3	健康政策	健康政策の発展過程とその背景	岸
4	健康政策	健康政策の発展過程とその理論	岸
5	健康政策	健康政策の発展過程とその理論	岸
6	文献検討	各種制度の背景、理念	岸
7	文献検討	各種制度の背景、理念	岸
8	文献検討	各種制度の発展過程	岸
9	文献検討	各種制度の発展過程	岸
10	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（1）	岸
11	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（2）	岸
12	文献検討	各種制度の問題分析・評価（3）	岸
13	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（4）	岸
14	文献検討・フィールド研究	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(1)	岸
15	文献検討・フィールド研究	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(2)	岸
16	フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（1）	岸
17	フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（2）	岸
18	フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（3）	岸
19	フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（4）	岸
20	フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（5）	岸
21	フィールド研究	各種制度の問題分析・評価（6）	岸
22	成果発表・討論	各種制度の問題分析・評価（1）	岸
23	成果発表・討論	各種制度の問題分析・評価（2）	岸
24	成果発表・討論	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(1)	岸
25	成果発表・討論	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言(2)	岸
26	成果発表・討論	健康政策と地域看護活動(1)	岸
27	成果発表・討論	健康政策と地域看護活動(2)	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

文献検討は学生が主体的に学習する。院生各自のフィールド題材の発表で教員はコメンテーターの役割を担う。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。
30時間の講義に対して60時間の時間外学習を行う。
学習成果はレポートにまとめ提出する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

レポート内容を3段階で評価し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。

【９】　教科書
教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【10】　参考書
教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【11】　備考(関連科目等)
事前に予習をして講義に臨むこと。

2024年度

科目名(日本語)	**地域看護・健康政策演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Community Health Nursing /Health Policy	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、12:30～13:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ、地域看護分野のさまざまな場面で活用、応用できる資質を形成する。

【３】　到達目標

１．健康政策の変遷を踏まえつつ、地域保健法や介護保険法などの健康政策について、制度の実践活動事例にあたり、健康政策を具現化するための発展過程およびそこに求められる知識・技術を説明できる。
２．政策化するための過程、計画立案、評価など、地域看護の専門家として必要な研究態度、知識、技術について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と進め方	岸
2	政策形成過程	政策化、施策化、事業化とは（文献研究）	岸
3	政策形成過程	政策化、施策化、事業化とは（文献研究）	岸
4	政策形成過程	政策化、施策化、事業化のプロセス（演習）	岸
5	政策形成過程	政策化、施策化、事業化のプロセス（演習）	岸
6	政策形成過程	計画立案（演習）	岸
7	政策形成過程	政策形成における予算化（演習）	岸
8	政策形成過程	政策形成における予算化（演習）	岸
9	政策形成過程	政策形成に関するディベート（演習）	岸
10	政策形成過程	政策形成に関するディベート（演習）	岸
11	政策形成過程	「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する（演習）	岸
12	政策形成過程	「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する（演習）	岸
13	施策化事例の分析	施策化の実践事例の分析	岸
14	施策化事例の分析	施策化の実践事例の分析	岸
15	施策化事例の分析	上記演習を題材に「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する（演習）	岸
16	施策化事例の分析	上記演習を題材に「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する（演習）	岸
17	施策化事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	岸
18	施策化事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	岸
19	施策化事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	岸
20	施策化事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析（演習）	岸
21	施策化の実践事例の分析	「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	岸
22	施策化の実践事例の分析	「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	岸
23	施策化の実践事例の分析	上記演習を題材に「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。（演習）	岸
24	施策化の実践事例の分析	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する（演習）	岸
25	施策化の実践事例の分析	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する（演習）	岸
26	施策化の実践事例の分析	健康政策と地域看護活動に対する研究的取組み	岸
27	施策化の実践事例の分析	健康政策と地域看護活動に対する研究的取組み	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ理解と知識の定着をはかる。
授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、（Zoom を用いたリアルタイム配信）にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。
30時間の演習に対して60時間の時間外学習を行う。
学習成果をレポートとしてまとめ提出する。

【7】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題を共有する。

【8】　フィードバック方法

レポート内容は、講義の中で解説し、返却する。
講評や解説（質問の意図、復習が必要な内容等）は、講義中およびActive Academy・クラスルームに掲示する。
レポート内容を3段階で評価し返却する。

【９】　教科書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【10】　参考書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【11】　備考(関連科目等)

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名(日本語)	**国際保健学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Global Health	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

国際保健活動・研究に関する国際的な知見を利用し、博士論文の研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。テーマに関してのレビューを行う。

【３】　到達目標

1. 自身の興味関心を焦点化するためにInternational Journalを網羅的に検索し、情報を取得できる。
2. 文献や関連書籍などから自身の研究課題を焦点化するための情報を抽出できる。
3. 研究テーマを決定し、研究目的を文章化できる。
4. 博士論文の研究テーマに関してのレビュー論文を完成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	ガイダンス	・オリエンテーション	夏原
3-4	準備状況について確認	・Literature Reviews について復習する	夏原
5-20	論文を読む	・各々の興味関心に沿った論文を選択し、事前に他のメンバーにも知らせる ・担当者は、批判的吟味をしながら内容を発表し、質問に答えることで著者の思考過程を追う ・論文から必要な情報を効率よく得るだけでなく、論文執筆のポイントをつかむようにする	夏原
21-27	まとめ	・自己の課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成し、質疑応答を経て完成させる	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間
・30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う。
・論文を読む授業の際は、担当者は抄録の和訳とIntroduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A3用紙2枚程度の資料を人数分準備する。
・担当者は著者の立場で、他の受講生は査読者の立場で論文についてディスカッションする。

【７】　評価方法・基準
・到達目標1-3に関しての取り組み60%、到達目標4（最終レポートとしてレビュー論文を提出)40%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・論文を選択する際には、international journalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。

科目名(日本語)	**国際保健学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Global Health	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	夏原　和美				
担当教員	夏原和美（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える				
オフィスアワー	毎週木曜日12時～12時45分				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、タブレット、書画カメラ、スマートフォン、DVD、デジタルコンテンツ

【２】　授業概要

・国際保健活動・研究に用いられる様々な方法についての実践能力を強化する科目である。
・博士論文の研究計画立案のためのフィールドワークを行う。

【３】　到達目標

１．目的達成に適した研究方法を、疫学、人口学、栄養学、文化人類学等のさまざまな調査方法論を駆使して状況に応じて設定することができる。
２．現場の状況に合わせて研究目的達成のために必要なデータを収集することができる。
３．収集したデータをデータの特性を活かしながら分析できる。
４．分析結果を先行研究に照らし合わせて解釈できる。
５．演習を踏まえて、博士論文完成までの実行可能なスケジュールを作成できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-6	目的を達成させるための方法	院生各々の研究目的を達成するために必要な方法について精査する。	夏原
7-12	質の高いデータ収集	論文から情報を得て、方法論を身につけ、必要な技術の習熟を図る。	夏原
13-22	データ収集方法の調整	データ収集予定地でのフィールドワークを経て研究方法の修正を行う。	夏原
23-27	研究計画書作成	最終レポートとして博士論文の研究計画書の方法の原稿を作成する。	夏原

【６】　事前・事後学習とその時間

・30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
・文献検討は国際保健学特論と同様に行う。
・フィールドワークは充分な準備をもって臨み、学生が主体となって課題を実践する。

【７】　評価方法・基準
・到達目標1と2に関しての取り組み30%、到達目標3-5に関しての取り組み40%、最終レポート30%から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
授業時に口頭でフィードバックを行う。

【９】　教科書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【10】　参考書
必要時、文献、書籍などを提示する。

【11】　備考(関連科目等)
・授業形式(対面・遠隔)は履修者との相談に応じて決定する。
・フィールドワークの準備は言語の習得、調査許可取得を含めて各自の責任で取り組むこと。

科目名(日本語)	**精神看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子keiko.itou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【２】　授業概要

精神保健医療福祉に関連する文献検討を通して、現代の精神保健・精神看護に関する課題と対策について思考し、各自が取り組みたい研究テーマの焦点化ができるように教授する。

【３】　到達目標

1.文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握することができる。
2.精神保健医療福祉の現象を広く概観した上で、自らが探求したいテーマを見出すことができる。
3.探求したい現象を明らかにするための研究上のアプローチ方法について探求できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。
博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。
博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神保健福祉医療に関する動向の概観①	探求したい現象や研究課題について討論する	伊藤
2 - 3	精神保健福祉医療に関する動向の概観②	自らが探求したい研究課題の俯瞰図を作成し、関連する要因を整理する	伊藤
4 - 5	精神保健福祉医療に関する文献検討①	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
6 - 7	精神保健福祉医療に関する文献検討②	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
8 - 9	精神保健福祉医療に関する文献検討③	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
10 - 11	精神保健福祉医療に関する文献検討④	文献検討を通して、精神保健医療福祉に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	伊藤
12 - 13	研究課題に関する文献検討①	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
14 - 15	研究課題に関する文献検討②	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
16 - 17	研究課題に関する文献検討③	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
18 - 19	研究課題に関する文献検討④	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
20 - 21	研究課題に関する文献検討⑤	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	伊藤
22 - 23	研究方法に関する文献検討①	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	伊藤
24 - 25	研究方法に関する文献検討②	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	伊藤
26 - 27	まとめ	自己の研究課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成して、プレゼンテーションを行う	伊藤

【６】　事前・事後学習とその時間

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。
エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**精神看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Mental Health and Psychiatric Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	伊藤　桂子				
担当教員	伊藤桂子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	伊藤桂子keiko.itou■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：45～13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Googleclassroom, zoom, pc

【２】　授業概要

精神保健・精神看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。
研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行い、看護学特別研究へつながるように教授する。

【３】　到達目標

１．精神保健・精神看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討できる。
２．予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	課題とするテーマの明確化	自己の研究課題とするテーマを明確にする	伊藤
2-3	研究対象の検討①	これまでの文献検討を通して、研究対象を明確にする	伊藤
4-5	研究対象の検討②	これまでの文献検討を通して、研究対象を明確にする	伊藤
6-7	フィールドワーク計画立案①	フィールドワークにおける演習計画を立案する	伊藤
8-9	フィールドワーク計画立案②	フィールドワークにおける演習計画を立案する	伊藤
10-11	フィールドワーク①	フィールドワークを実施する	伊藤
12-13	フィールドワーク②	フィールドワークを実施する	伊藤
14-15	フィールドワーク③	フィールドワークを実施する	伊藤
16-17	フィールドワーク④	フィールドワークを実施する	伊藤
18-19	研究課題の明確化①	研究課題に関連する現象を構成する概念を抽出する	伊藤
20-21	研究課題の明確化②	研究課題に関連する現象を構成する概念を明確にする	伊藤
22-23	研究計画書の作成①	自己の研究課題を明らかにするための適切なデザイン、方法を検討し研究計画を作成する	伊藤
24-25	研究計画書の作成②	自己の研究課題を明らかにするための適切なデザイン、方法を検討し研究計画を作成する	伊藤
26-27	研究計画の発表	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	伊藤

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドワークは充分な準備をもって臨み、学生が主体的に取り組む。
エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う。
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。
30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（20%）、プレゼンテーション（60%）、レポート（20%）で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

講義内で講評や解釈を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて適宜紹介する。

【10】　参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形式（対面・遠隔）は履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Community Health Nursing	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

概念分析の哲学的基盤を理解した上で、文献検討およびクリティークにより公衆衛生看護学関連分野の概念を科学的に分析し批判的に思考できる方法論を習得する。また公衆衛生看護学で活用できる理論・ツールについて検討し、課題解決の方法について探求する。

【３】　到達目標

１．公衆衛生看護学関連分野の概念を科学的に分析する方法を説明できる。
２．文献レビューを通して、現在の概念の用いられ方について根拠を示しながら説明できる。
３．公衆衛生看護学で活用できる理論・ツールについて検討し、課題解決の方法について具体的に述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念（1）	岸
3	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念（2）	岸
4	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念（3）	岸
5	概念分析	公衆衛生看護学における概念（4）	岸
6	概念分析	公衆衛生看護学における概念（5）	岸
7	概念分析	概念分析（1）	岸
8	概念分析	概念分析（2）	岸
9	概念分析	概念分析（3）	岸
10	概念分析	概念分析（4）	岸
11	概念分析	概念分析（5）	岸
12	概念分析	概念分析（6）	岸
13	概念分析	概念分析（7）	岸
14	概念分析	概念分析（8）	岸
15	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（1）	岸
16	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（2）	岸
17	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（3）	岸
18	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（4）	岸
19	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（5）	岸
20	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論（6）	岸
21	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（1）	岸
22	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（2）	岸
23	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（3）	岸
24	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（4）	岸
25	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（5）	岸
26	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（6）	岸
27	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価（7）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の講義に対して、60時間の時間外学習を行う。
学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。
文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

Rodgers BL,Knafl KA.(2000).Concept Development in Nursing.

【10】　参考書

Rodgers BL,Knafl KA.(2000).Concept Development in Nursing.

【11】　備考(関連科目等)

授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Seminar in Community Health Nursing	選択	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	岸　恵美子				
担当教員	岸恵美子（看護学研究科・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日、13:30～14:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google クラスルーム, Google Forms等

【２】　授業概要

文献検討やフィールドワークを通して、地域の健康課題を探求し、さらに、個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を探求する。

【３】　到達目標

１．文献検討やフィールドワークを通して、地域の健康課題を説明できる。
２．個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程２．実践・研究・教育の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【5】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護におけるアセスメント	岸
3	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護計画の立案	岸
4	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における評価	岸
5	公衆衛生看護活動の展開	地域ケアシステムの構築	岸
6	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における管理（1）	岸
7	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における管理（2）	岸
8	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（1）	岸
9		文献検討を踏まえた演習計画立案（2）	岸
10	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（3）	岸
11	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（4）	岸
12	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（5）	岸
13	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案（6）	岸
14	フィールドワーク	フィールドワーク（1）	岸
15	フィールドワーク	フィールドワーク（2）	岸
16	フィールドワーク	フィールドワーク（3）	
17	フィールドワーク	フィールドワーク（4）	
18	フィールドワーク	フィールドワーク（5）	
19	フィールドワーク	フィールドワーク（6）	
20	フィールドワーク	フィールドワーク（7）	
21	フィールドワーク	フィールドワーク（8）	
22	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（1）	岸
23	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（2）	岸
24	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（3）	岸
25	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（4）	岸
26	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（5）	岸
27	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討（6）	岸

【6】　事前・事後学習とその時間

30時間の演習に対して、60時間の時間外学習を行う。
学習成果をレポートとしてまとめ提出する。

【7】　評価方法・基準

講義・演習への取り組み（20%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（40%）で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【8】　フィードバック方法

プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【9】　教科書

別途提示する。

【10】　参考書

別途提示する。

【11】　備考(関連科目等)

授業形態は、対面形式と遠隔形式を組み合わせて実施する。
遠隔形式の場合には、Zoom を用いたリアルタイム配信にて実施する。
対面形式・遠隔形式については、履修者との相談に応じて決定する。

科目名(日本語)	**医療言語論特講**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Advanced Studies of Medical Discourse	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	平田　松吾				
担当教員	平田松吾（看護学研究科・非常勤講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	平田松吾atarich■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	講義終了後				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

医療現場はさまざまな様態の言語が飛び交う場としてとらえることができる。科学（医療）の言語はその一部をなしているにすぎない。講義では、テキストの精密な読解を通じて、比喩・たとえ話・祈り・告白等のさまざまな言語の様態を考察し、それらと比較しながら科学的言語の特性・限界を明らかにすることを試みる。テクスト解釈での言語の認識問題などを取り上げることで、質的研究での「言葉」の持つ役割について探究する。
以上の作業を通じて近年いっそう注目を集めつつあるナラティブ（物語）の意義を明らかにする。

【３】　到達目標

言語のさまざまな側面を知的に把握して考察する能力とともに、多様な言語活動の場である医療を、医療プロパーの視点を越えるより広い視野の中にとらえ直す高度な能力を養う。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1	言語活動の多様性	言語に関する諸問題の俯瞰を以て講義全体のイントロダクションとする	平田
2-3	ソシュールの言語論(1)	ソシュールの言語論(1)	平田
4-5	ソシュールの言語論(2)	ソシュールの言語論(2)	平田
6-7	科学的言語と説得(1)	『アリストテレス弁論術』を中心に、科学的言語と真理・説得の問題を考察する	平田
8-9	科学的言語と説得(2)	『アリストテレス弁論術』を中心に、科学的言語と真理・説得の問題を考察する	平田
10-11	比喩とは何か	比喩論と医療の関係を考察する	平田
12-13	隠喩と科学	科学的思考と隠喩の関係を考察する	平田
14-15	たとえ話・ことわざとは何か		平田
16-17	祈り・誓いとは何か	祈り・誓いとは何か	平田
18-19	医療における言語の多様性	医療における言語の多様性	平田
20-21	病の隠喩	その広がりと問題	平田
22-23	終末期医療における語りの考察(1)	Kleinman, The Illness Narratives を中心に	平田
24-25	終末期医療における語りの考察(2)	Kleinman, The Illness Narratives を中心に	平田
26	治癒と語りの関係	治癒と語りの関係	平田
27	講義内容のまとめを行う	講義内容のまとめを行う	平田

【６】　事前・事後学習とその時間
参考書目に目を通すことが望ましい。

【７】　評価方法・基準
出席30%、授業中の態度や取組み20%、レポート50%

【８】　フィードバック方法
テキストの読解をもとに講義を進め、学生とともにディスカッションを行う。英文のテキストの精密な読みの訓練も含まれる。

【９】　教科書
プリント形式で適宜配布する。

【10】　参考書
1) アリストテレス（岩田靖夫訳）『弁論術』岩波文庫
2) 丸山圭三郎　『ソシュールを読む』岩波書店

【11】　備考(関連科目等)
英文のテキストも読むが、学生の英語力に応じた対応をする。英語がことさら得意である必要はない。

科目名(日本語)	**看護理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Theory	選択	講義	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	菊池　麻由美				
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授） 永田明（愛媛大学・教授）				
科目責任者 連絡先(教室)	菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30-13：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。また、理論の構造を学修し、自分の関心領域の理論・概念の開発に向けた探求を行う。看護学の哲学的基盤を発展させるために、理論や概念を批判的に吟味する能力を養い、理論分析・構築の方法を修得する。

【３】　到達目標

1)看護科学の哲学的基盤について述べることができる
2)概念分析の方法や理論クリティークの方法を身につけ、理論を分析できる
3)理論構築の方法を説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士後期課程１．高い専門性の基盤となる幅広い知識をもち、学際的かつ科学的な新しい方略を提言する能力を有し、論理的思考に基づいて課題を解決できる。

博士後期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究・教育の場で倫理的な行動をとることができる。

博士後期課程４．学際的かつ科学的な視点で研究課題を分析し、社会を変革するための成果を生み出す能力を有し、生涯にわたり自己研鑽できる。

博士後期課程５．広い視野に立った学識を有し、高度な看護実践、研究・教育活動を通して社会の変革に寄与できる能力を有する。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-4	看護学の理論体系の発展経緯	科目のオリエンテーション 看護学における理論と実践、研究の関係 思想史・科学史 看護における理論開発の歴史 理論の基盤・認識論	菊池
5 - 10	理論と概念	理論開発のレベル 理論開発の要素。アプローチ 概念開発 目的と使用 概念分析 概念分析の方法 概念分析の手順	永田
11-13	理論の基本的成り立ちと理論の構造	看護理論の機能と構造 理論のクリティーク	菊池
14-16	概念分析	概念分析の具体例 ・概念分析の方法 ・適切／不適切例	永田
17-19	理論開発：中範囲理論	理論開発の実際：「コンフォート理論」	永田
20-22	看護理論のクリティーク	プレゼンテーションと討議 関心領域の理論を取り上げた理論や概念のクリティークの実践	菊池
23-24	理論開発：状況特定理論	理論開発の実際：未定	菊池・永田
25-27	概念分析	プレゼンテーションと討議 関心領域の概念を取り上げた概念分析の実践 まとめ：理論の開発と活用	永田

【６】　事前・事後学習とその時間

30 時間の講義に対して、60 時間の時間外学習を行う 。

【７】　評価方法・基準

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【８】　フィードバック方法

課題、プレゼンテーションに対して授業内で講評し、課題の共有を行う

【９】　教科書

Meleis, A. I.(2017). Theoretical nursing: Development and Progress (6th Revised Ed.).Philadelphia: Lippincott Co..
Meleis, A. I. (著), 中木 高夫 (翻訳), 北 素子 (翻訳), 谷津 裕子 (翻訳), 濱田 真由美 (翻訳),セオレティカル・ナーシング 原著第6版-看護理論の開発と進歩, 看護の科学社.

【10】　参考書

筒井真優美編集(2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院
JacquelineFawcett、著、大田喜久子筒井真優美訳：看護理論の分析と評価, 医学書院.
Lorraine Olszewski Walker/Kay Coalson Avant 著, 中木高夫　川﨑修一訳：看護における理論構築の方法. 医学書院.

【11】　備考(関連科目等)

授業形式は一部遠隔形式を取り入れる。
各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

科目名(日本語)	**多職種連携・協働演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Interprofessional Collaboration	選択	演習	1年次･春	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）岸恵美子（看護学研究科・教授） 御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子連絡先：yokoiyk■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00 他の日時も対応可。その場合は事前にメールで連絡すること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

地域包括ケアを構成している各医療・ケア提供の場に赴き、「生活支援」「家族支援」「看護実践力」「地域アセスメント」「ケー スマネジメント」等の視点で分析する能力を養う。
＊受講者を看護職と限定しない。

【３】　到達目標

1. 多職種連携・協働に関する文献検討を行いながら問いを立て、フィールドワークを行い自身の立てた問いについて仮説を立てながら課題を見出すことができる。
2. 1で見出した課題を「生活支援」「家族支援」「医療ケア提供力」「地域アセスメント」「ケースマネジメント」等の視点から分析、考察することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	多職種連携・協働の現状と課題	本科目のオリエンテーション 参考文献（こちらから提供）を読み、 1.自身の職場での他職種との関係を振り返る。 2.生活者である対象が病を持ちながら暮らしを継続するために関わる職種に焦点を当て、多職種連携・協働に対する「問い」をたてる。	横井・御任・岸
4-5	生活者に関わる多職種連携・協働（1）	ゲスト招聘、話題提供（できるだけ受講生と異なる職種の方） 前回たてた「問い」を再考する	横井・御任・岸
6-7	生活者に関わる多職種連携・協働（2）	ゲスト招聘、話題提供（できるだけ受講生と異なる職種の方） 前回たてた「問い」を再考する	横井・御任・岸
8	フィールドワークの計画立案	フィールドワークの計画・調整	横井・御任
9-22	フィールドワーク	フィールドは2箇所程度を予定（1箇所/日）	横井
23-25	フィールドノーツ分析		横井、御任
26-27	多職種との連携とは、協働とは	生活者に関わる多職種の「連携」と「協働」の在り方について、自身の学びをいかしながら討議を通して再考する。	横井、御任、岸

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドワークの計画は、学生自ら立案し、教員の指導を得て現場に臨む。現場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。

30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

フィールドワークへの取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

対面方式と遠隔方式を組み合わせて実施する。

フィールドワークの場所、日程はできるだけ調整するが希望に添えない場合もある。

科目名(日本語)	**看護専門職連携演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Seminar in Nursing Collaboration	必修	演習	1年次･秋	2単位 30時間
科目責任者	横井　郁子				
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）橋本　裕（看護学部・講師）御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師）鈴木　央（鈴木内科医院・院長・非常勤講師）田中千賀子（田園調布医師会立訪問看護ステーション・所長・非常勤講師） 鈴木央（鈴木内科医院・院長）				
科目責任者 連絡先(教室)	横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp ※■を@に置き換える。				
オフィスアワー	毎週木曜日12：30～13：00 他の日時も対応可。その場合は事前にメールで連絡すること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

コンピューター、大学で整備された情報通信ネットワーク

【２】　授業概要

さまざまな場の看護職が「治す医療」「支える医療」のために何をどのようにつなげていくか、フィールドワーク等をいかしながら課題を見出していく。

【３】　到達目標

1. 看護職を対象とした文献を検討しながら、看護職間の連携について多角的な視点で分析し、考察することができる。
2. 問いを立てながらフィールドワークを行い、フィールドノーツの分析、課題を見出すことができる。
3. 1、2を踏まえて、看護対象者を支えるための連携について論述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

博士前期課程２．実践・研究の場で他者との信頼関係を築き、協働できる。

博士前期課程３．生命に対し畏敬と尊厳の念を抱き、根拠に基づいて実践・研究の場で倫理的な行動をとることができる。

【５】　授業計画

	項目	内容	担当教員
1-2	医療連携、看護職連携の課題	本科目のオリエンテーション 参考文献（こちらから提供）を読み、 1.　　自身の職場での看護実践、他部署の看護職との関係を振り返る。 2.　　生活者である患者が元の暮らしに戻ることを再認識し、「場の異なる看護職の連携」に焦点を当て「問い」をたてる。	横井、御任
3-4	急性期病院看護外来看護師からみた医療連携	講義および事例検討	橋本
5-6	訪問看護師からみた医療連携	講義および事例検討	田中
7-8	在宅医からみた医療連携	講義および事例検討	鈴木
9-15	地域医療の現状と課題-地域医療のフィールドワーク-	2カ所程度を予定 例：訪問看護ステーション、マギーズ東京、暮らしの保健室他	横井
16-19	急性期病院の現状と課題-急性期病院等のフィールドワーク-	橋本先生の高齢者看護外来見学予定	横井、橋本
20-21	フィールドノーツ分析（地域医療編）	フィールドワークに際してたてた「問い」に対するプレゼンテーション	横井、御任
22-23	フィールドノーツ分析（急性期医療編）	フィールドワークに際してたてた「問い」に対するプレゼンテーション	横井、御任
24-27	対象者の選択に関わる看護職連携	「対象者の選択に関わる看護職連携」についてのプレゼンテーション ゲストとざまざまな看護実践の場の管理者・研究者等をゲストに迎え、ディスカッション	横井、御任

【６】　事前・事後学習とその時間

フィールドワークの計画は学生自ら立案し、教員の指導を得て現場に臨む。現場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。30 時間の演習に対して、60 時間の時間外学習を行う。

【７】　評価方法・基準

演習への取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【９】　教科書

必要に応じて提示する。

【10】　参考書

必要に応じて提示する。

【11】　備考(関連科目等)

対面方式と遠隔形式を組み合わせて実施する。